亀岡市

インターナショナルセーフスクールネットワークメンバー認証申請書

亀岡市立 八保育所

亀岡市

2015 年 5 月

第一章

亀岡市の概要

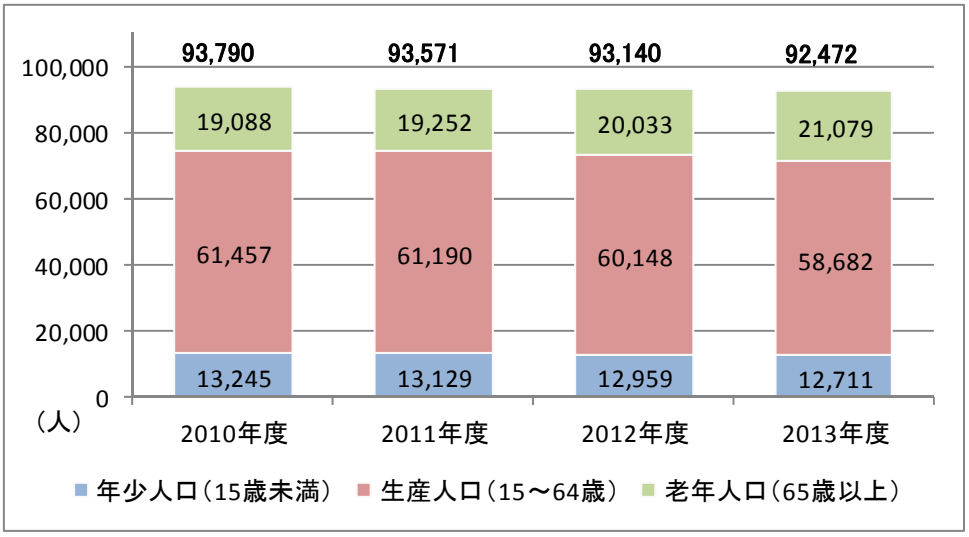
1　亀岡市の地理的状況及び人口構成

亀岡市は、京都府のほぼ中央に位置し、北は南丹市、東は京都市、南と西は大阪府に接しており、兵庫県とも近い距離にあり、大都市から近い一方で山に囲まれ自然豊かなまちです。

亀岡市の人口は、91,548 人（平成 27 年 1 月 1 日現在）で、近年人口は緩やかに減少しています。年少人口・生産人口が減少するとともに、老年人口が増加しており、少子高齢化が進んでいます。（図-1）

図-1　亀岡市における人口の推移

出典：亀岡市の人口推計（各年 4 月 1 日現在）



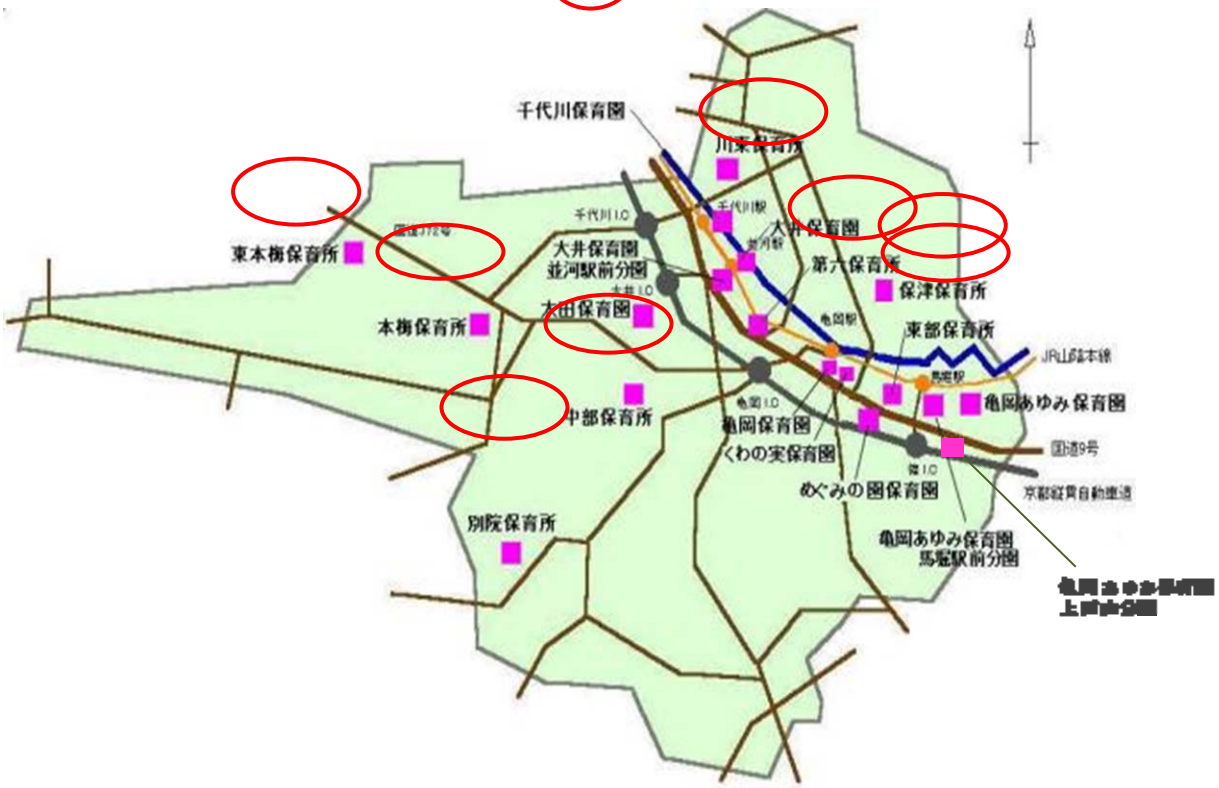
2　亀岡市における就学前児童を取り巻く環境

亀岡市では、地域において子育てを支援する体制の充実に取り組んでおり、表-1 の施設を整備しています。図-2 は、亀岡市内の保育所（園）の位置を示した地図です。

表 1　亀岡市内の就学前児童の育成に関わる施設一覧

施設名		施設概要	設置数
保育所（園）	市立	何らかの理由によって十分な保育が受けられない 0 歳から小学校入学前までの乳幼児を対象として保育を行う。	8 箇所
	私立		7 箇所
幼稚園	市立	満 3 歳から小学校就学までの幼児を教育し、年齢に相応しい適切な環境を整え、心身の発達を助長するための教育を行う。	1 箇所
	私立		4 箇所
子育て支援センター・ 地域子育てひろば		地域の子育て家庭に対する育児支援を行う。	5 箇所
ファミリー・サポート・ センター		乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。	1 箇所
病児保育室		保育所へ通所中などの子どもが病気になって集団保育が困難な期間に、保護者が仕事などにより家庭で保育することができないときに、診療所に付設された保育ルームで一時的に保育を行う。	1 箇所
児童館		児童に対する遊びの場の提供など、心身ともに健やかな児童の育成を図る。	6 箇所
図書館（分館・分室含む）		児童書などの提供を行う。	6 箇所
家庭児童相談室		子育てについての相談（子どもの生活習慣やしつけ、不登校、非行そのほか、発達上気になることならびに児童虐待に関することなど）を行う。	1 箇所
保健センター		地域における母子保健を担っており、乳幼児健診や子育てに関する相談を行う。	1 箇所

図-2　亀岡市内の保育所（園）の位置図　　…亀岡市立保育所



3　市立保育所の概要

市立保育所は、郊外に設置されているところが多く（図-5）、園児数は減少傾向にありますが、地域の子育て拠点としても機能しています。

表 2　亀岡市立保育所の状況（園児数は 2015 年 3 月時点）

保育所名	開設年月	住所	定員	園児数
本梅保育所	1955 年 5 月	本梅町	120 人	36 人
東本梅保育所	1957 年 7 月	東本梅町	70 人	34 人
川東保育所	1957 年 7 月	馬路町	150 人	94 人
中部保育所	1971 年 5 月	曽我部町	90 人	66 人
東部保育所	1972 年 6 月	篠町	150 人	168 人
第六保育所	1976 年 5 月	北河原町	240 人	172 人
別院保育所	1977 年 6 月	東別院町	60 人	26 人
保津保育所	1980 年 4 月	保津町	70 人	33 人
計			950 人	629 人

4　亀岡市における就学前児童の概要

就学前（0 歳～5 歳）の児童数は、緩やかに減少しています（図-3）。しかしながら、就学前施設（認可保育所（園）・幼稚園）全体として、こどもの在籍割合は増加しています。（図-4）

図-3　亀岡市における年齢別就学前児童数

出典：亀岡市環境市民部市民課データ（各年 4 月 1 日現在）

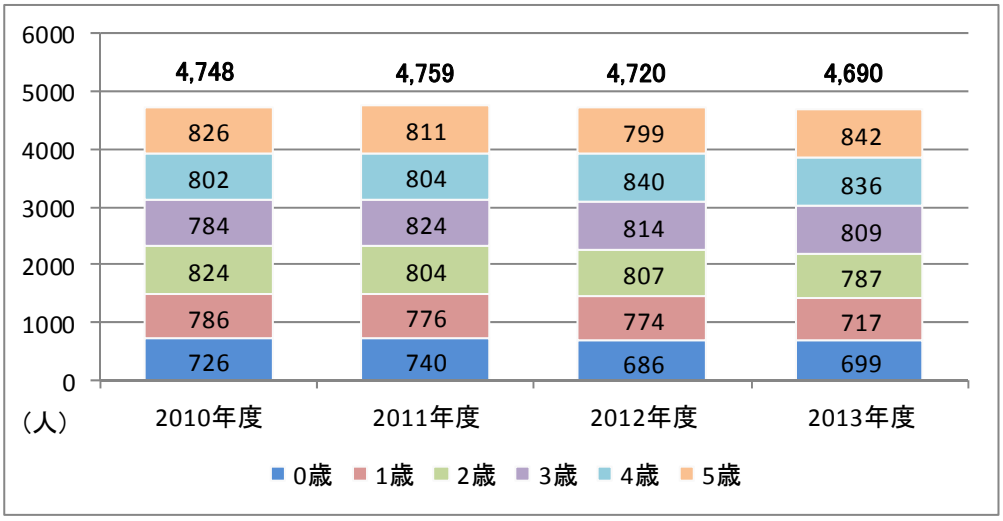
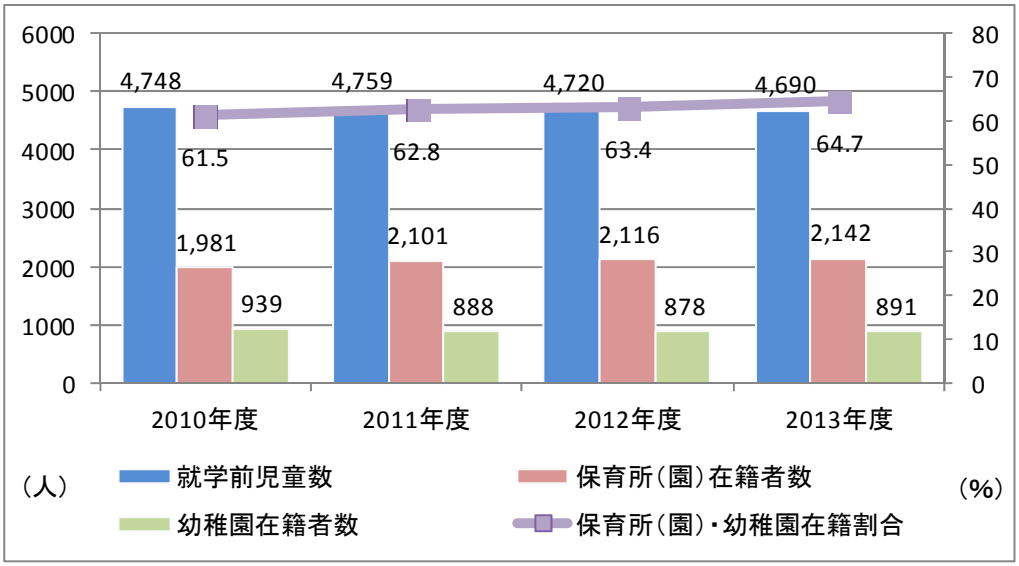


図-4　亀岡市における就学前児童数と保育所（園）・幼稚園の在籍者数

出典：亀岡市教育委員会及び亀岡市健康福祉部子育て支援課データ

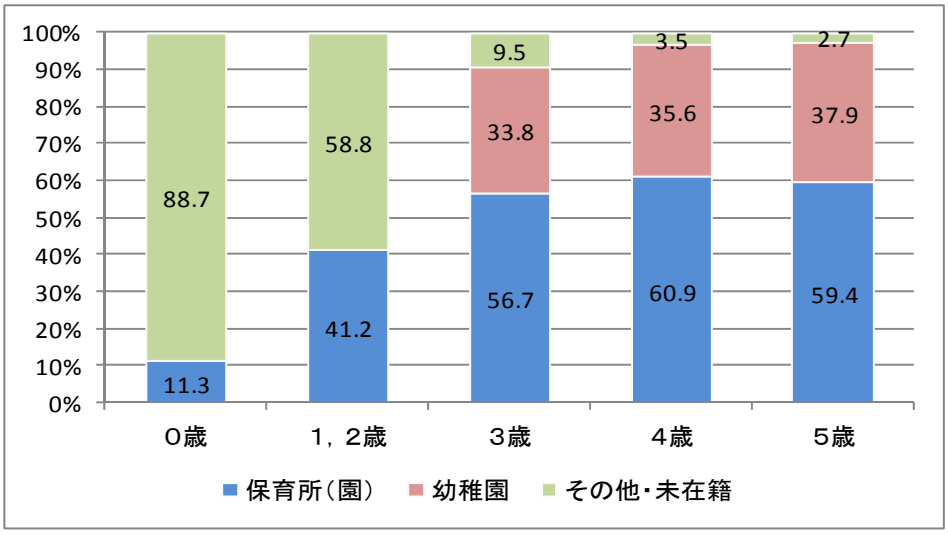
（各年 4 月 1 日現在、幼稚園は 5 月 1 日現在）



3 歳になると、就学前施設に在籍者割合が急激に増加し、未就学率も 1,2 歳の約 60%から、約 10%となります。(図-5) 多くの子どもたちが一日の大半を就学前施設で過ごすようになるため、安全安心な保育所づくりに取り組むことは、子どもたち全てに関わる重要な取り組みとなります。

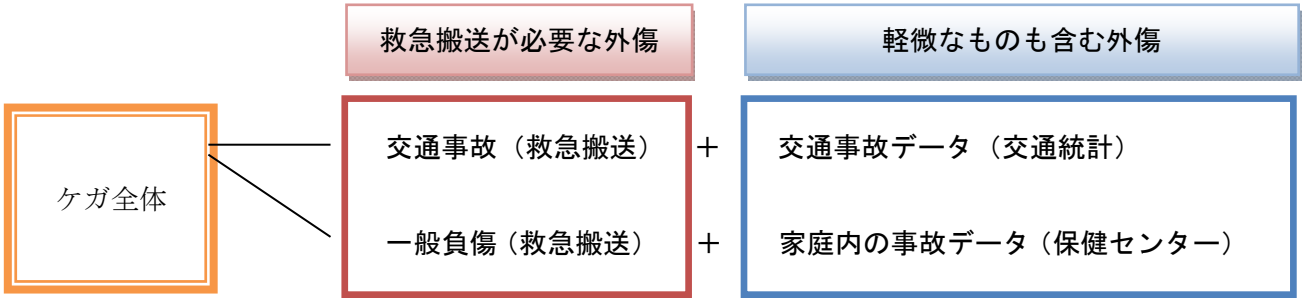
図-5　各歳児の施設在籍状況

出典：亀岡市の人口推計（2013 年 4 月 1 日）
亀岡市教育委員会及び亀岡市健康福祉部子育て支援課データ
（2013 年 5 月 1 日）



５　就学前児童の外傷状況

＜外傷の全体像＞



＜救急搬送の状況＞

就学前児童の救急搬送状況ですが、数は徐々に増加しており、「一般外傷」と「交通事故（自転車事故も含む）」による搬送が増加しています。（図-6）「一般外傷」は、住居での受傷が最も多く、ついで公衆場所（保育所や公園など）となっています。（図-7）

図-6　全体の救急搬送データ（0～5 歳）

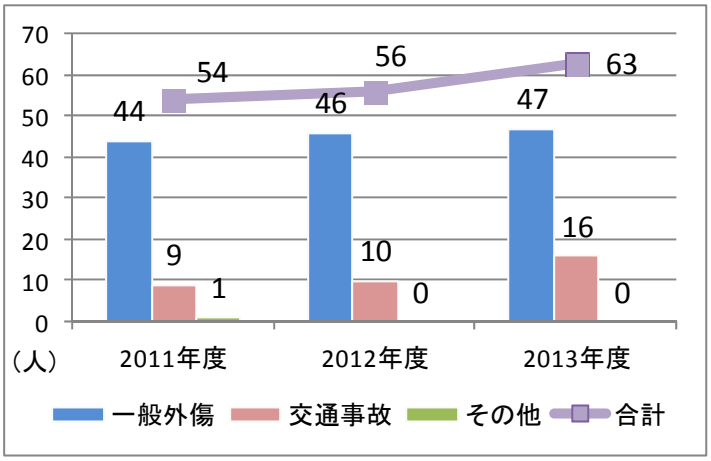
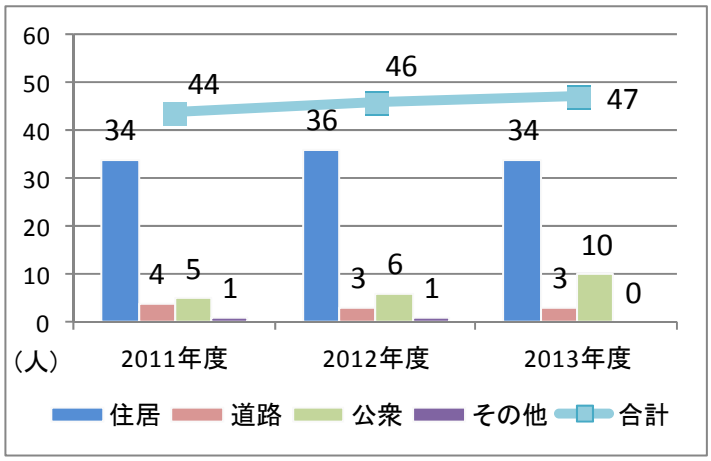


図-7　一般外傷の救急搬送データ（0～5 歳）



出典：亀岡消防署救急搬送データ（2011～2013 年）

＜交通事故の状況＞

2008 年から増加傾向にある就学前児童の交通事故（自動車）件数ですが、事故数が多かった 2009 年、2011 年と比較すると、2012 年以降は減少しています。（図-8）

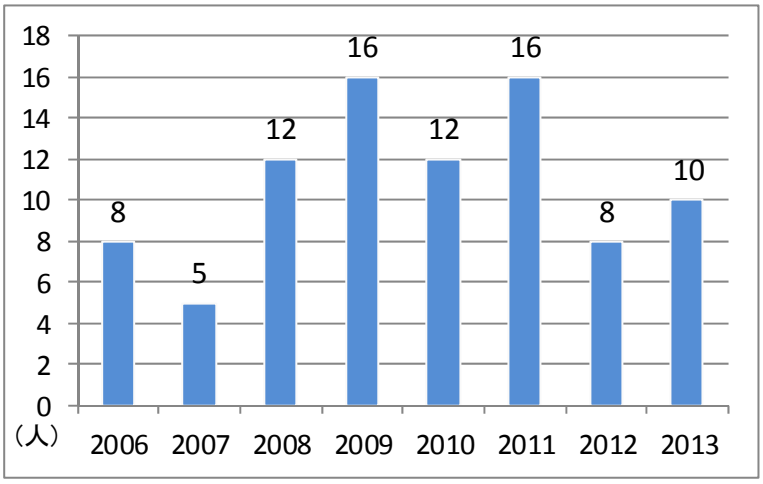


図-8　就学前児童（0～5 歳）の交通事故（自動車）負傷者数

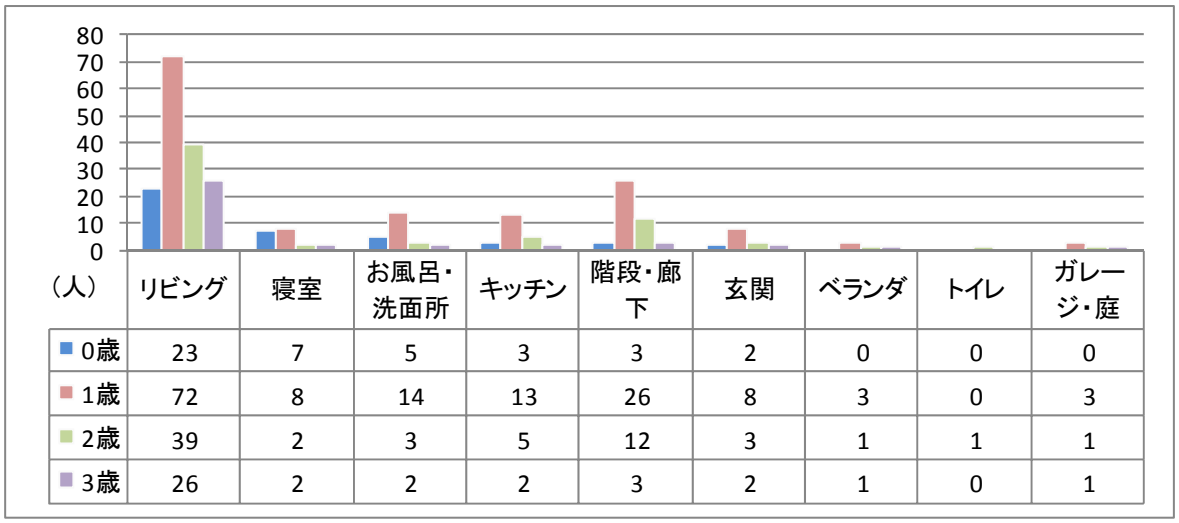
出典：交通統計（2006～2013 年）

＜家庭内の事故の状況＞

亀岡市保健センターでの 0 歳～3 歳児の乳幼児健診時に調査した家庭内外傷のデータです。1 歳児の受傷が多くみられ、その原因は、転倒・転落が特に多く、やけど、誤飲・窒息と続きます。（図 9, 10）しかし、2 歳児、3 歳児と年齢が増すごとにその数は減少しています。

図-9　家庭内の受傷状況（発生場所）

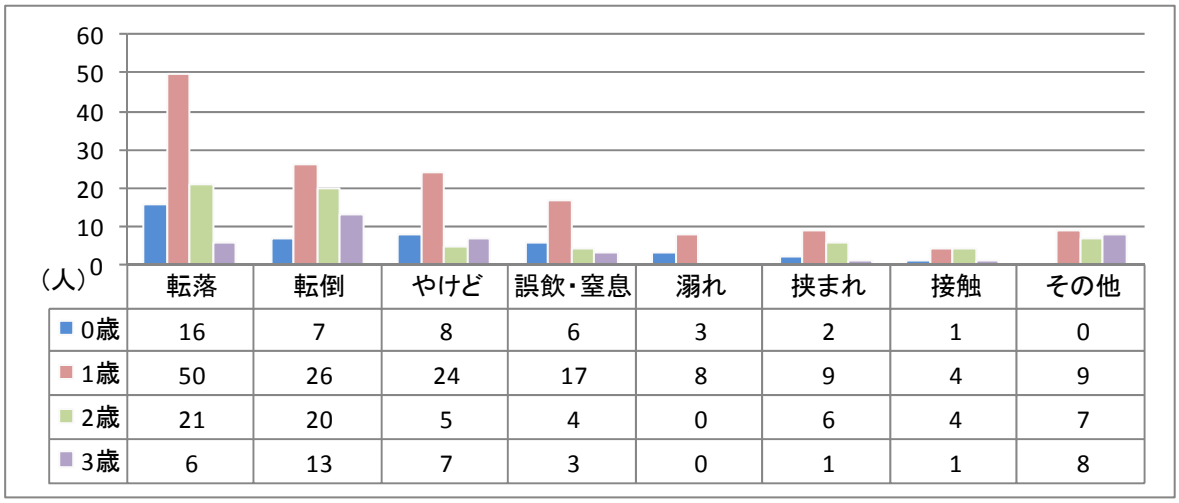
出典：亀岡市保健センター家庭内事故調査アンケート（2012 年 2 月～2013 年 1 月）



	リビング	寝室	お風呂・洗面所	キッチン	階段・廊下	玄関	ベランダ	トイレ	ガレージ・庭
0歳	23	7	5	3	3	2	0	0	0
1歳	72	8	14	13	26	8	3	0	3
2歳	39	2	3	5	12	3	1	1	1
3歳	26	2	2	2	3	2	1	0	1

図-10　家庭内の受傷状況（受傷種類）

出典：亀岡市保健センター家庭内事故調査アンケート（2012 年 2 月～2013 年 1 月）



	転落	転倒	やけど	誤飲・窒息	溺れ	挟まれ	接触	その他
0歳	16	7	8	6	3	2	1	0
1歳	50	26	24	17	8	9	4	9
2歳	21	20	5	4	0	6	4	7
3歳	6	13	7	3	0	1	1	8

＜児童虐待の状況＞

亀岡市の児童虐待（0～17 歳）に関する新規の相談受理数は増加傾向にあり（図-11）、市民の児童虐待への意識が高まっているのと同時に、子育てに悩む家庭の増加が背景にあると考えられます。

虐待の種類としては、心理的虐待が最も多く、2004 年の児童虐待防止法の改正により、DV を目撃することも心理的虐待に加えられたため、多くなっていると考えられます。主たる虐待者は実母と実父で大半を占めており（図-13）、家庭の孤立感が高まっていることが伺えます。

図-11　児童虐待相談受理件数の推移

出典：亀岡市家庭児童相談室相談データ（2009～2013 年度）

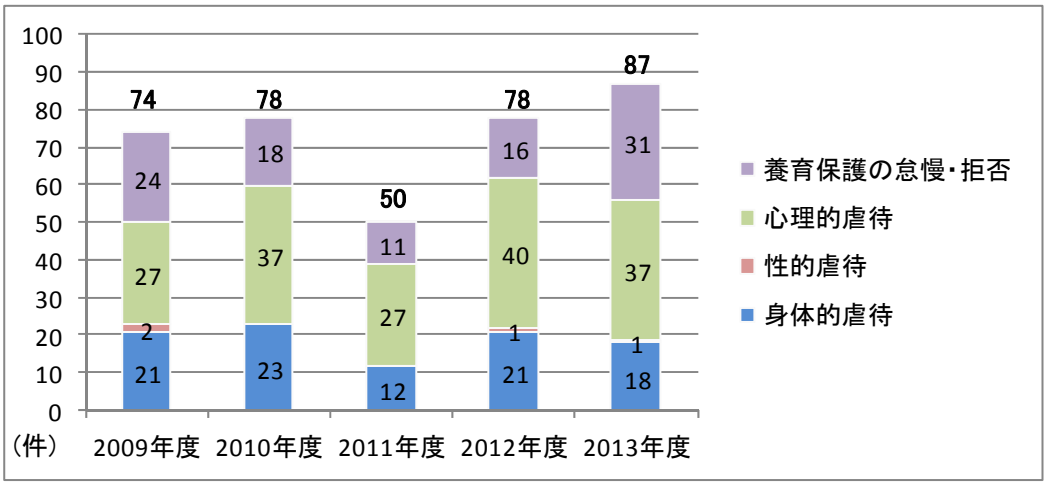
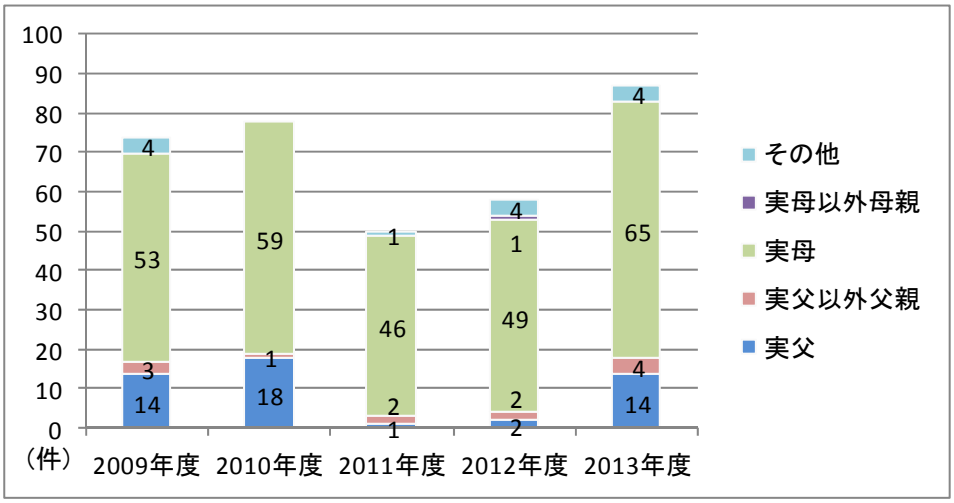


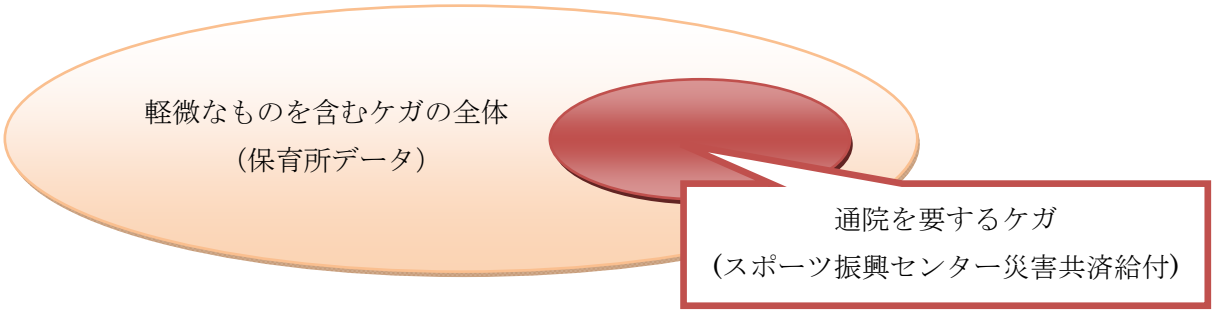
図-12　児童虐待相談受理したものの主たる虐待者

出典：亀岡市家庭児童相談室相談データ（2009～2013 年度）



６　市立保育所での外傷発生状況

＜外傷の全体像＞



※スポーツ振興センター災害共済給付とは、園児が保育所の管理下でケガなどをしたときに、保護者に対して、給付金（災害共済給付）を支払う制度です。

＜通院を要するケガ＞

通院を要するケガは、年々減少しており、特に取組宣言をした 2013 年は大きく減少しています。（図-13）受傷場所としては、園舎内が多く、特に保育室での受傷が多くなっています。（図-14）園舎外では、園庭、遊戯施設での受傷が多くなっています。（図-15）

図-13　通院を要するケガ（スポーツ振興センター災害共済給付状況〔負傷のみ、調剤除く〕）
出典：亀岡市立保育所スポーツ振興センター災害共済申請データ（2011～2013 年度）

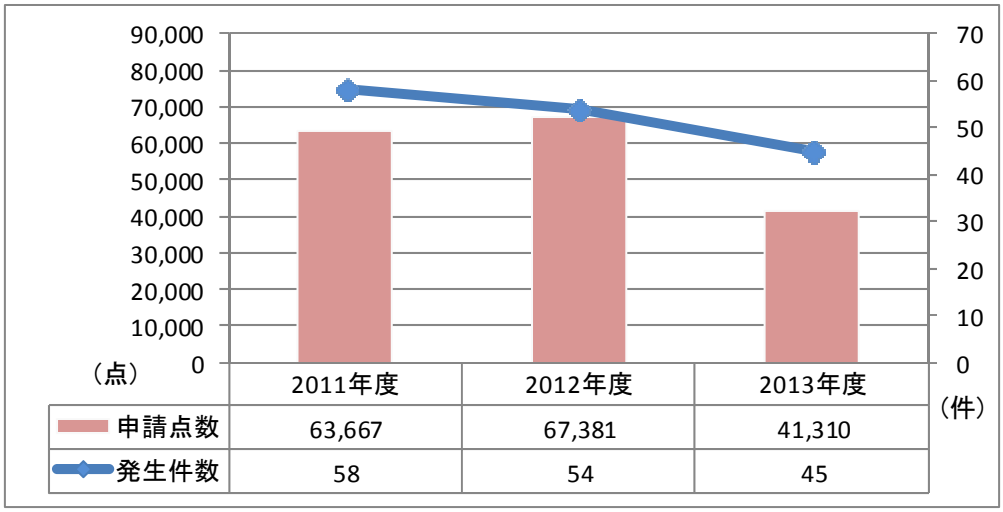


図-14　スポーツ振興センター災害共済給付状況（年齢・場所（園舎外）別）

出典：亀岡市立保育所スポーツ振興センター災害共済申請データ（2011～2013 年度）

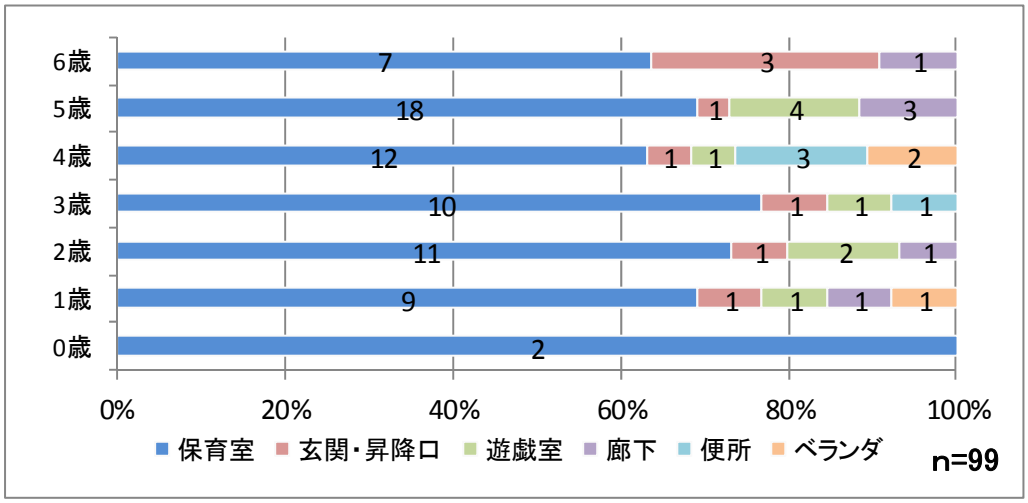
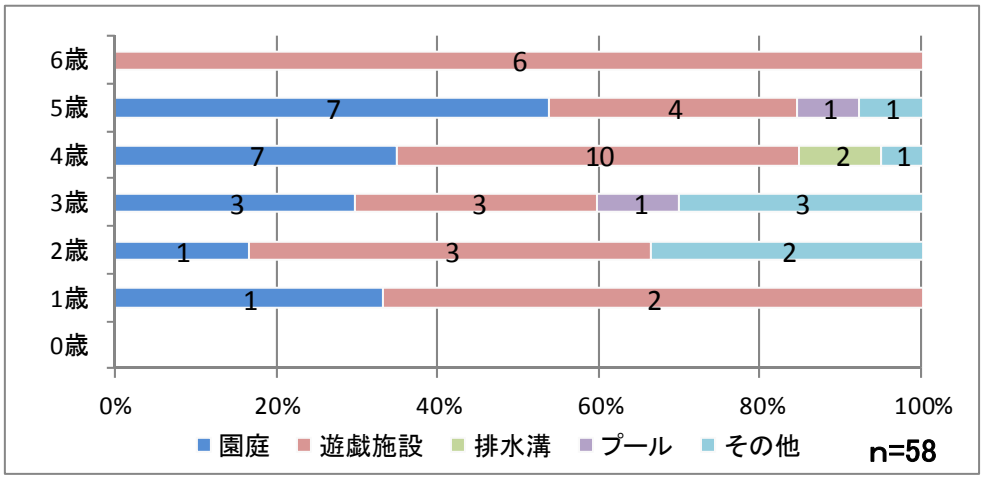


図-15　スポーツ振興センター災害共済給付状況（年齢・場所（園舎内）別）

出典：亀岡市立保育所スポーツ振興センター災害共済申請データ（2011～2013 年度）



＜軽微なものも含む外傷の状況＞

外傷数全体においては、2012 年に取り組みを始めて、2013 年度は少し減少が見られました。(図-16)図-17 からは、保育所ごとに特徴があることが分かります。

詳細な分析については、各保育所の取組のところで説明しています。

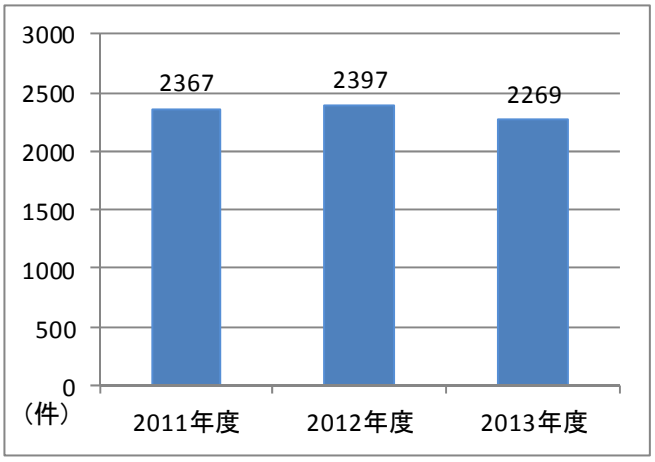


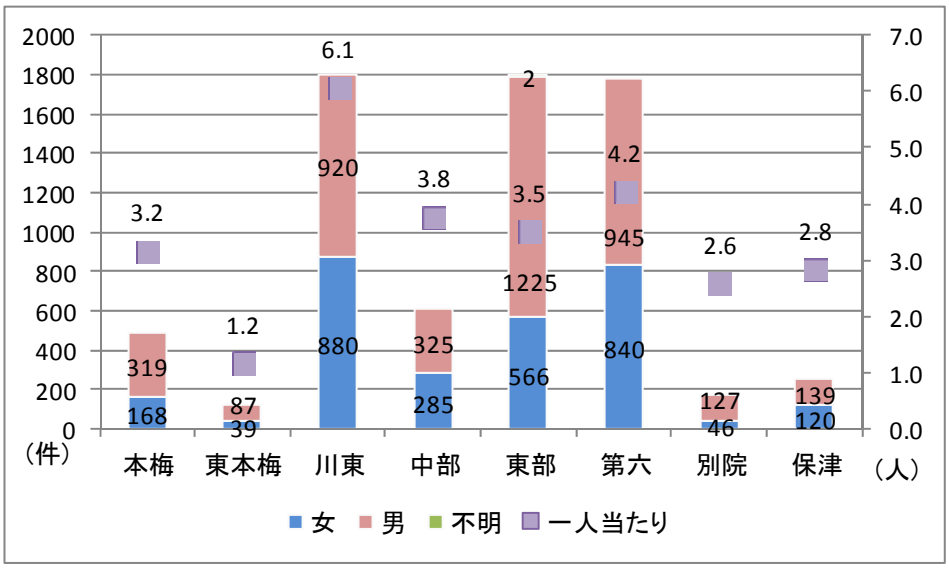
図-16　市立保育所における外傷状況

出典：市立保育所外傷データ

（2011～2013 年度）

図-17　市立保育所における外傷状況

出典：市立保育所外傷データ（2011～2013 年度）



第二章

インターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）への取り組み

１　取組の背景

亀岡市では、セーフコミュニティ活動の中で、「乳幼児の安全」を重点課題とし、現在まで取組を積み重ねています。2012 年 10 月にはセーフコミュニティの再認証審査を受け、その中で市立保育所が実施している「セーフコミュニティかめおか　乳幼児の安全対策委員会」への取組が非常に高く評価され、保育所でのＩＳＳの認証を目指すよう助言をされました。

現在亀岡市では、ＩＳＳの活動を契機として、子どもたちの安全への意識を高め、子ども自らが危険回避をする力を育むとともに、地域や保護者との絆をさらに深め、誰もが安全に、安心して過ごせる保育所づくりを目指して活動を展開しています。

２　これまでの取組状況

表 3 セーフスクールの推進経緯

	インターナショナル・セーフスクールの取組
２０１２年	１０月　セーフコミュニティ再認証審査 保育所を視察
２０１３年	２月　セーフコミュニティ再認証取得 ５月　セーフコミュニティ推進協議会にて ＩＳＳ認証に向けた取組推進を決定 セーフコミュニティかめおか　学校の安全対策委員会・乳幼児の安全対策委員会 合同開催し、ＩＳＳ取組校選定やスケジュールについて協議 ６月　所長会において、亀岡市立保育所８園で取り組むことを決定 ７月　ＩＳＳ推進部研修会を実施 ９月　インターナショナル・セーフスクール取組宣言
２０１４年	１１月　ＩＳＳ認証センターによる事前審査

ＳＣ再認証審査

合同対策委員会

取組宣言

ＩＳＳ事前審査

第三章

８つの指標に基づいた取組み

指標１　保育士、園児、保護者、地域の協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制が整備されていること

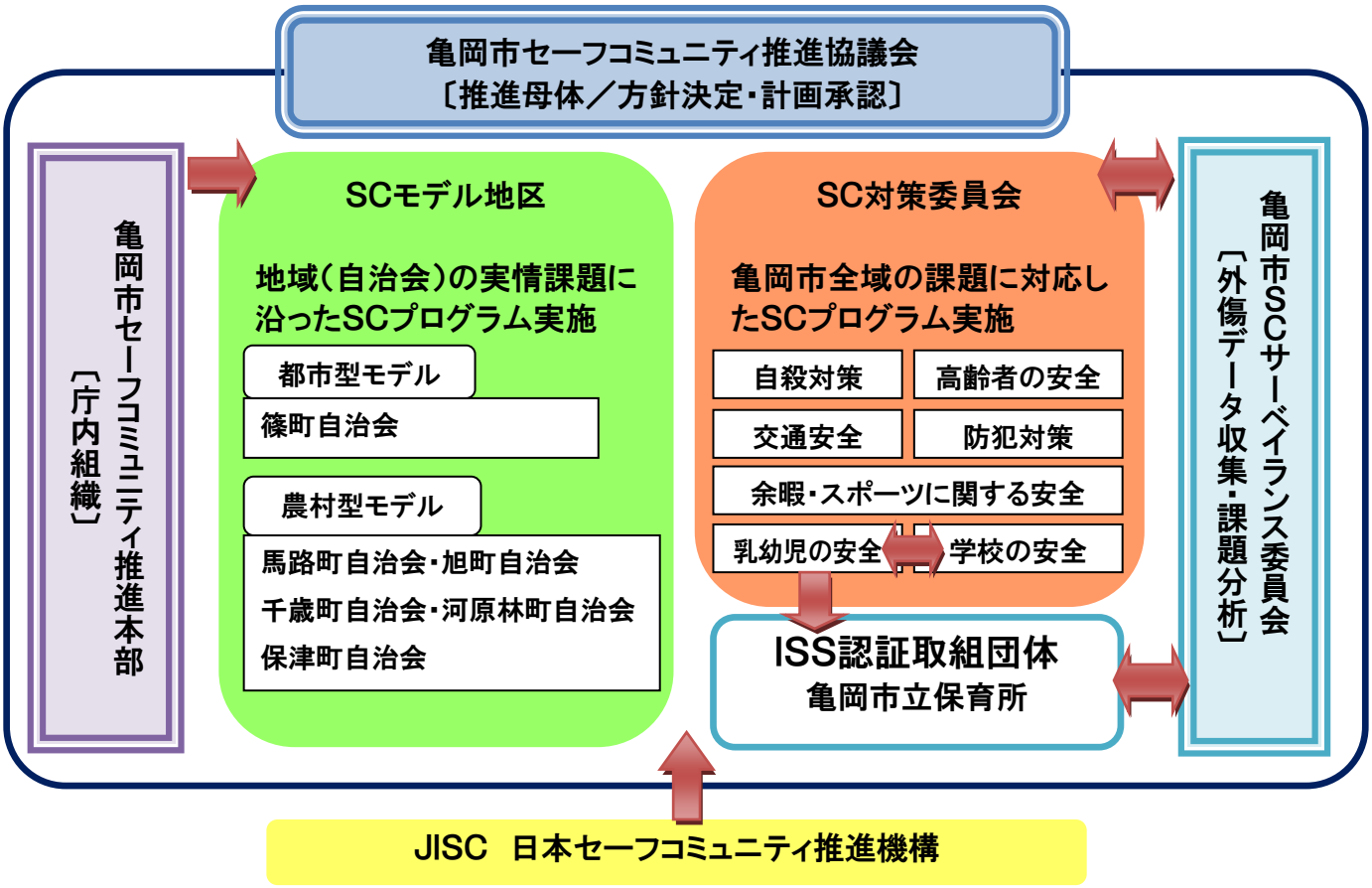
１　セーフコミュニティとのつながり

亀岡市では、「安全・安心こそ最大の福祉である」との強い信念の下、2006 年からセーフコミュニティ活動に取り組んでいます。取組体制としては、セーフコミュニティ推進協議会を推進母体に、7 つの対策委員会の活動と、自治会主導のモデル地区活動の展開です。

そしてセーフスクールについては、保育所・保育園は「セーフコミュニティかめおか　乳幼児の安全対策委員会」と連携しながら活動を推進しています。

また、「乳幼児の安全対策委員会」で実施している市立保育所のプログラムは、セーフスクールの活動の一環にもなっているため、「亀岡市セーフコミュニティサーベイランス委員会」において、課題分析も行っています。

図-19　亀岡市セーフコミュニティ推進体制



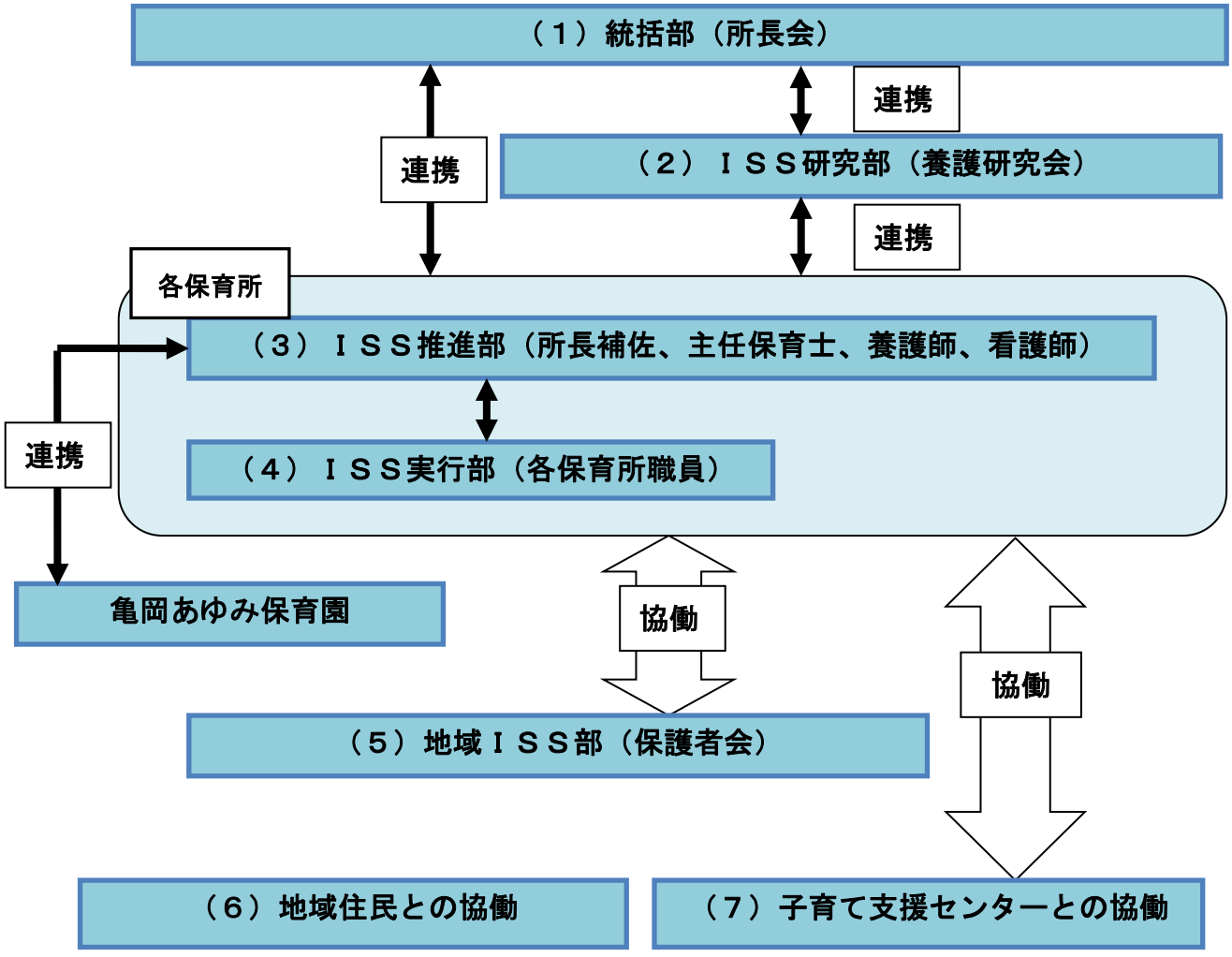
＜乳幼児安全対策委員会では…＞

課　　題	対　　策
①4 歳以下に外傷受傷頻度が高い。 **②4 歳以下の受傷場所は、自宅と保育所が多い。**	①乳幼児保護者向け安全教育 （乳幼児健診時における外傷予防講習会） ②乳幼児安全安心プログラム （市立保育所の施設整備・環境改善） ③運動あそびプログラム （市立保育所における体力づくりのための かけっこや竹馬など）

２　市立保育所におけるインターナショナル・セーフスクール推進体制

８市立保育所長を中心としたＩＳＳ推進体制です。保育所内だけでなく、保護者会や子育て支援センター、地域住民との協働もしています。

図-20　市立保育所におけるインターナショナル・セーフスクール推進体制



（１）統括部（所長会）

各保育所の所長からなる組織です。毎月１回開催される会議の中で、セーフスクールに関する情報交換を行い、取組の課題の共有化を図っています。またそれに基づいて、活動方針の決定、推進の調整を行っています。

（２）ＩＳＳ研究部（養護研究会）

各保育所の養護師、看護師、養護担当保育士からなる組織です。外傷データの収集方法の検討や、データの分析・考察を行い、ＩＳＳ推進部に情報提供を行います。

また保育士への意識調査や、各家庭での子どもの生活習慣などのアンケート調査も実施しています。

（３）ＩＳＳ推進部

各保育所の所長補佐･主任保育士･養護師･看護師からなる組織です。

外傷データをもとに各保育所における課題、プログラムを選定し、取組の効果測定や見直しなどを実施しています。セーフスクール推進における中核を担っています。

また、同じくＩＳＳに取り組む私立保育園「亀岡あゆみ保育園」とも連携し、情報交換等を実施しています。

表 4 ＩＳＳ推進部会議の内容

	開催日	会議内容
２０１３年	７月２３日	ＩＳＳ研修会
	８月２８日	安全安心マップの協議
	９月１１日	ＩＳＳの指標の検討
	１０月２３日	ＩＳＳの指標の検討
	１２月１７日	ＩＳＳの指標の検討
２０１４年	６月２４日	ＩＳＳの指標の協議
	９月３０日	事前審査に向けての協議
	１２月１６日	事前審査の振り返り
	２月９日	ＩＳＳ申請書の検討

（４）ＩＳＳ実行部

各保育所の保育士からなる組織です。ＩＳＳ推進部が決定したプログラムを実施します。また地域ＩＳＳ部と連携し、交通安全活動や災害時の対策などを実施しています。

（５）地域ＩＳＳ部（保護者会）

各保育所の保護者からなる組織です。保護者会の会則にＩＳＳを明記するなど、全保護者に呼びかけセーフスクールの活動を推進しています。保護者会研修や避難訓練などを実施しています。

（６）子育て支援センターとの協働

子育て支援センターとは、地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導などを実施する施設です。子育て支援のネットワークを地域に広げるため、内容に応じて統括部や関係機関と連携しながら活動を実施しています。

（７）地域住民との協働

地域（自治会や老人会等）と連携し、園外活動時や登降所の見守りなど、ＩＳＳ活動の支援を実施しています。また近隣の小中学校との連携をしています。

指標２　取組の方針（政策）は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体等の方向性と一致していること

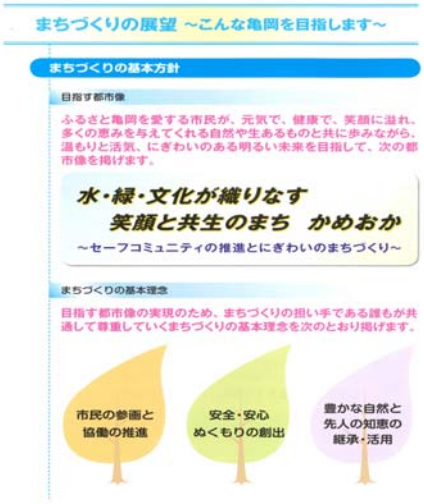
１　第４次亀岡市総合計画～夢ビジョン～（2011～2020）

亀岡市は、2011 年１月、第４次亀岡市総合計画～夢ビジョン～をスタートさせました。

この計画は約 10 年間のまちづくりの最上位の計画（羅針盤）であり、多くの市民の参画と協働により策定されました。

まちづくりの基本方針にセーフコミュニティが明記され、市民が望む都市像として、セーフコミュニティの推進を掲げています。

セーフコミュニティにおいては、乳幼児の安全対策委員会の取組みと連動しながら進めています。



２　亀岡市子ども・子育て支援事業計画

亀岡市では、すべての子どもの育ちとすべての子育て家庭の支援を行い、一人ひとりの子どもが安全・安心で健やかに成長できる環境を整備するため、2015 年４月から「亀岡市子ども・子育て支援事業計画」をスタートさせます。

基本目標４として、「子育てしやすい安全でやさしいまちづくり」を挙げ、ＩＳＳ活動の推進を明記し、安全・安心な教育・保育環境の整備を推進していきます。

基本理念	市民の宝「かめおかっこ」の笑顔あふれるやさしいまち

３　保育過程・年間指導計画

公立保育所では、「保育課程」に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育を適切に展開しています。

2013 年度からの「保育過程」では、保育目標の「健康・安全保育」の中で、ＩＳＳ活動の推進を明記しています。

保育理念	人・まち・環境を思いやるあたたかい心と生きる力をもつ、「かめおかっこ」の育成に努める
保育方針	養護と教育が一体となって、豊かな人間性をもった子どもを育成する。

指標６　外傷の頻度と原因を継続的に記録する仕組みがあること

市立保育所では、保育所内のデータを収集するとともに、セーフコミュニティと連動して、地域における子どものケガ発生状況等を包括的に把握しています。

表 5 収集するデータの種類と記録方法

分類	ケガの種類	記録方法	頻度
保育所内でのけが	軽微なものを含むケガ １．市立保育所外傷データ ２．安全安心マップ	保育所において「ケガの調査票」を使い、ケガや事故の情報収集をし、統計処理を行います。	毎月
	通院を要するケガ ３．スポーツ振興センター災害共済給付状況	保育所管理下における園児の通院を要するケガは、スポーツ振興センターへ記録を提出します。 「ケガの調査票」でも、通院を要するケガについての情報を収集しています。	毎年
保育所外でのけが（地域、家庭など） ４．セーフコミュニティを通したデータ収集（交通統計・救急搬送データ・保健所での情報収集）		救急搬送や交通事故、家庭内におけるケガの情報を収集しています。	毎年

１　市立保育所外傷データ（病院受診分も含む）

市立保育所内におけるケガの記録方法については、専門家や保育士が何度も協議を重ね、亀岡市独自の調査票を作り、「セーフコミュニティかめおか　乳幼児の安全対策委員会」の活動を開始した2011 年から調査を続けています。

＜ケガの記録の流れ＞

①保育士などが乳幼児の「ケガ情報」を調査票に記載する。

↓

②京都府立医科大学の医師が提供する「乳幼児外傷予防システム」に入力。

※各保育所のパソコン上で、ケガ情報を入力することができ、即時にケガの情報を把握できるようになっています。

＜ケガ情報登録画面＞

保育所名　川東保育所　　発生日　2014年09月09日　　発生時間帯　午前保育中

天候　◉晴れ　○曇り　○雨　　園児番号　1　　園児クラス　1歳児

性別　◉男児　○女児　　生年月日　2013年01月15日　　園児年齢（計算値）　1　歳　7　ヶ月

けがの発生場所

○保育室	○階段	○プール	○手洗い場	○ジャングルジム	○砂場
○ホール	○トイレ	○ベランダ	○鉄棒	○雲てい(太鼓橋)	○園外(登降所含む)
○廊下	○手洗い場	○排水溝	○ブランコ	○登り棒	○その他(「備考」へ)
○玄関(昇降口)	◉運動場(園庭)	○足洗い場	○滑り台	○固定タイヤ	

けがの種類

◉擦り傷	○刺し傷	○捻挫(突き指含む)	○虫刺され
○切り傷(鋭いもので切った傷)	○火傷	○肘内障	○眼に異物
○挫創・裂創(皮膚が割けた傷)	○はさまれ傷	○熱中症	○その他(「備考」へ)
○咬傷	○打撲	○鼻血	
○かき傷(ひっかき傷)	○歯牙打撲	○骨折	

けがの部位

□頭部	□鼻部	□肩部	□臀部(お尻)	□手・手指部	□足・足指部
□前額部	□口部	□胸部	□上腕部	□大腿部・股関節	□その他(「備考」へ)
□眼部・眼周囲	□歯部	□腹部	□肘部	☒膝部	
□頬部	□顎部	□背部	□前腕部	□下腿部	
□耳部	□頸部(首)	□腰部	□手関節部	□足関節部	

③各保育所でケガデータを分析し、課題発見や効果測定につなげる。

③京都府立医科大学の医師の専門的分析により各保育所へ助言。

2　安全安心マップ

各保育所では、園内のケガ発生場所を示す「安全安心マップ」を作成しています。

保育所内での危険箇所情報の共有化と意識の向上だけでなく、マップをとおして園児が「なぜ」けがをしたか確認する機会となり、園児の危険回避能力の向上にもつながります。

3　スポーツ振興センター災害給付状況

保育所下のけがで、５０００円以上の治療費を要するようなけがについては、スポーツ振興センターに報告しますので、データも活用しています。

4　地域における子どものケガ状況

セーフコミュニティの取り組みの中で、「交通統計（亀岡警察署）」「救急搬送データ（亀岡消防署）」「家庭内の受傷状況（亀岡市保健センター）」についても収集しています。

指標８　国内・国際ネットワークに継続的に参加すること

ISS 認証校の視察や ISS 認証センターが主催する研修会等に積極的に出席するなど、ISS ネットワークに積極的に参加しています。

表 6 セーフスクールネットワークへの参加

年月	活　動　内　容
2013.10	厚木市立清水小学校ＩＳＳ現地審査視察
2013.11	ＳＣ・ＩＳＳの取組が評価され、「マニュフェスト大賞」を受賞
2014.2	ＳＣ・ＩＳＳの取組が評価され、「地域づくり総務大臣表彰」を受賞
2014.2	「安全安心フォーラムｉｎかめおか２０１４」でＩＳＳ取組発表
2014.8	西日本ＩＳＳ研修会を亀岡市会場で実施
2015.2	「セーフコミュニティフォーラム～関西セッション～」を亀岡市会場で実施 ⇒子どもの安全対策委員会で議論
2015.3	北本市立中丸小学校、宮内中学校ＩＳＳ本審査視察

安全安心フォーラム in かめおか 2014

厚木市立清水小学校ＩＳＳ現地視察

指標３・指標４・指標５・指標７については、各保育所の取組の中で説明しています。

亀岡市立本梅保育所

ほ　ほんめっこ
ん　うんとあそんで
め　めをきらきら
っ　つよいからだと
こ　こころをそだてる
　　ほんめほいくしょ

ＩＳＳスローガン

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する。

目指す子ども像

「元気に遊ぶ子ども」「思いやりのある子ども」
「感じ考え表現できる子ども」「意欲のある子ども」

ごあいさつ

“ほんめっこ”は３世代にわたり、豊かな自然と地域の皆様のあたたかい支えにより育まれてきました。誇るべき６０年の歴史を刻む流れの中、インターナショナルセーフスクール取組宣言（２０１３年）という大きな機会が巡ってきました。“こっころちゃん”と名付けた風見鶏をロゴマークにして、活動を開始しました。意気込んでスタートしたものの、戸惑いや試行錯誤の連続でしたが、半信半疑ながら自分たち自らを励まし、子どもたちと共に楽しく展開していくことを念頭においてすすめてきました。

指標毎に取組の中身を整理すると、「あっ！なるほど」「これが～なんだ」「もっと～しよう」という思考になっていき、発見・確信・向上心を繰り返しながら、現在にたどり着きました。

「こっころ調査隊」は、年長組が担っている安全確認の１つです。子どもなりに責任感をもち活動している姿は頼もしい限りです。保育実践の中に、これまで以上に安全に関することを見える化し、定着させていき、次の年長組へと引き継いでいきたいと考えています。また、保護者会や地域とのつながりもパワーアップさせていきます。

ほんめっこ　う**ん**とあそんで　**め**をきらきら　**つ**よいからだと　**こ**ころをそだてる　　**本梅保育所**

“こっころちゃん”は、今日もモッコウバラのアーチの上で、緑の風に吹かれながら子どもたちの安全を見守っています。

2015 年 3 月　亀岡市立本梅保育所

所長　樹山　幸代

1　概要・職員と園児数

開所　　1955 年 6 月

園児数　　表 - 1　　2014 年 3 月現在　　（人）

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	0	3	3	8	14	8	36

職員数　　職員数 19 人（内訳：所長 1　所長補佐 1　看護師 1　作業員 1　給食調理員 2　長時間保育担当 6　保育士 7）

2　保育所を取り巻く環境

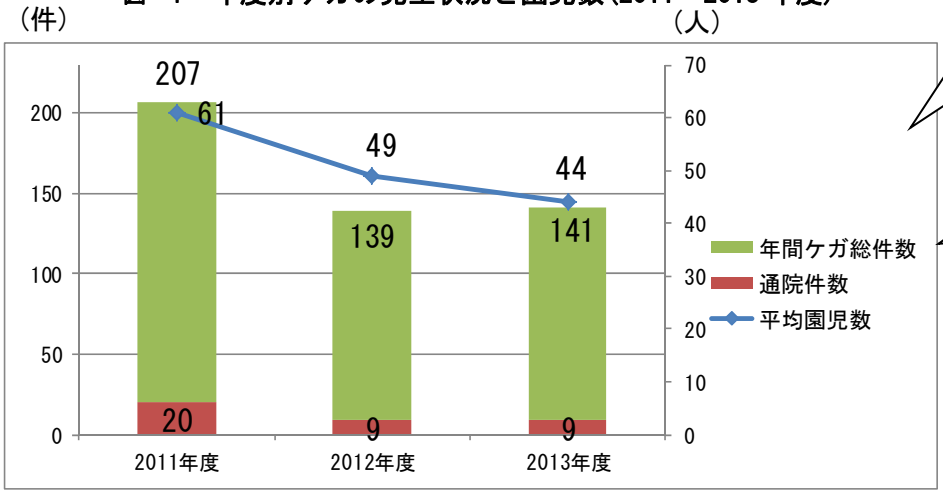
京都府亀岡市西部に位置し、保育所の周囲は山や田畑が多く自然豊かな環境にあります。近隣には 3 小学校、1 中学校があり地域と連携を図りながら、子どもの育ちを見守っています。また、保育所前の国道 477 号線は大阪府や兵庫県に通じており大型車や通勤車両等の通行が多く、送迎時は正門前から国道を通り駐車場まで行くため、飛び出しなどの危険が伴います。

3　ケガの状況

データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

園内のケガ

図 - 1　年度別ケガの発生状況と園児数（2011～2013 年度）



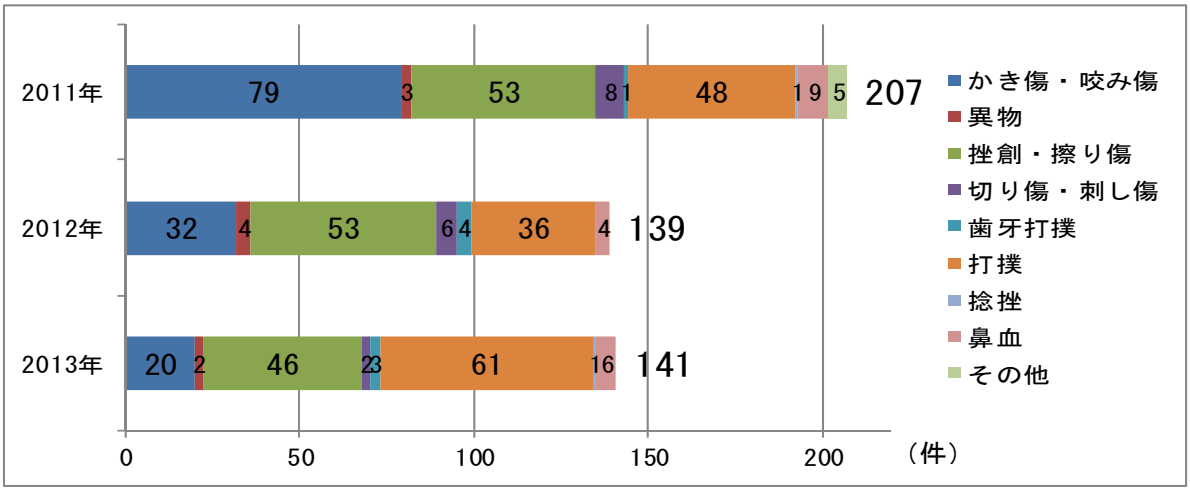
園児数の減少とともにケガの総件数は減っています。

通院を要するケガも減少しています。

3 年間のケガの発生状況を症状別にみるとかき傷・咬み傷が減り、打撲が増えています。

園児数が減少し、年齢の構成人数に変化があり、ケガの症状にも変化がみられます。

図 - 2　ケガの症状別の状況（2011～2013 年度）



直近のケガの状況を年齢別に分析すると

年齢別では全ての年齢で打撲が最も多くなっています。

図 - 3　年齢別ケガの発生状況（2013 年度）

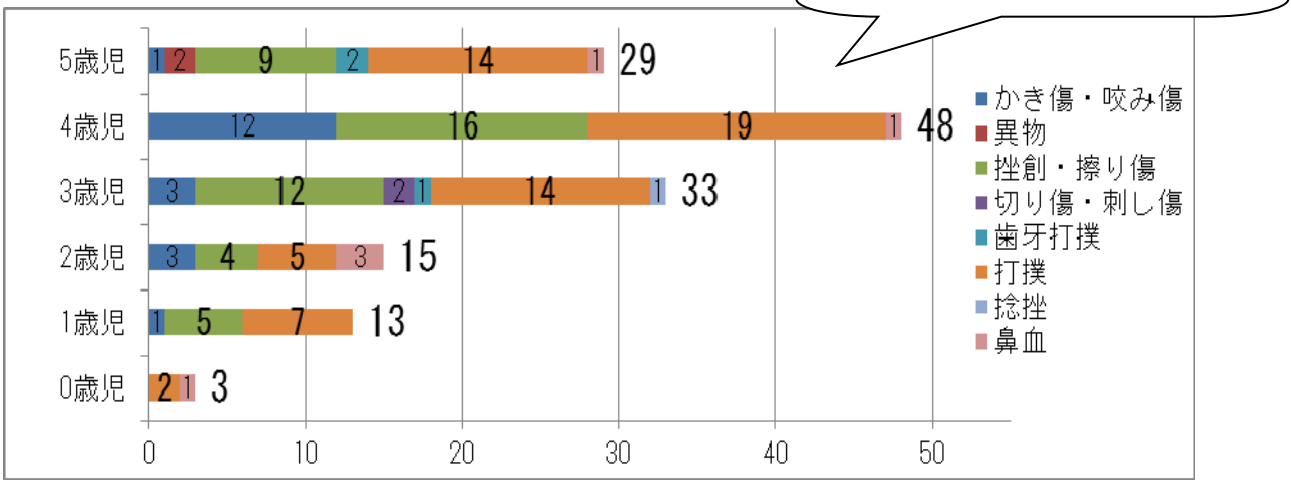


表-2 の見方
例）1－1
ねらい　取組番号

4　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表 - 2　全体像

場所＼対象者		園児						職員	保護者・地域
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
園内	園舎内	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-1　1-2　1-3　1-6	1-4　1-5　1-7
		2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	2-1　2-2　2-3　3-1　3-2　3-3	2-2　2-4　3-1　3-2　3-3
	園舎外	1-1	1-2	1-4	1-5	1-6		1-1　1-2	1-4　1-5　1-7
		2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	2-1　2-2　2-3　3-1　3-2　3-3	2-2　2-4　3-1　3-2　3-3
園外	送迎中	1-7							1-7
		2-1	2-2	2-5	2-6	3-4		2-1　2-2　2-5　3-4	2-2　2-4　2-5　2-6　3-4
	家庭	1-5	1-7						1-5　1-7
		2-1	2-2	2-6	3-4			2-1　2-2　2-6	2-2　2-4　2-6　3-4
	地域	1-4	1-5	1-7					1-4　1-5　1-7
		2-1	2-2	2-6	3-4			2-1　2-2　2-6	2-2　2-4　2-6　3-4

【ねらい１ ケガを予防する丈夫な体づくり　２ ケガや事故を予防するための安全教育　３ 環境改善】

各種取組（凡例：①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要）

下線部はＩＳＳの取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　ケガを予防する丈夫な体づくり

1-1	①	リズムあそび*1・体操				
	②	園児・職員	③	園内	④	園児・職員
	⑤	・週１回全園児でリズムあそびを行う。ケガを予防する丈夫な体をつくるために実施内容を改善しました。 ・週２回体操を行う。				

*1　リズムあそび：ピアノのリズムに合わせ、体を動かす運動あそび。

1-2	①	異年齢児交流*2（なかよしの日）				
	②	園児・職員	③	園内	④	園児・職員
	⑤	月１回異年齢児で散歩やリズムあそび・ふれあいあそび等を行う。				

*2　異年齢児交流：0 歳児から 5 歳児がかかわり一緒に様々な活動を行う。

1-3	①	健康集会*3「げんきっこ集会」				
	②	園児・職員	③	園内	④	園児・職員
	⑤	毎月１回健康や衛生面について集会を行う。				

*3　健康集会：健康に関することを考え合う会

1-4	①	世代間交流*4				
	②	園児･小中学生･高齢者	③	園内･外	③	職員･園児･小中学生･高齢者
	⑤	・地域の高齢者や小中学校と交流し、ISS の取り組みを伝える。 ・体操やふれあいあそびなどを一緒に行う。				

*4　世代間交流：高齢者や小中学生など違う世代とのかかわりをもつ。

1-5	①	虐待を未然に防止する				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・家庭・地域	④	職員
	⑤	・園児の心と体の様子を観察する。・保護者対象の相談事業を実施する。 ・要保護児童対策地域協議会*5で対策を検討する。				

*5　保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための場

1-6	①	職員研修				
	②	職員・園児	③	園内	④	職員
	⑤	・専門家による体づくりの学習。 ・園児の体づくりについて職員の共通理解。 ・危機管理研修（防犯・遊具の安全についての研修等）				

1-7	①	園児の体づくりのための保護者啓発				
	②	保護者・園児	③	園内･外	④	職員
	⑤	・ISS の活動を写真等の掲示・パワーポイントでの活動内容紹介 ・発行文書・生活カード*6（年２回）				

*6　生活カード：家庭での食事・睡眠・排泄等の状況を把握し指導する。

２　ケガや事故を予防するための安全教育

2-1	①	安全集会*7・こっころ調査隊				
	②	園児・職員	③	園内･外	④	園児･職員
	⑤	・遊具の安全な使い方やケガを予防するための約束等の集会を行う。 ・園児が帽子をかぶりこっころちゃんになり、ケガにつながるような危険な場所・行動について確認する。				

*7　安全集会：安全に関することを考え合う会

2-2	①	交通教室*8				
	②	園児・保護者・職員	③	園内･外	④	園児・保護者・職員
	⑤	交通ルールや道路を歩く時の約束を知り、体験する。				

*8　交通教室：交通安全やルールを学ぶ。

2-3	①	避難訓練				
	②	園児・職員	③	園内・外	④	園児・職員
	④	毎月１回火災や地震を想定した避難・誘導・消火・救護・通報の訓練を行っています。				

2-4	①	子育て支援事業*9（親子で運動あそび・事故予防啓発）の実施				
	②	保護者・地域	③	園内･外	④	職員
	⑤	・月１回の子育て支援事業「ふれあいひろば」で運動あそび等を行う。 ・「ヒヤリハット」や「家庭で起こりやすい事故」について話し合い、事故予防の啓発を行う。				

*9　子育て支援事業：未就園児親子を対象とし、交流の場の提供や相談等を行うこと。

2-5	①	職員による安全確保				
	②	園児・保護者・地域・職員	③	園内	④	職員
	⑤	毎日、登降所時に正門前や駐車場付近に立ち安全指導をしています。				

2-6	②	保護者向け安全講演会				
	③	園児・保護者・地域	④	園内	⑤	地域・職員
	⑥	地元地域の駐在所警察官による保護者の安全意識向上のための講演会を行う。				

３　環境改善

3-1	①	安全点検の実施				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内･外	④	職員
	⑤	・安全点検…月１回全職員が施設内外の点検を行い事故予防に努める。 ・安全点検項目の見直しを行い、点検後、環境改善を行う。				

3-2	①	保育環境整備の実施				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内･外	④	職員
	⑤	・保育環境整備　・コーナークッションの設置 ・廊下は歩きましょうマークの設置				

3-3	⑦	ケガのマップの実施				
	②	園児・保護者・職員	③	園内･外	④	園児・職員
	⑤	園舎の見取り図に園児と一緒にシールを貼り、ケガの発生しやすい場所を把握し、環境改善を行っています。				

3-4	①	注意喚起表示の設置				
	②	園児・保護者・地域・職員	③	園外	④	職員・園児
	⑤	安全ぼうや・飛び出し注意喚起表示を設置し通行車両への啓発を行っています。				

指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象とした予防活動をしていること

１．正門前に交通量の多い国道がある環境

正門前の国道 477 号線は、大阪府や兵庫県につながっておりトラック等の大型車両が増え、保育

時間帯の 7 時から 19 時の交通量は 2,868 台となっています。（京都府道路交通量調査データ）

登降所時は、正門前を通るため、園児の飛び出し等の可能性があります。予防対策として取組を行

っており、過去１０年間交通事故は起きていません。

（１）　　（指標３　2-

保護者と一緒に登降所を行う様子や、子どもの視野体験を行いました。園児の飛び出しを防ぎ、

5

園児と保護者の双方の安全意識を高めるために、『手をつないで帰りましょう』と啓発しています。

（２）職員による安全確保　（指標３　2-5）

毎日、登降所時には正門前や駐車場付近に立ち安全指導をしています。

（３）安全ぼうや・飛び出し注意喚起表示の設置による通行車両への啓発　（指標３　3-4）

安全ぼうやは園児が制作し、正門前と道路脇に設置しています。また、「飛び出し注意」の表示

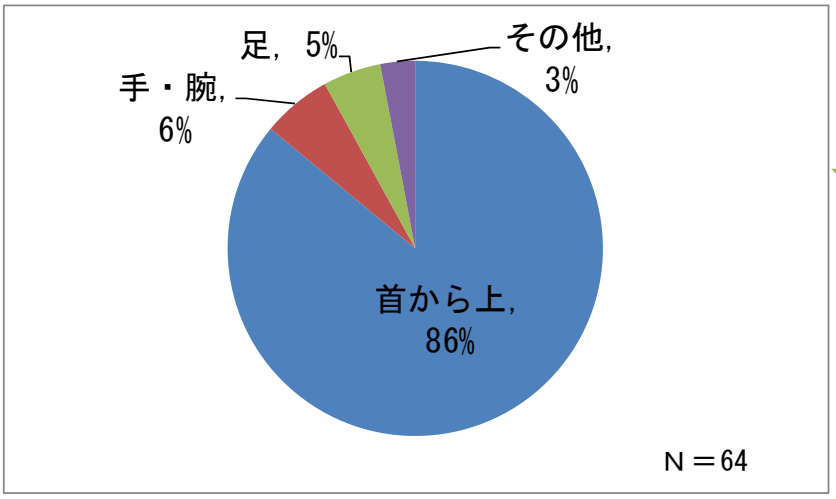
を設置し、通行車両へ注意喚起を行っています。

指標５　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

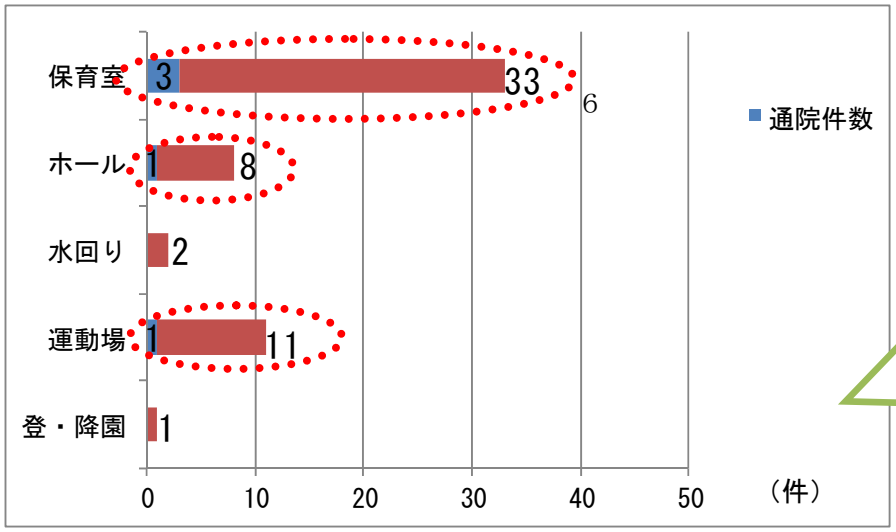
１．課題を導く原因分析

ケガ全体からみると園児数の減少とともに総件数は減っており、図 - 2 のように症状別ではかき傷・咬み傷、擦り傷については減少傾向にありますが、打撲と歯牙打撲が 64 件と増加傾向です。また図 - 3 で年齢別にみてもどの年齢も打撲が最も多くなっていることから、課題として注目しました。

図 - 5　打撲の部位別発生率（2013 年度）

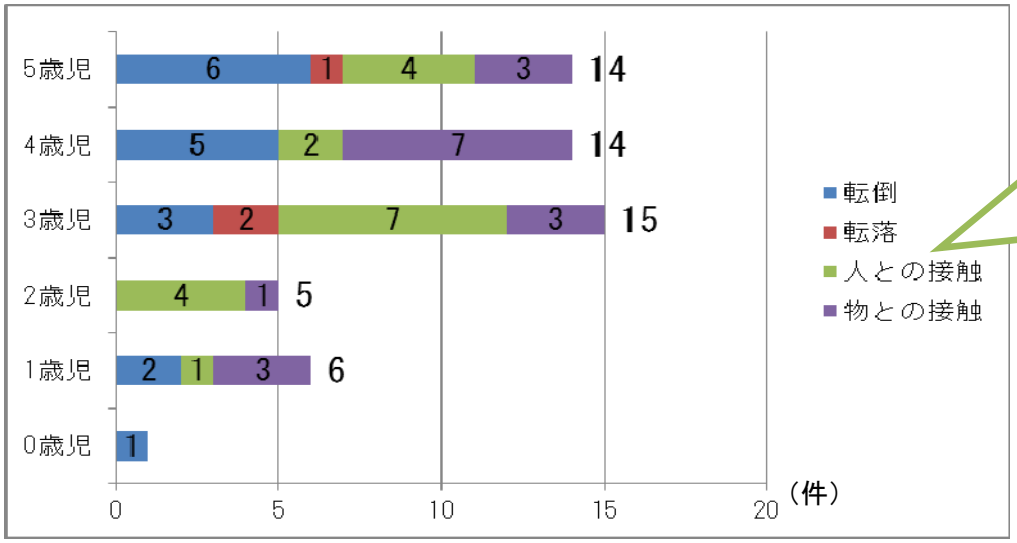


打撲の発生部位は、首から上が 86%を占めています。



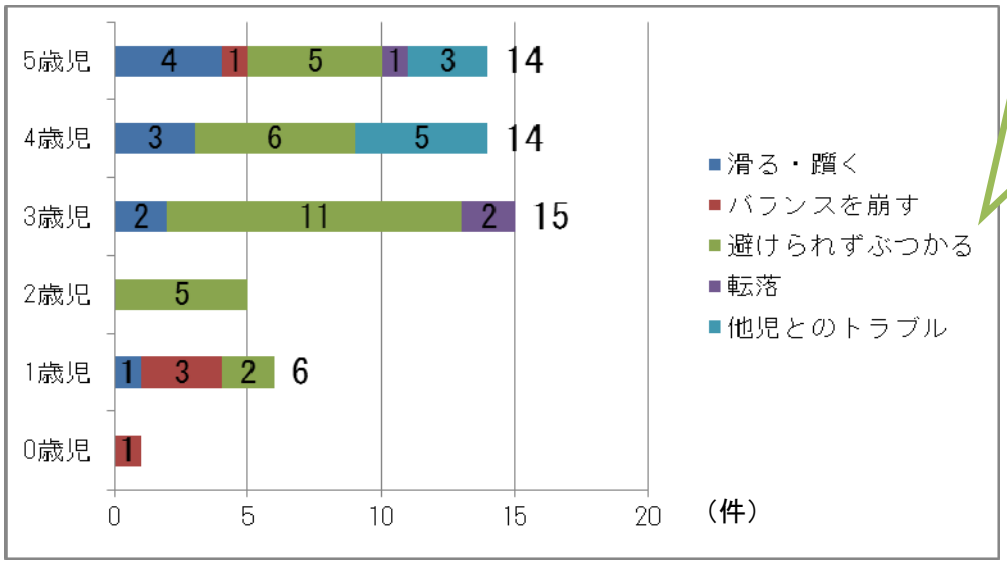
発生場所は保育室についで運動場が多い。運動場では固定遊具が６件、その他が５件あり、重症化しやすい固定遊具の対策を行いました。

図 - 7　首から上の打撲の直接機転（2013 年度）



発生要因をみると物や人との接触や転倒によるものが多くなっています。

図 - 8　首から上の打撲の間接機転（2013 年度）



避けられずぶつかる、滑る・躓くことにより首から上の打撲が多く発生していることがわかります。瞬時に手が出るなどの危険回避能力と危険な場所や場面に対する安全意識の向上が必要と考えます。

首から上の打撲が多い

発生場所…保育室・運動場・ホールが多い

発生要因…避けられずぶつかる・滑る・躓くなどで起こっている

2．重点取組・・・首から上の打撲を予防する。

予防対象	課題	対策
首から上の打撲	危険回避能力（体のコントロール力）の育成	（1）リズムあそび・体操
	園児の安全意識の向上	（2）安全集会 こっころ調査隊

	環境改善	（3）安全点検

（1）リズムあそび・体操　（指標 3　1-1）

ケガの現状から、専門家による研修をとおして学び、実践につなげています。

明治国際医療大学鍼灸学部准教授　伊藤和憲先生よりセルフメンテナンスの観点から危険回避能

力の育成のために①反射的な対応能力②筋肉の柔軟性やバランスについて学び、首から上のケガ

の減少につながる体づくりの効果的な取り組みをすすめています。

全身のバランス感覚、危険回避能力（体のコントロール力）の育成を目標としてリズムあそびを週 1 回全園児で行っています。バランスを保つための体幹を鍛える動きと、ストレスにより筋肉が硬くなることを和らげるための動きを組み合わせています。

表 - 3【リズムあそび実施内容】

リズムの名称	動き	働きかける部位や効果
うさぎ	軽く弾むように跳ぶ	脱力　膝、足首を柔らかくする
かめ	胸部、大腿部を反らせて頭を上げる	大腿筋前部のストレッチ
うま	四つ這い	足の親指の蹴りで土踏まずの形成を促す
とんぼ	走る→片足で止まる	腹筋で腰を安定させ全身のバランスをとる
汽車	走る→うつ伏せになる	体の俊敏性を養う。足、腰、腕の筋肉を使う
あひる	しゃがむ姿勢でかかとをあげて、つま先で歩く	足腰・腹筋・背筋の力を養う

あひる

かめ

筋肉を和らげリラックスを促すために、他児と複数でふれあい、スキンシップを図っています。

（２） 安全集会・こっころ調査隊　（指標３　2-1）

安全集会を行い、遊具の使い方や安全な遊び方などのルールを指導しています。玄関の門にある風見鶏を「こっころちゃん」と名付け、ISS のロゴマークにしたことで親しみやすくなりました。園児がこっころちゃんになって危険な場所を調べる取組をしています。

遊具の安全な遊び方の話を聞いています。

年長児による安全調べ

【ぶつかると危ない場所はどこかな？】　＜園児の言葉より＞

保育室…机の角　ロッカーの角　出入り口

運動場…すべり台　ぶらんこ　太鼓橋

ホール…出入り口　遊んでいる時

【ぶつからないようにするにはどうしたらいいかな？】

保育室…ロッカー・机…部屋の中では走らない。歩く。走ってる人がいたら注意する。

出入り口…止まって確認する。

運動場…ぶらんこ…順番を守る。「危ないで」と教えてあげる。

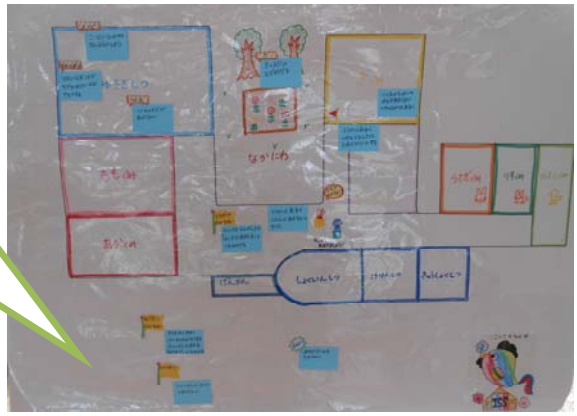
すべり台…前を見ておく。階段から上る。太鼓橋…下で遊ばない。

ホール…出入り口…止まって確認する。　遊んでいる時…前を見ておく。

【こっころ調査隊　安全調べ】

こっころ調査隊　園児の安全調査

園児の目線で、「あぶない場所」「ぶつかりの発生しやすい場所」を見つけることで安全意識の向上につながっています。



（３）安全点検　（指標３　3-1）

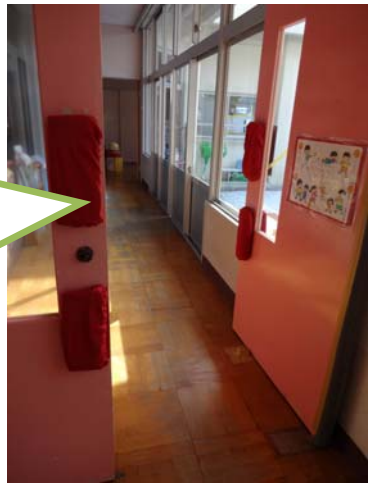
保育室の環境の改善を行うために、毎月１回職員で行っていた環境点検の項目を見直しました。子どもの行動を予測し、子どもの視点に立った点検ができるよう改善しました。要因（高さ、傾き、でっぱり、すきま、表面、熱、水、口に入る）毎に気になるところを見つけ、環境改善につなげています。

表 - 5　【保育室環境点検項目】

要因（例）	気になる箇所	改善策
高さ（落下のおそれ）		
傾き（不安定な台、立てかけているもの）		
でっぱり（ぶつかる、つまずく）		
すきま（首・手・指などがはさまる、とじこめられる）		
表面（水などですべる、トゲでざらざら）		
熱（遊具等の表面、湯、ストーブ）		
水（溜まった水）		
口に入る（アルコール、ハサミ・画びょう、除去食物）		

毎月の安全点検後、気づいた点について環境改善を行っています。

「入口のドア」に出っ張り部分があったためぶつかり防止のカバーをしました。



点検後、幼児室にも「サッシの角のクッション」を付けました。

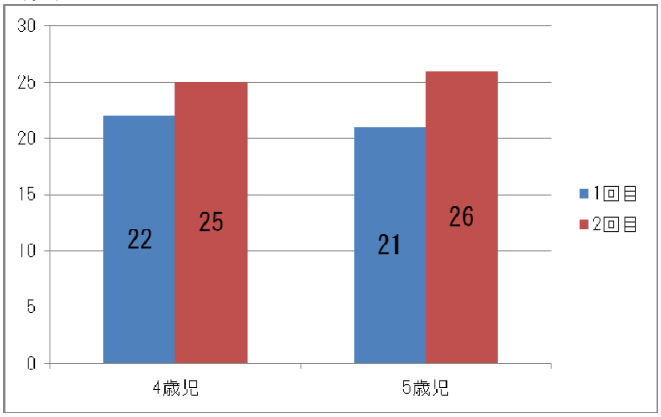
指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

１．成果指標と効果の検証

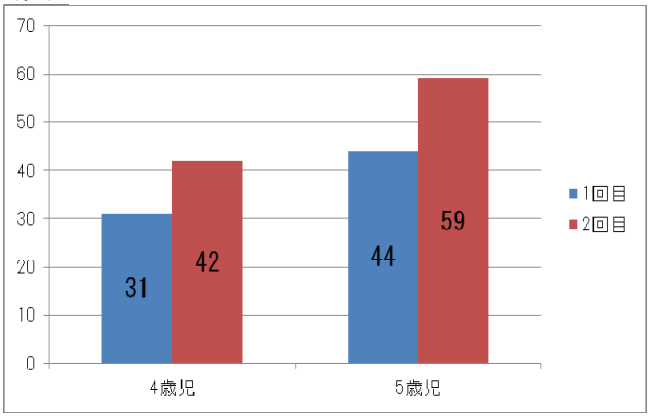
プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
（１）リズムあそび・体操	【指標】園児の基礎体力の向上 【測定方法】園児の体力測定　（図 9・10・11）		【指標】首から上の打撲の減少（図 13） 【測定方法】ケガ数の記録
（２）　安全集会 こっころ調査隊	【指標】安全な遊び方を認識する 【測定方法】園児の意識調査（クイズの実施）（図 12）	【指標】園児の安全に対する意識や行動 【測定方法】保育士による園児の行動調査	
（３）安全点検	【指標】環境改善を行う 【測定方法】環境改善箇所		

【園児の体力測定】体力測定を行い効果を検証します。　　出典：本梅保育所データ

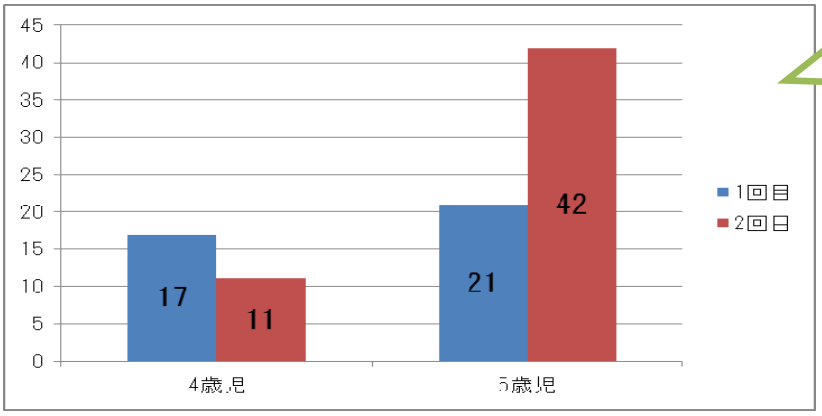
(秒)　**図 - 9　たまごのポーズ（腹筋力）**



(秒)　**図 - 10　ウルトラマンのポーズ（背筋力）**



(秒)　**図 - 11　片足立ち（バランス感覚）**



5 歳児は効果が見られています。4 歳児は継続して取り組み、効果を見ていきます。

【安全集会の安全意識クイズ】

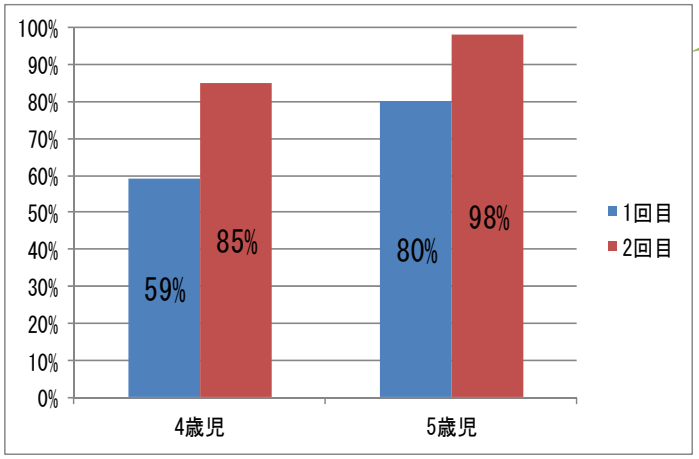
1回目実施日　2014.11
2回目実施日　2015.1

園り 11 月より開始し、2 か月に 1 回実施しています 歳児を対象に行 つい ては中期指標の職員による園児の行動調査で見ていきます。

表 - 4　安全意識クイズ項目

	問　　題	安　全　認　識
1	ブランコはどこで待つ？	ブランコでの安全認識
2	すべり台はどこから登る？	すべり台での安全認識
3	太鼓橋の下で遊ぶ？	太鼓橋での安全認識
4	どちらが安全？（ポケットに手を入れて歩く Or 出して歩く）	転倒に対する安全認識
5	かばんを持ったまま遊ぶのはよい？	転倒等の危険認識

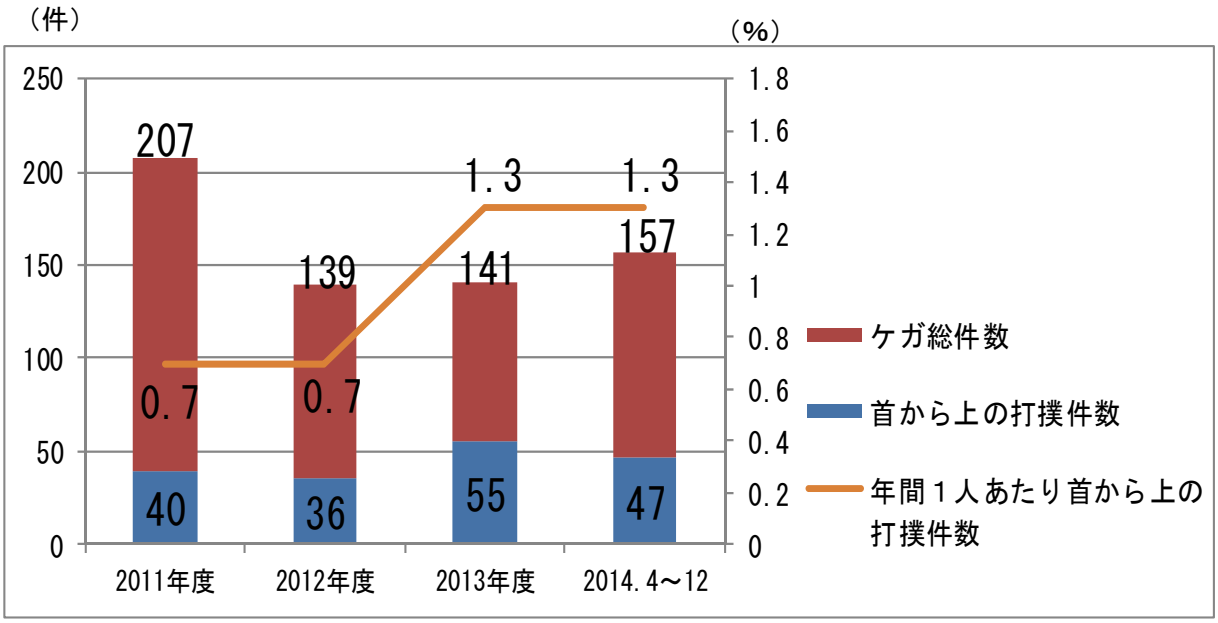
図 - 12　園児の安全意識クイズ正解率　　出典：本梅保育所データ



安全集会を行うことで園児の安全意識が高まっています。

1回目実施日　2014.9.8
2回目実施日　2015.1.21

図 - 13　首から上の打撲件数とケガ全体に占める首から上の打撲の割合（2011 年～2014 年 12 月）



リズムあそびをとおして、全身のバランス感覚、危険を回避するための体幹（体のコントロール力）の育成に取り組んでおり、体力測定でやや効果が見られています。また、安全集会やこっころ調査隊の取組を行い子どもたちの安全意識が向上しています。図-13 からケガの状況を見ると首から上の打撲が増加傾向にありましたが、2014 年は前年度と同程度の割合になっています。以下の課題を基に引き続き取組をすすめ効果を見ていきます。

５　課題と今後に向けて

（１） 課題

・ 園児の危険回避能力が十分育っていない

園児のリズムあそびの取組は、毎週１回継続して行っており、基本の動きが身に付き体を動かす楽しさが全園児に定着してきています。園児の基礎体力は少しずつ育ってきていますが、長期的な取組が必要であるため、まだ直接ケガの減少にはつながっていないと考えられます。

・ 職員の安全意識に差がある

職員の研修や安全点検をとおして視点の持ち方などを共有しながら意識向上を図っていますが、職種や経験等の違いによりＩＳＳ推進において認識に差があり、共通理解ができるような意識づけが必要であると考えます。

・ 保護者・地域との協働の取組ができていない

保護者への啓発として取組内容のパネル展示や、親子対象の交通教室を実施しました。そのことにより、登降所時に手をつなぐ姿が増える等、保護者の安全意識向上につながっています。しかし、保護者・地域との協働の取組ができていない現状です。

（２）今後に向けて

・ 園児の危険回避能力を身につけるための運動あそびの充実

園児が転倒や衝突を回避できるよう体幹を育てるために、園児の体づくりに関する研修を３ヶ月に１回行い、リズムあそび・体操の内容を充実させていきます。また、実際にケガの減少につながるか、検証を行っていきます。

・ 職員の安全意識の向上と環境改善

職員が保育の場面で危険だと感じた点について、ヒヤリハットの記録をとり、毎月集約を行う

中で危険個所を明確にし、環境改善につなげていきます。

職員の意識向上のために役割分担を明確にし、各々が自分の役割に応じた具体的な取組を考え

実施していきます。

・ 保護者・地域との連携した取組

家庭や地域での安全意識の向上を目指して、保護者への啓発として保護者会総会でのＩＳＳの

取組報告やワークショップ等の実施を計画しています。また、地域への啓発として自治会や駐

在所との情報共有や小学校への活動紹介なども行っていきます。

亀岡市立東本梅保育所

ISS スローガン

～えがおあふれる だいじないのち～

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する。

めざす子ども像

「元気に遊ぶ子ども」「思いやりのある子ども」

「感じ考え表現できる子ども」「意欲のある子ども」

えがおあふれる　ひがしほんめほいくしょに！

東本梅保育所は亀岡市西部ののどかな農村地帯にあり、素晴らしい自然環境にめぐまれています。　小規模の保育所ですが、１歳児から就学前までの子どもたちが明るく元気に過ごしています。

亀岡市のセーフコミュニティ再認証に合わせ、インターナショナルセーフスクール取組宣言（2013 年）し、安心・安全な保育所の取り組みが始まりました。

当初、子どもの怪我の要因や外傷データ等を再点検しそれを基に子どもたちの身体的・精神的な育ちの成果や課題を明らかにしながら、健やかな成長を願って取り組みを進めてきました。

取り組みの中から、子どもたちの言葉や行動を通して、安全についての意識の向上が感じとれるようになってきています。常日頃、通園カバンにつけているキーホルダーの〝ハートちゃん〟は、子どもたちの安全に対する意識づけになっていると思います。

インターナショナルセーフスクールの活動を通して、職員相互の共通理解・保護者との連携・地域との連携（自治会・高齢者・地域住民の交流）が更に深まってきたように思います。

保育所のスローガンを大切に、職員一丸となって〝えがおあふれる　ひがしほんめほいくしょ！〟を目指し、日々努力しております。

2015 年 3 月　　亀岡市立東本梅保

１　概要・職員と園児数

開所　1957 年

園児数　**表−１**　（2015 年 3 月現在）（人）

年齢	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	2	4	8	10	10	34

職員数　16 人（内訳：所長 1・所長補佐 1・作業員 1・給食調理員 2・長時間保育担当者 4 保育士 7）

２　保育所を取り巻く環境

東本梅保育所は、亀岡市西部に位置し、田園地帯が広がり山々に囲まれた自然豊かな環境です。園舎周辺の施設としては東本梅町自治会や東本梅町のグラウンドがあります。

周辺には交通量が多い国道 372 号線があります。

本梅川は台風などで水量が増し国道 372 号線が冠水することがあります。

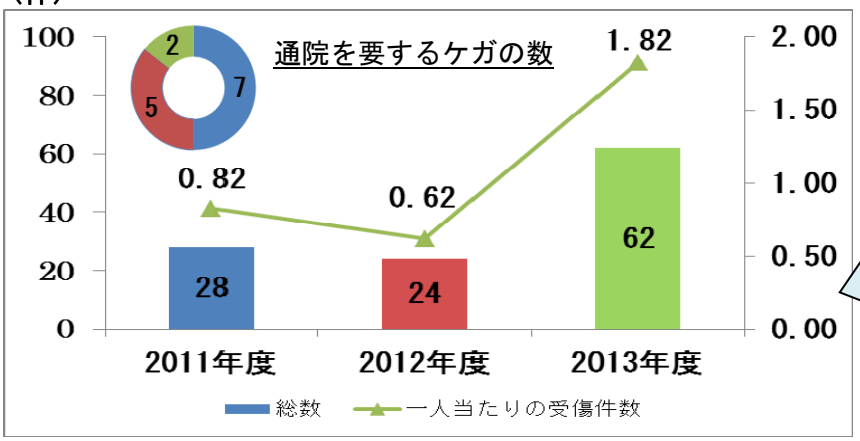
3　ケガの状況

（1）園内のケガ

園内で発生したケガデータを、養護担当職員が収集し「場所」「症状」「発生状況」などを記録しています。
データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

図-1　園内での受傷件数・一人当たりの受傷件数（2011～2013 年度）

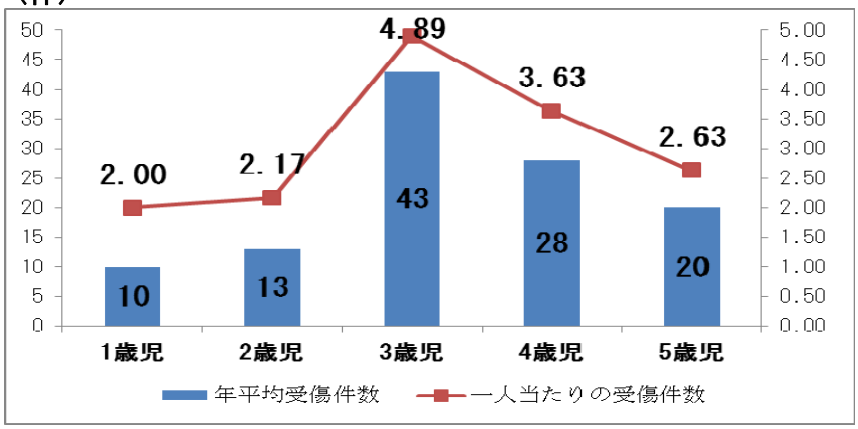
（件）



園内の受傷件数は、軽微なケガも含め、件数が増えてきている傾向があります。2013 年度は一人あたりのケガ受傷件数もそれに伴い増えましたが、通院を要するケガは減少しています。

図-2　園内における年齢別のケガ件数・一人当たりの受傷件数（2011～2013 年度）

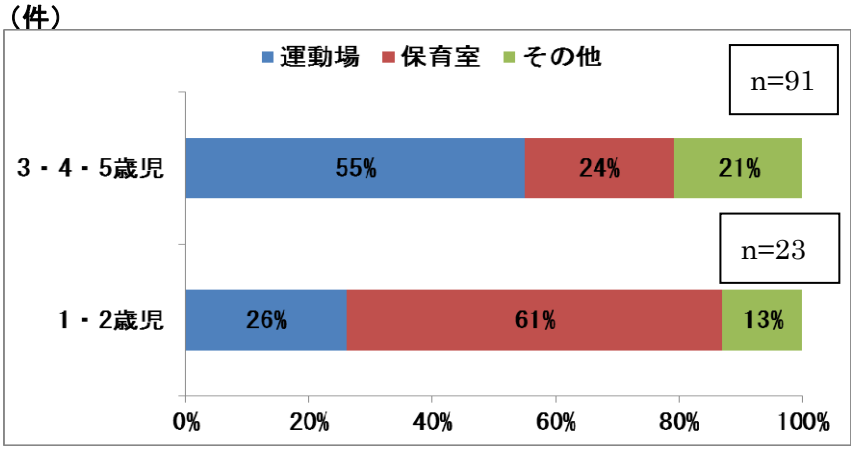
（件）



遊びや行動範囲が広がり活発になる、3・4・5 歳児の、ケガが多くなっています。

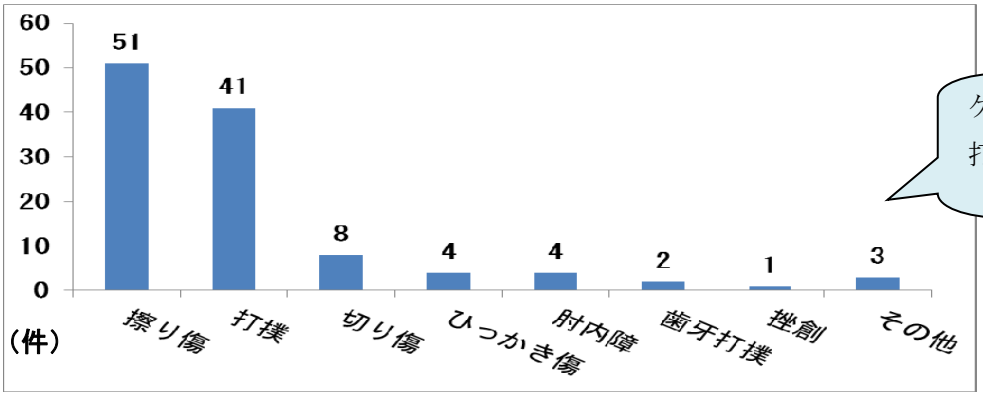
図-3　園内でのケガ発生場所（2011～2013 年度）

（件）



3・4・5 歳児のケガの件数の 55%が運動場で発生しています。1・2 歳児のケガの件数の 61%が保育室で発生しています。

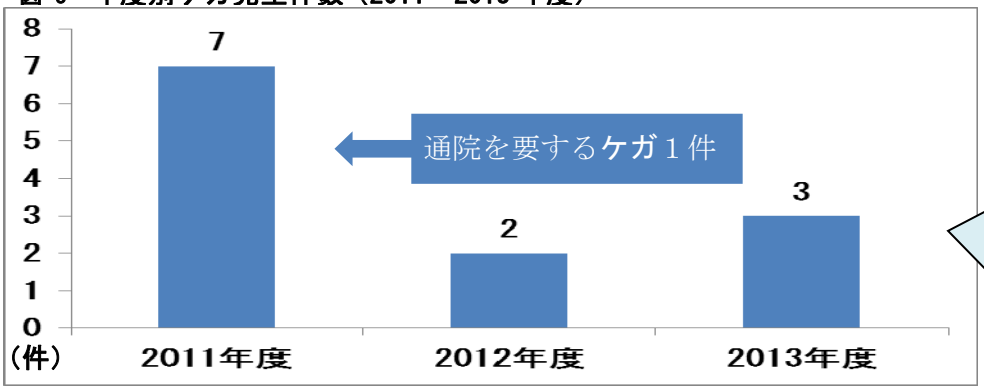
図-4　症状別のケガ（2011～2013 年度）



ケガのほとんどが擦り傷、打撲によるものです。

（２）園外のケガ

図-5　年度別ケガ発生件数（2011～2013 年度）



園外でのケガは、散歩途中、散歩先でのケガです。ISS 取り組後、ケガは減少傾向にあります。

４　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-2 の見方
例）1－1
ねらい　取組番号

（１）全体像

表-2　【ねらい　１　体づくり　　２　安全教育　　３環境改善】

場所	対象者	園児 1歳児	園児 2歳児	園児 3歳児	園児 4歳児	園児 5歳児	職員	保護者・地域
園内	園舎内	1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-5 2-6 2-7 3-1 3-2					1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-6 2-7 3-1 3-2	1-2 2-2 2-5 2-7 3-1 3-2
	園舎外	1-1 2-2 2-3 2-4 2-7 3-1 3-2					1-1 2-2 2-3 2-4 2-7 3-1 3-2	2-2 2-3 2-4 2-7 3-1 3-2
園外	送迎中	2-2 2-4 2-5					2-4	2-2 2-4 2-5
	家庭	2-1 2-2 2-5 2-7					2-2 2-7	2-5 2-7
	地域	2-2 2-5 2-7					2-2 2-7	2-2 2-4 2-5 2-7

（２）各種取組　【ねらい　１　体づくり　　２　安全教育　　３環境改善】

（凡例：①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要）

下線部は ISS の取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　体づくり

1-1	①	しなやかな体と基礎体力を作る運動				
	②	園児･保育士	③	園内	④	園児･保育士
	⑤	･体操(毎朝)やリズム遊び*1を実施し、しなやかな体作りをする。 ･地域周辺へ散歩に行き、足腰を鍛えることで危険回避能力を向上させ、事故防止につなげる。				

＊1　音楽に合わせて、身体を動かす遊びです

1-2	①	お茶ごっこを通し落ち着いて過ごし相手を思いやる心を育てる				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内	④	園児・職員
	⑤	・正座をすることで気持ちを落ち着け、集中力を高め心の安定を図る。 ・お茶の作法を知ることで、相手を思いやる心を育てる。 ・背筋を伸ばすことにより体のバランスの改善を図る。				

２　安全教育

2-1	①	安全集会*2				
	②	園児・保育士	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・正しい遊具の使い方や運動場での遊び方を知り、ケガ予防につなげる。 ・安全集会を実施し、ケガ・事故の予防や自分の身を守る方法について考える。 ・ハートちゃんのキーホルダーを付けることにより、安全に対する意識を高める。				

＊2　安全について園児が学ぶ集会です

2-2	①	交通教室*3				
	②	園児・保育士・保護者・地域	③	園内・園外	④	園児・保育士・保護者・地域
	⑤	・紙芝居などの教材を活用して交通ルールを学び、実際に道路の渡り方を練習する。 ・警察署・駐在所・地域の高齢者・自治会などと連携して実施する。 ・交通教室の様子を保護者に写真やお便りで知らせ、安全意識の向上と啓発を図る。				

＊3　交通ルールについて園児が学ぶ集会です。

2-3	①	避難訓練*4				
	②	園児･職員･保護者･地域	③	園内	④	園児･職員･保護者･地域
	⑤	・災害や事故の発生や外部からの不審者等の侵入防止など不測の事態に備え必要な対応を身に付ける。 ・災害時（警報時も含む）に引き渡しシートを使い、園児を保護者に安全に引き渡せるよう訓練を実施する。				

＊4　事故防止及び安全対策のため毎月１回行い、災害などに備える。

2-4	①	登降所時の安全確認

	②	園児･保育士･保護者･地域	③	園内･園外	④	園児･保育士･保護者･地域
	⑤	・毎日送迎時に、職員による駐車場の見守りやチャイルドシートの適正な着用の呼びかけを実施し事故防止に努める。 ・駐在所や警察署と共にチャイルドシートの適正な着用や交通ルールについて啓発し、保護者の安全意識の向上に努める。				

2-5	①	虐待を未然に防止する				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・園児の心と体の様子を観察する。 ・保護者対象の相談事業を実施する。 ・要保護児童対策協議会で対策を検討する。				

2-6	①	安全安心マップの実施				
	②	園児・保育士	③	園内	④	園児・保育士
	⑤	ケガをした場所に園児と一緒にシールを貼り、危険な場所を知り大人と一緒に安全について考え、意識の向上を図る。				

2-7	①	情報交換				
	②	園児･職員･保護者･地域	③	園内・園外	④	職員･保護者･地域
	⑤	・防災メールや地域からの情報を共有し、必要な時は保護者に情報提供するなどし、園児を危険から守る。 ・安全ニュースを掲示し、健康や安全について情報提供をする。				

３　環境改善

3-1	①	安全点検				
	②	園児･職員･保護者・地域	③	園内	④	職員
	⑤	・月１回マニュアルに従い安全点検＊5を行い園舎内外の危険な個所がないか把握する。 ・また日々遊具点検も行い適正に使用できるか確認をする。 ・不適な場合は、早急に改善をする。				

＊５　園舎内外の危険箇所がないかを点検していきます。

3-2	②	環境改善				
	②	園児･職員･保護者	③	園内	④	園児・職員・保護者
	⑤	・運動場のコンクリート面にグリーンマットを設置し、転倒を防止する。 ・乳児保育室にクッションシートを敷き転倒時の衝撃を和らげる。 ・園児や保護者と一緒に石拾い等の、園庭整備をしケガ予防に努める。				

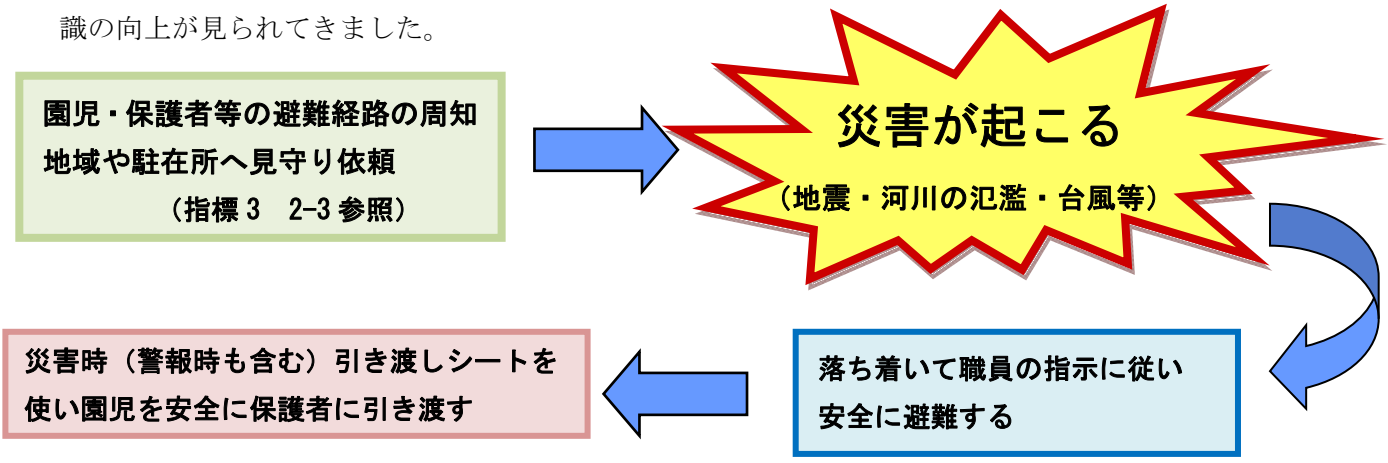
指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

課題１　大きな池や川が近くにある

（１）　避難訓練の実施

台風や災害時に河川が氾濫する恐れがあり、水量が増水すると園舎に流れ込む危険性があります。

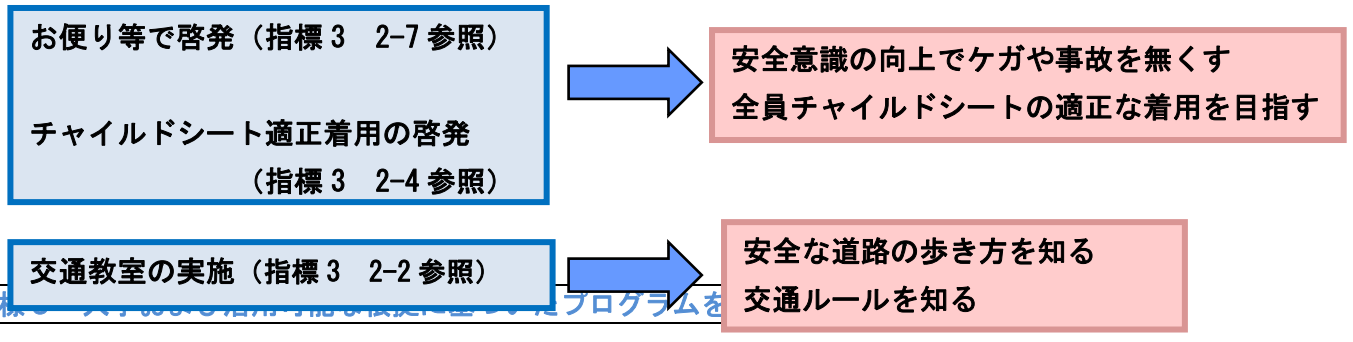
登降所時に通行する国道 372 号線や園舎前の道路が、池や川の水量の増加のため冠水したことがあります。そのため、万一に備え落ち着いて安全に避難できるよう毎月の避難訓練を行っています。また、保護者、近隣の高齢者の方、未就園児親子、自治会などと共に避難訓練を実施し、地域を巻き込み園児の安全の依頼を行っています。毎月実施することで、安全に対する園児の意識の向上が見られてきました。



課題２　国道 372 号線が近くにある

（１）　交通教室の実施

園舎前の道路は見通しが悪く、信号機が無い上、国道 372 号線の迂回道路になっており事故発生時などに車の通行量が多くなります。また、園舎周辺へ散歩に出かける機会も多いので交通教室を実施し、道路の歩き方や交通ルールを学び、安全について学ぶ機会としています。亀岡警察署指導係の方から、登園時にチャイルドシートの適正な着用の大切さを指導していただくなどし、安全意識の向上を図っています。保護者と一緒に交通教室を実施し、各家庭にも交通ルールについての理解を求めています。

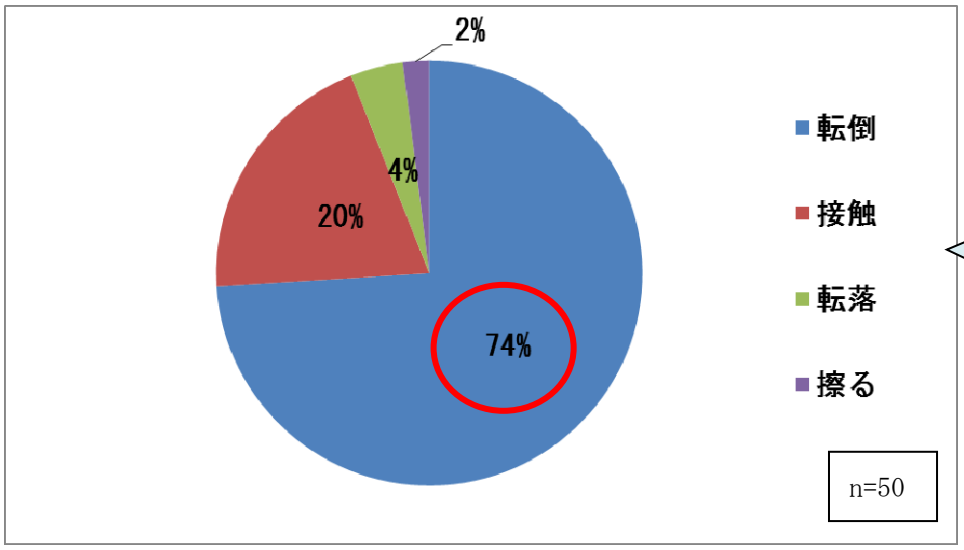


1　課題を導く要因分析

転倒のケガについて

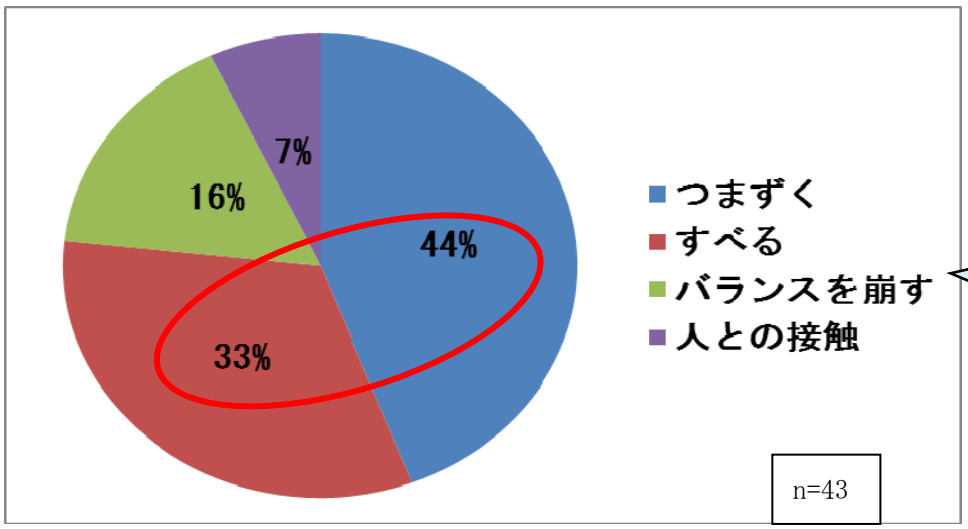
図-3 から見ると、東本梅保育所は 3・4・5 歳児の運動場でのケガが多く、1・2 歳児は保育室内でのケガが多いというデータが出ています。 ケガの直接機転はどちらも転倒が多く 3･4･5 歳児は 74%（図-6）、1・2 歳児は 43 パーセント（図-8）でした。また、転倒の原因として 3・4・5 歳児はつまずく、すべるを含めると 77%（図-7）、1・2 歳児はすべるが 50%を占めました（図-9）。環境的要因として、運動場ではコンクリート面の砂、石、段差などが考えられ、保育室では床が考えられます。このことから、園児の安全意識の向上と、環境改善をしていく事が課題であると考えます。

図-6　3・4・5 歳児の運動場におけるケガ（2011～2013 年度）



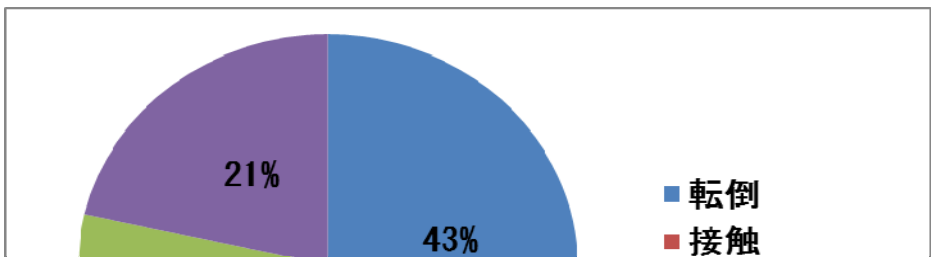
3・4・5 歳児の運動場のケガの直接機転は、転倒が最も多く、74%を占めています。

図-7　3・4・5 歳児の運動場における転倒の原因（2011～2013 年度）



間接機転としては、つまずく、すべるが多くなっています。

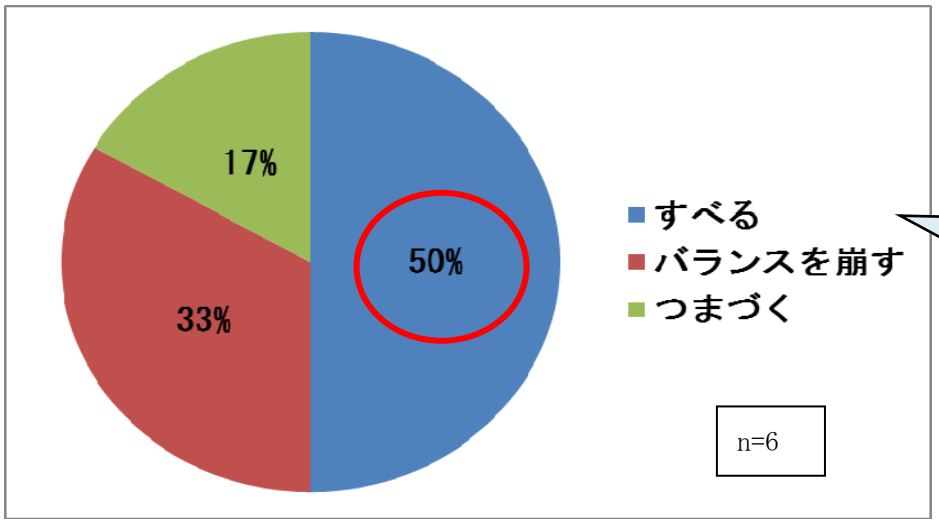
図-8　1・2 歳児の保育室におけるケガ（2011～2013 年度）



１・２歳児の保育室でのケガの直接機転は転倒が最も多く 43%ありました。

n=14

図-9　1･2 歳児保育室における転倒の原因（2011～2013 年度）



転倒の間接機転としては、すべるが 50%を占めました。

チャイルドシートの不適正な着用について　　指標 3　2-4 参照

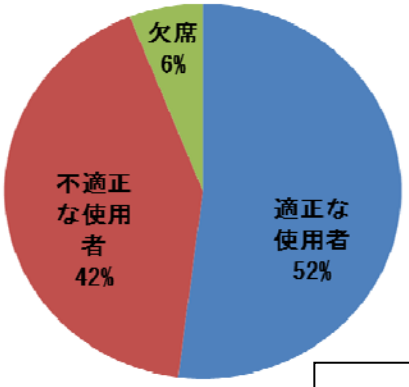
登降所時の様子を見てみると、ほとんどの家庭が車を利用されています。指標 4 にもある「交通教室」を通し交通ルールやマナーを啓発し、安全意識の向上を目指しています。駐車場でのチャイルドシート着用状況は約半数の家庭が適正な使用状況でした。2013 年 4 月から 2014 年 3 月までに、チャイルドシート不適正な使用によるケガが 3 件ありました。ISS に取り組み啓発を実施し、2014 年 4 月～2015 年 3 月までは 2 件となりました。

表-3　チャイルドシートの不適正な使用による事故やけが

2013 年 4 月～2014 年 3 月	2014 年 4 月～2015 年 3 月
3 件	2 件

図 - 10　チャイルドシート使用状況

（東本梅保育所データ）



n=30

2014 年 5 月 12 日実施

見えてきたことと課題は？

3・4・5 歳児は運動場での転倒が多い。
1・2 歳児は保育室による転倒が多い。

チャイルドシートの適正な着用が多い中、不適正な使用状況がある。

２　重点取組

予防対象	課　題	対　策
転倒防止による ケガ防止	3・4・5 歳児の安全意識の向上	主体者：園児・職員 安全意識の向上プログラム （１）　安全安心マップ作り （２）　安全集会
	環境の改善（1～5 歳）	主体者：園児・職員 環境改善プログラム （３）　安全点検 （４）　環境整備
チャイルドシート 着用	チャイルドシート着用率の向上と 安全意識の向上	主体者：保護者、園児、職員 チャイルドシート適正着用プログラム （５）交通教室と登降所時の安全指導

安全意識の向上プログラム

（１）安全安心マップ作り　　**指標 3　2-6**

園舎の見取り図を貼り出し、運動場のケガをした場所に園児と共にシールを貼ります。

シールを貼ることで、園児は運動場でどんなケガが多いかを認識することができ、その場にあった適切な行動について考えることでケガや事故防止意識の向上につながりました。

（２）安全集会　　**指標 3　2-1**

安全集会を実施し、運動場でのケガ・事故の予防や自分の身を守る方法について考えました。クイズ形式にすることで運動場のケガ・事故の起こりやすい場所を知ったり、運動場での遊びのルールを覚え、友だちに教え合う姿が増えました。「ハートちゃん」のワッペンをつけた年長児が園舎内外のケガをしやすいところをチェックし、みんなに知らせ安全に過ごす意識を持てるようにしています。

「ハートちゃん」のキーホルダーをかばんにつける ことで、ISS の取り組みをより意識するようになりました。

図−11　安全クイズの理解人数（2014 年 11 月～2015 年 1 月）

（人）　　（東本梅保育所データ）

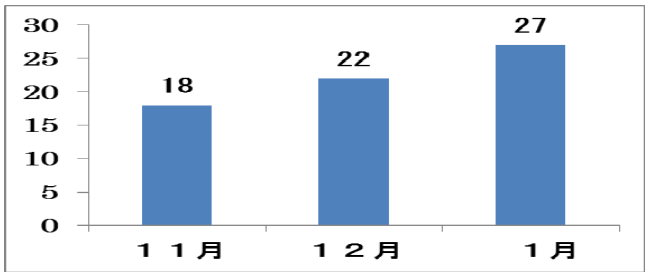


表-4　安全クイズの内

1　運動場に出る時に	
2　運動場の狭いとこ	
3　ブランコの前には	
4　シートベルトは	切ります

「安全・安心あいえすえす！」を合言葉に、園児の安全・安心に対する意識が高くなってきています。

環境改善プログラム

（3）安全点検　　**指標 3　3-1 参照**

全職員で、毎月 1 回マニュアルに従い安全点検を行い園舎内外の危険な個所がないか記録しています。日常の安全管理をすることで、安心安全な保育環境の改善・充実に努め、事故防止に繋げています。

表-5

【安全点検でチェックした危険個所】		
天井　ブランコ裏のフェンス（述べ 2 件）	⇒	**2 件　修復済み**

（4）環境改善　　**指標 3　3-2 参照**

滑りやすかった運動場のコンクリート面にグリーンマットを敷くと、転倒しにくくなり、ケガの件数が減少していることがわかりました（**図-12**）。

運動場の石拾いや整備は保護者と共に実施し、運動場のケガの軽減につながっています。また、1・2 歳児の保育室には、転倒や接触によるケガ予防として、クッションシートを敷きました。（**図-13**）

チャイルドシート適正着用プログラム

（５）交通教室と登降所時の安全指導　　**指標３　　2-2　2-4 参照**

定期的に交通教室を行い交通ルールについて学び、安全意識を高めます。

駐在所・近隣の高齢者・保護者・未就園児親子の方と行う機会をもち、地域全体で子どもを守り事故防止意識を向上しています。また、登降所時に交通ルールの大切さを啓発し、チャイルドシートの適正な着用を呼びかけました。その後、保護者へチャイルドシート使用についての意識アンケートを行った結果、適正な着用についての意識の向上がみられました。（図-14）

交通教室を実施し道路交通法（幼児用補助装置義務違反）を学び今後も、保護ルドシートの適正な着用に向けての啓発活動に取り組み、子どもたちの命を守りケガや事故の減少をめざして行きます。

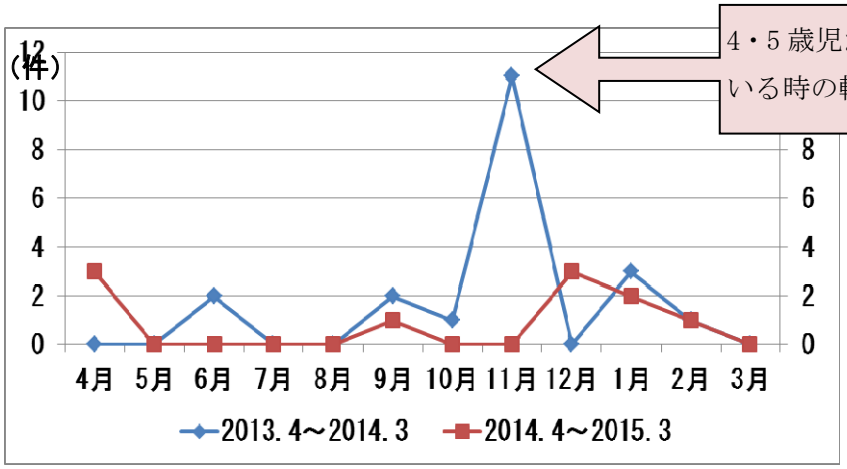
指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
安全意識の向上プログラム	【指標】園児が安全安心マップで危険を認識する 安全集会で安全に行動する意識の向上 【測定方法】安全クイズの理解人数（図-11）	【指標】運動場の転倒ケガの減少 【測定方法】ケガ数の記録（図-12）

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
環境改善プログラム （件）	【指標】安全点検をして環境改善する 【測定方法】安全点検による改善個所の数（表-5）	【指標】運動場と保育室のケガの減少 【測定方法】ケガ数の記録（図-12. 13）

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
チャイルドシート適正着用プログラム	【指標】保護者や園児のチャイルドシートの適正な着用に対する意識の向上 【測定方法】チャイルドシートの適正な使用状況（図-15） 保護者アンケートによる意識調査（図-14）	【指標】チャイルドシート適正でない着用によるケガや事故の減少 【測定方法】ケガ数の記録（表-3）

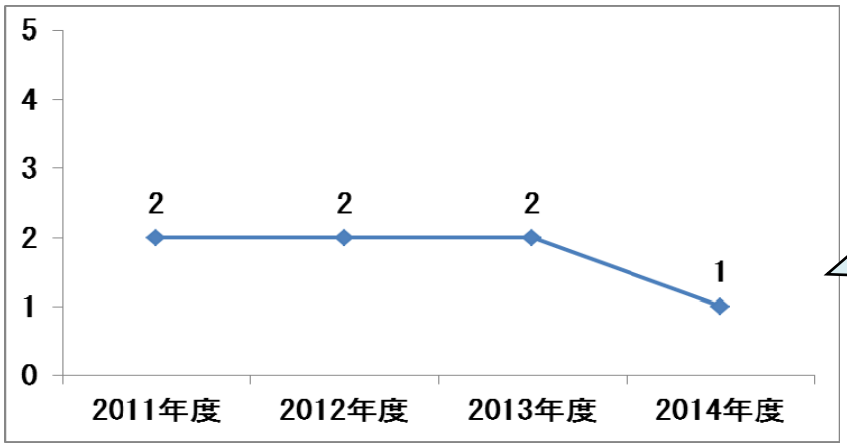
図-12　　3・4・5 歳児の運動場の転倒によるケガの件数（東本梅保育所データ）



4・5歳児が鬼ごっこをしている時の転倒が多いです。

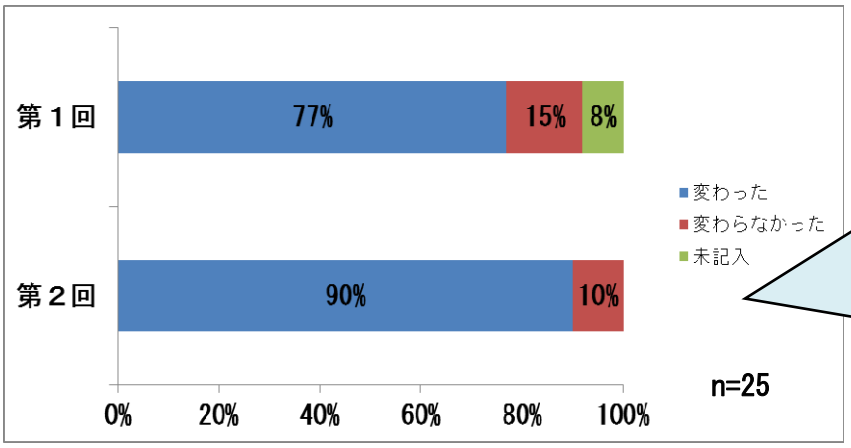
運動場の転倒のケガは、ISSの取組後、環境改善と安全への意識が高まり、減少傾向にあります。

図-13　1・2歳児の保育室の転倒によるケガの件数（東本梅保育所データ）



保育室の転倒のケガは、2014年度は減少しました。ケガの原因としては、年齢が低く歩行が未熟であると考えられます。

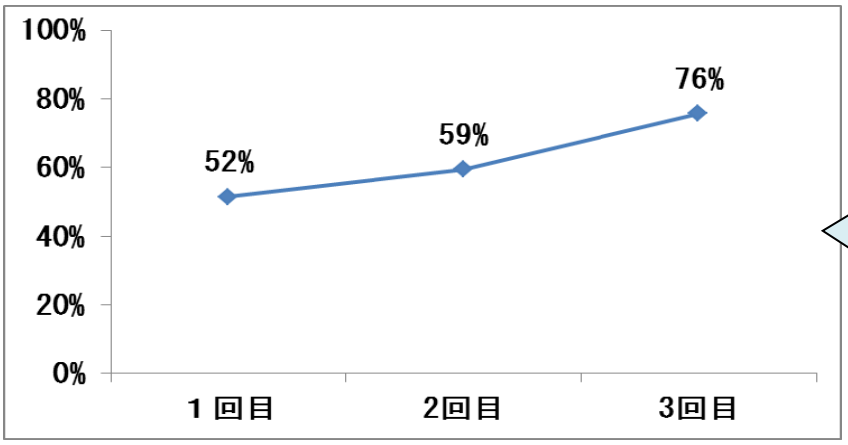
図-14　チャイルドシートの適正な着用に対する意識調査（東本梅保育所データ）



保護者へのアンケートを実施したところ、チャイルドシートの適正な着用についての意識が高まってきていることがわかりました。また、ISSの取組後、安全への意識が高まり変わったと答えた保護者は90%になりました。

第１回アンケート　2015年１月
第２回アンケート　2015年３月

図－15　チャイルドシート使用状況（東本梅データ）



登所時の着用率調査では、適正な着用率が増加し、意識の向上が見られます。
2014 年 5 月 12 日　（1 回目）
2014 年 6 月 23 日　（2 回目）
2014 年 11 月 11 日（3 回目）

５　課題と今後にむけて

（１）課題

○3・4・5 歳児の運動場のケガが多い

運動場での転倒によるケガの件数は減少傾向にあります（**図-13**）が、まだ依然として園内
では運動場のケガが多い状況です。原因として、つまずく、滑る、バランスを崩すなどが多
いことから、危険な場所の認識が十分ではなく、自分の体をコントロールする力が十分でき
ない園児がいると考えられます。

○1・2 歳児の保育室でのケガが多い

1・2 歳児の保育室内での転倒予防のため、環境面の改善を行っていますが、歩行能力の不
十分さもあり、転倒のケガはなくなっていません（**図-14**）。

○チャイルドシートの適正な着用に対する保護者の理解に差がある

ISS の取組を始めてから、玄関やお便り等で情報提示し交通安全について保護者に随時啓発
を行い、保護者の意識や関心は高まってきました。しかし、チャイルドシートの適正な着用
の実施についての正しい理解には、まだ差がある現状が見られます（**図-15**）。

（２）今後に向けて

○安全教育および取組の継承

安全安心マップやハートちゃんチェックの取組を今後も継続できるように、取り組みの内容や手順の視覚化、ＩＳＳの取組の年間計画を作成します。保護者や地域と一緒に実施する仕組みを作り、毎年職員や園児が変わっても、継続して安全意識の向上を図れるようにします。1・2歳児の保育室の環境面の安全について職員で点検するシステムを作り、環境の改善をさらに充実させます。

○基礎体力を作る運動遊びプログラムの充実

園児のケガの減少のためには、危険を回避する身のこなしや、自分の体をコントロールし守れるような動きができるような体づくりをすることが必要であると考えます。現在は、今まで継続してきた運動遊びに取り組んでいますが、より効果的に基礎体力をつけるために、専門家（明治国際医療大学・日本体育協会スポーツ指導員）による指導を受け、新たな運動や遊びを取り入れることにより、ケガの減少を目指します。

○チャイルドシートの適正な着用によるケガの減少

保護者・地域（駐在所・自治会・警察署等）と連携し、園児の身を守る大切さを引き続き啓発し、チャイルドシートの適正な着用率が100%になることを目指します。

亀岡市立中部保育所

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する

目指す子ども像

「元気に遊ぶ子ども」「思いやりのある子ども」

「感じ考え表現できる子ども」「意欲のある子ども」

園児の粘土作品

ISS スローガン

命は大事な宝物
やさしい心と
丈夫な体の
仲良し中部っ子

“ちゅうぶっこ”の生命と笑顔と人権の輝く

安全安心な保育所

玄関の、桜の大木と色とりどりの季節の花々が、笑顔はじける子どもたちを見守っている保育所。それが中部保育所です。地域に密着した保育所として、子どもたちを中心に多くの方々と連携し、絆を深め４４年の歴史を刻んできました。

ＳＣ理念に基づき、安全安心な保育環境・保育内容のあるべき姿を模索しながら子どもの「安全力」向上を推進してきました。そして、今まで以上に、安全安心な保育環境づくりを目指し、2013 年 9 月にＩＳＳ取組宣言を致しました。

こころも体も心地良く快適な居場所である保育所の安全安心は、最優先に保障されなければなりません。安全な保育環境の中で、安心して生き生きと楽しく過ごせることは、子どもたち・保護者・地域・職員の切なる願いです。

ＩＳＳの認証取得に取組むことは、基本的人権を尊重する理念に立ち、豊かな人間性を育む、めざすべき保育所づくりであり、私たちに課せられた責務でもあります。取組が成果をあげ、未来を担う子どもたちが安全安心な保育環境のなかで、自らを大切にし、周りの人をも大切にして、共に学び、共に成長することを願い、保護者・地域・職員が更に絆を深め、生命と笑顔と人権の輝く安全安心な保育所づくりに全力で取組んでまいります。

2015 年 3 月　亀岡市立中部保育所
所長　　秦　真智子

１　概要・職員と園児数

開所　1971 年 5 月

園児数　**表-1**　（2015 年 3 月現在）（人）

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	**合計**
人数	6	11	10	9	15	15	66

職員数　33 人（内訳：所長 1・所長補佐 1・養護師 1・作業員 1・給食調理員 3
長時間保育担当者 7・保育士 19）

２　保育所を取り巻く環境

保育所周辺は、田畑が広がり、四季の移ろいが感じられる自然が豊かな環境です。また、公共施設などが充実し、多くの人々が集う町です。

３　ケガの状況

データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

園内のケガ

図-1　年度別ケガ発生件数（2011 年度～2013 年度）

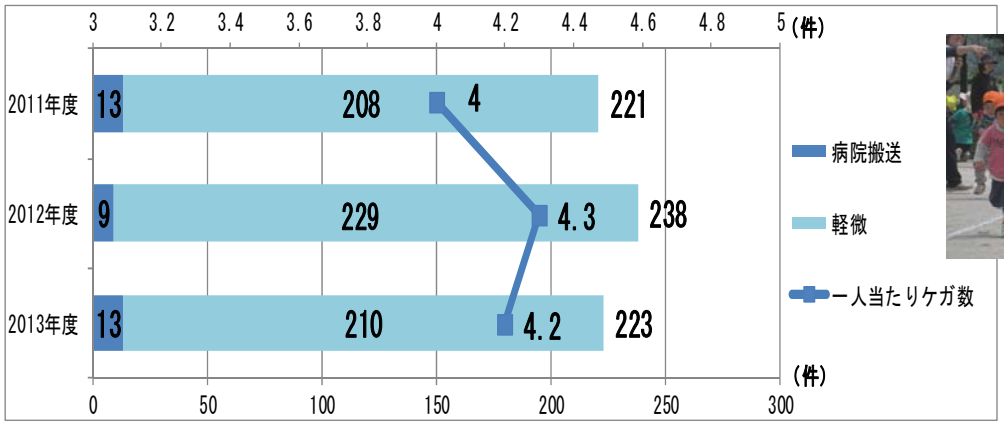
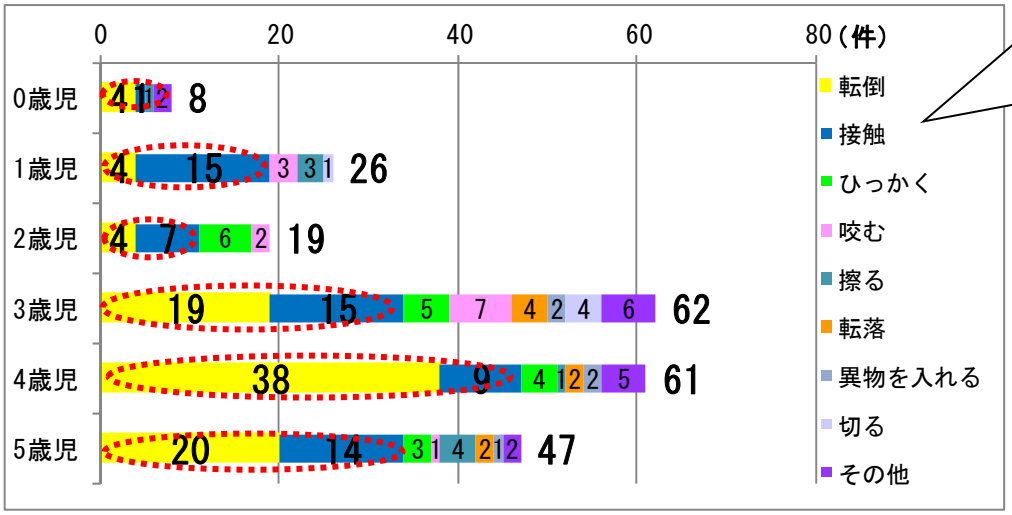
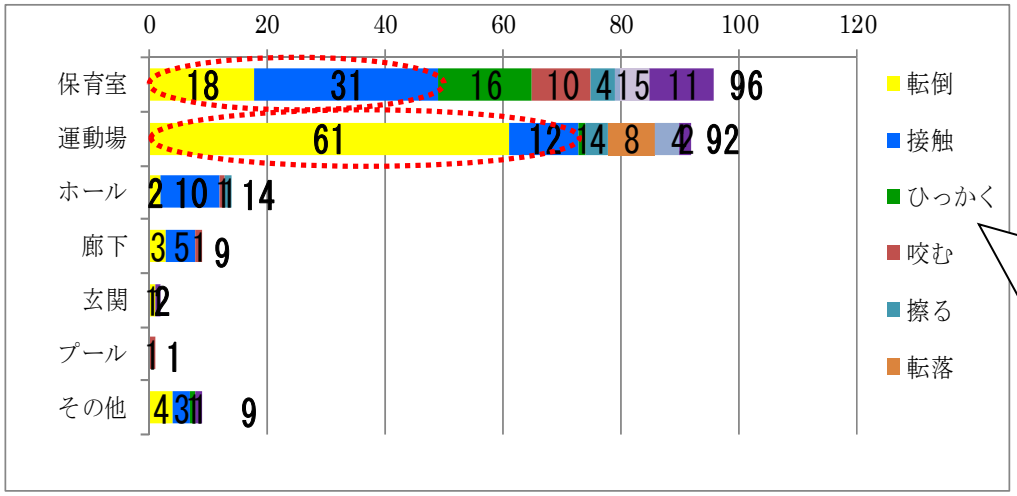


図-2　年齢別ケガ数と直接機転（2013 年度）



全ての年齢において転倒、接触によるケガ数が半数以上を占めています。

図-3　場所別ケガ発生数と直接機転（2013 年度）



転倒、接触によるケガ発生場所は、運動場、保育室、の順に多いことがわかりました。

４　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーした長期・継続的な予防活動をしていること

表-2　全体像

場所＼対象者		園児						職員	保護者・地域
		０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児		
園内	園舎内	1-1 1-2 1-3 1-4 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-9 3-1 3-2						1-1 1-3 2-1 2-6 3-1 3-2	1-4 1-5 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9 3-1 3-2
	園舎外	1-1 1-2 1-3 1-4 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-9 3-2						1-1 1-3 2-1 2-6 3-2	1-4 1-5 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9 3-2
園外	送迎中	2-1 2-6 2-8						2-1 2-6	2-6 2-8 2-10
	家庭	1-4 2-5 2-6 2-7 2-9						2-1 2-6 2-7	1-4 1-5 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9
	地域	1-4 2-5 2-6 2-7 2-9						2-1 2-6 2-7	1-4 1-5 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9

表-2 の見方
例）1－1
ねらい　取組番号

【ねらい・・・１　体づくり　２　安全教育　３　環境改善】

各種取組（凡例：①プログラム名　②対象 ③場所 ④実施者 ⑤概要）

下線部は ISS の取組宣言後に新規・改善した取組です。

1　体づくり

1-1	①	危険回避能力*1育成の為の基礎体力づくり				
	②	園児・職員	③	園内	④	保育士
	⑤	運動遊び*2（歩く、走る、止まる、避けるなど体をコントロールする遊び、体操、リズム遊び、外遊び、遊具遊び など）をする。				

＊１　危険回避能力とは、危険を予測、判断し、安全な行動をとる能力のことです。
＊２　運動遊びとは、体を使った運動を伴う遊びのことです。

1-2	①	危険回避能力育成の為の体幹育て				
	②	園児	③	園内	④	保育士
	⑤	体幹（腹筋・背筋）を鍛える為の運動をし、持続時間を測定する。				

1-3	①	運動遊びについての学習会				
	②	園児・保育士	③	園内	④	保育士
	⑤	危険回避能力育成、運動遊び、体幹育てについて学習をする。				

1-4	①	親子で運動遊び				
	②	園児・保護者	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	参観日などを活用し、親子で運動遊びをする機会をつくる。 家庭で出来る運動遊びを提案する。				

1-5	①	近隣地域の未就園児とその保護者の運動遊び				
	②	地域	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	運動遊びの必要性を啓発する。親子で運動遊びをする機会をつくる。				

２　安全教育

2-1	①	安全についての学び				
	②	園児・職員	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	「安全集会」＊３を実施する。（遊具の使い方、廊下やベランダの歩き方、ケガマップの使い方、友だちとの関わり方などのルール教育） 「交通教室」＊４を実施する。避難訓練を実施する。不審者対応をする。 職員研修（ISS について、交通ルール、不審者対応など）				

＊３　「安全集会」とは、子どもたちにとって効果的なタイミング、場所で安全に関する内容を考え合う会のことです。

＊４　「交通教室」とは、交通ルールに関する内容を考え合う会のことです。

2-2	①	園児による啓発活動「中部 ISS キッズ」				
	②	園児	③	園内	④	園児・保育士
	⑤	安全について考え、啓発物を作成し、園児が互いに啓発する。				

2-3	①	正しく靴を履く				
	②	園児	③	園内	④	保育士
	⑤	正しい靴の履き方を覚える。				

2-4	①	「仲良し集会」＊５を実施する				
	②	園児	③	園内	④	保育士
	⑤	友だちとの遊び方や、心地よいコミュニケーション、互いの人権を尊重し合うことを考える。				

＊５　「仲良し集会」とは、共に心地よく生活をするための方法を考え合う会のことです。

2-5	①	虐待を未然に防止する				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	園児の心と体の様子を観察する。保護者対象の相談事業を実施する。 要保護児童対策地域協議会*6で対策を検討する。				

＊6　要保護児童対策地域協議会とは、保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための協議を行う場のことです。

2-6	①	保護者と共にする ISS 活動				
	②	園児・保護者・職員・地域	③	園内・園外	④	保護者・職員
	⑤	保護者会*7会則*8に ISS 活動推進を明記し、防災学習会などを実施する。保護者が安全な送迎をする。親子で避難訓練に参加する。				

＊7　保護者会とは、保護者が相互に交流し、園児の保育環境の充実の為、保育所と協力し運営する会です。＊8会則とは、その会の規約です。

2-7	①	保護者向け ISS 啓発活動				
	②	園児・保護者・職員・地域	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	ISS 活動を啓発（文書の発行・活動の様子を掲示）する。				

2-8	①	近隣地域の未就園児とその保護者と共にする ISS 活動				
	②	地域	③	園内・園外	④	地域・保育士
	⑤	親子で避難訓練に参加する。 家庭でのヒヤリハットの情報を共有する。				

2-9	①	ISS 取組み校の曽我部小学校と ISS 交流				
	②	園児・地域	③	園内・園外	④	地域
	⑤	曽我部小学校「交通安全教室」に参加する。 中部保育所で ISS 交流会をする。				

3　環境改善

3-1	①	保育環境の整備「押しピンゼロ運動」				
	②	園児・保護者・職員・地域	③	園内	④	職員
	⑤	掲示方法を工夫し押しピンを使用しない。職員の意識の向上を図る。				

3-2	①	保育環境の整備（ISS 安全点検、環境改善）				
	②	園児・保護者・職員・地域	③	園内	④	職員
	⑤	ISS 安全点検を実施し、環境を改善する。 ケガの実態を分析し、必要な環境改善をする。				

指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

保育所は、０歳児から５歳児までの集団を対象に保育をしています。異年齢集団の活動には様々なリスクが伴い、常にリスクを予測しマネジメントする必要があります。

１　体の育ちが気がかりな園児（指標３　1-1　1-2）

●転倒を未然に防ぐ行動がとれない、基礎体力が不足している、危険回避能力が低いなどの様子があります。

●保護者と情報を共有する中で、園児の育ちを理解し、個々の発達や特性に応じて対応しています。

●専門性を要する相談件数は、増加（2013 年 14 件・2014 年 17 件）しています。

以上をふまえ、危険回避能力育成の為の「運動遊びプログラム」の実施、個々に応じた対応、専門機関との連携をしています。

その結果、プログラムの中の「体幹育て」においては図-10　図-11 のような結果が出ました。基礎体力の向上につながる筋力が増加していることがわかりました。

２　押しピンがある危険な環境（指標３　3-1）

●掲示する際に、押しピンを使用していました。

●押しピンは、ピン先が鋭利である為、落下により園児が触れたり踏んだりしてケガをするという危険があります。

以上をふまえ、ISS 取組宣言以降、「押しピンゼロ運動」と題し、掲示方法を工夫（セロテープなどを使用）しました。その結果、1168 個使用していた押しピンが 0 個になり、安全な環境の確保ができました。

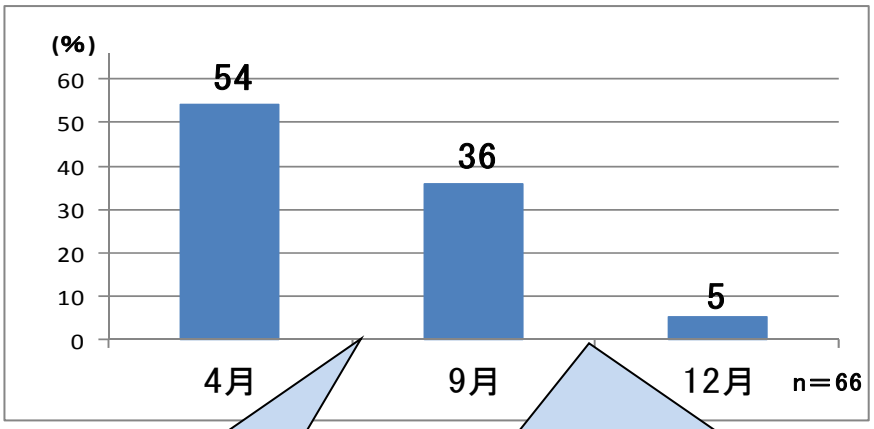
３　園児の転落と部外者との接触がある環境（指標３　2-1）

①高さ 60 ㎝のフェンスでは転落事故が起きる可能性がある。

②レンガ壁 60 ㎝に足をかけ、60 ㎝のフェンスを乗り越えて、部外者が容易に侵入できる。

①と②のリスクをふまえ、園児が運動場にある斜面に登らないよう、保育士が注意喚起を行うことで、効果は徐々に現れました。その後、環境改善として、ルールの可視化を目的とし、斜面の手前に黄色いペイントを施しました。さらに、安全集会でルール教育をすることで、園児の意識が変わり、斜面に登る園児が激減しました。（図-4）

図-4　斜面に登った園児数（2014 年 4 月～12 月）中部保育所データ



2014 年 4 月～9 月
保育士の働きかけ
「斜面には登っては
いけません」
と注意喚起をした。

10 月
安全集会の実施（ルール教育）
環境改善・ルールの可視化
（斜面手前に黄色の
ペイントを施す）

指標５　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

1　課題を導く要因分析

図-2 のように全ての年齢において、転倒、接触によるケガ数が半数以上を占めています。また、図-3 のように場所別においては、運動場、保育室の順に多いことがわかります。

図-5　転倒、接触によるケガの部位（2013 年度）

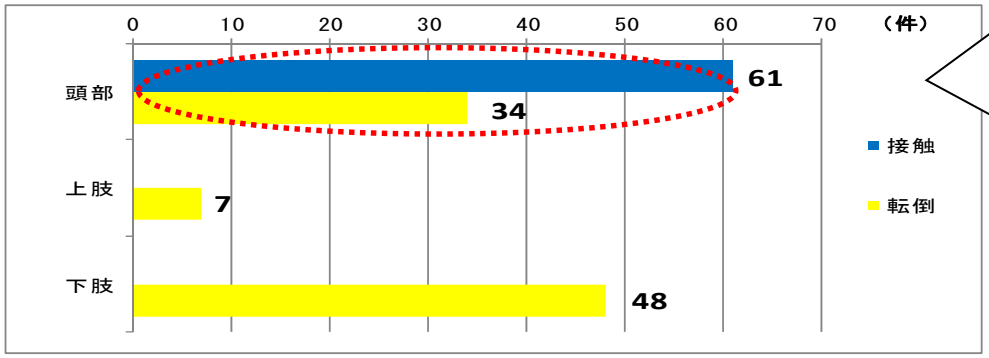


図-2 の転倒、接触のケガに着目しました。頭部・上肢・下肢に分別すると、頭部（頭・眼・頬・口・顎）が特に多いことがわかります。

図-6　転倒、接触による頭部のケガの間接機転（2013 年度）

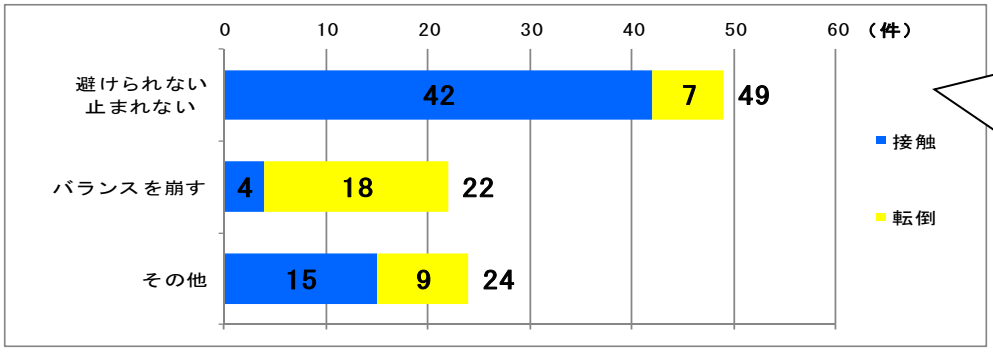


図-5 の頭部のケガの間接機転は、避けられない、止まれない、バランスを崩すなどでした。

課題（１）…転倒、接触による頭部のケガが多い

発生部位…頭部（頭・眼・頬・口・顎）が特に多い。（**図-5**）

発生要因…避けられない、止まれない、バランスを崩すことにより起こっている。（**図-6**）

発生要因を基に、作業療法士の指導を仰ぎまし。頭部のケガを未然に防ぐ為には、体をコントロールし、危険に瞬時に対応する筋力が必要であることがわかりました。

図-7　運動場の転倒、接触のケガ数と病院搬送件数（2012 年度～2013 年度）

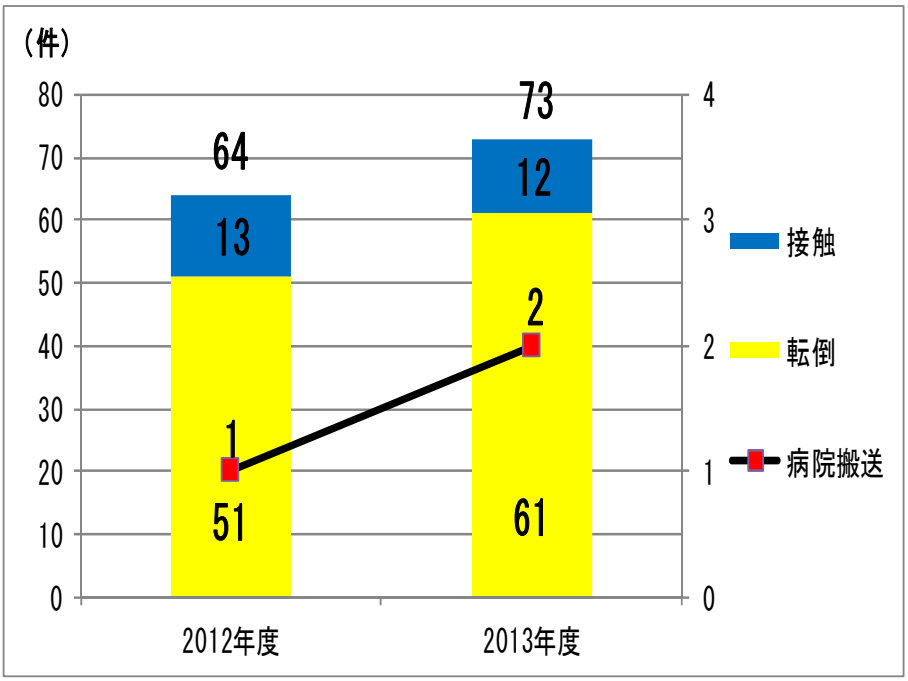


図-8　保育室の転倒、接触のケガ数と病院搬送件数（2012 年度～2013 年度）

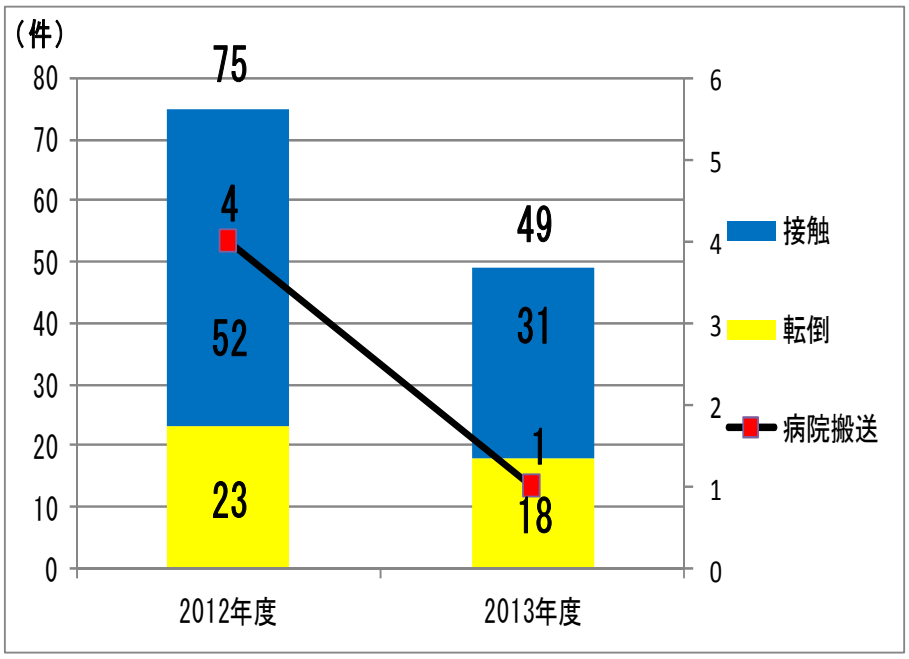


図-3 の場所別のケガ数を 2012 年度と 2013 年度とで比較しました。

運動場、保育室のケガ数の変化をみたところ、保育室は減少していました。それは、一定の対策をとってきたことでの結果だと考察できます。

運動場は増加し、病院搬送につながるケースもありました。

特に運動場の一部であるベランダは、園舎と運動場の間にあり約 126 ㎡の範囲で一面コンクリートです。園児が運動場に出る時や登所、降所の時に必ず通る使用頻度の高い場所でもあります。

以上のことから、ケガが増加している運動場と、特に運動場の一部であるベランダに着目することにしました。

課題（２）…転倒、接触による運動場のケガが多い

発生場所…運動場が多い。（**図-3**）

発生要因…転倒、接触によるケガが多い。（**図-3**）

２　重点取組

	予防対象	課題	対策
(1)	転倒、接触による頭部のケガ	基礎体力の向上（腹筋力、背筋力の向上）	①　運動遊びプログラム
(2)	転倒、接触による運動場でのケガ	安全意識の向上	①　ベランダは歩きますプログラム
		環境改善	②　環境改善プログラム

３　各種取組

（１）①　運動遊びプログラム（指標３　1-1）

園児の基礎体力の向上の為、作業療法士の指導を仰ぎました。危険回避能力を育てる為、運動を伴う遊びの方法、内容、取組時間を見直しました。特に体幹（腹筋、背筋）の育ちが必要だと学び、筋力の向上を目指し、新たに**運動遊びプログラム**を作成しました。

四つ這い

運動遊びプログラム

園児

[腹筋力、背筋力の向上の為の運動]

しがみつき、四つ這い、よじのぼり、両足ジャンプと着地、手押し車
引っ張り合い、押し合い、「たまご」のポーズ、「ウルトラマン」のポーズ
平均台渡り　など

[避ける、止まる、バランスを保つ運動]

足首の筋肉を鍛える（かかと歩き、つま先歩き）など

保育士

体幹の育ちの測定方法を学ぶ

保護者

参観日での親子運動、家庭での運動遊び

しがみつき

作業療法士の指導のもと、体幹（腹筋力、背筋力）を鍛えるポーズを「たまご」「ウルトラマン」と名付けて取り組んでいます（**指標３　1-2**）。日常的に運動遊びの中に取り入れることで、継続的な取組となっています。その持続時間を年に２回測定し効果を図っています。

腹　筋

背　筋

（２）①　ベランダは歩きますプログラム（指標３　2-1）

子どもたちにとって効果的なタイミング、場所で安全について考え合う会として「安全集会」を行います。運動場（ベランダを含む）でのケガを予防する為のテーマを設定します。

［安全集会のテーマ］

運動場……正しい靴の履き方**（指標３　2-3）**、運動場使用のルール、固定遊具（鉄棒、滑り台、登り棒、ブランコなど）使用のルール、玩具使用のルール、人との接触を防ぐ動線、ベランダでのケガの現状、ベランダ使用のルール、人との接触を防ぐ動線　など

図-3、図-7 から運動場に着目しました。特に、運動場の一部であるベランダでは、走ったことが原因のケガが３件ありました。また、2014 年 4 月のベランダでの園児の行動を観察したところ 61%の園児が走ったことがあることがわかりました。

以上の状況を基に**ベランダは歩きますプログラム**（**指標３　2-1）**を作成しました。また、保育士主導型のプログラムだけではなく、園児が主体となった活動として、園児を「中部 ISS キッズ」と命名しました**（指標３　2-2）**。その活動が園児の意識の向上につながっています。

特に、ベランダでの園児の行動観察をし、効果を検証しています。

ベランダは歩きますプログラム

園児

「中部 ISS キッズ」の活動

・危険箇所の発見と改善、啓発

・視覚教材の作製と啓発

職員

現状の確認と課題の検討

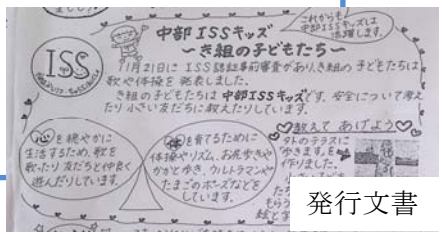
園児への教育の必要性と方法検討

安全集会の実施

保護者

「中部 ISS キッズ」の活動理解

「中部 ISS キッズ」の啓発活動



発行文書

（２）②　環境改善プログラム（指標３　3-2）

転倒、接触を予防する為に、**環境改善プログラム**と題し、運動場の安全点検をします。危険個所を抽出し、環境改善に努めています。また、園児と環境について考え合い、改善することもあります。

環境改善プログラム

職員

安全点検、環境改善

［安全点検後の改善箇所］

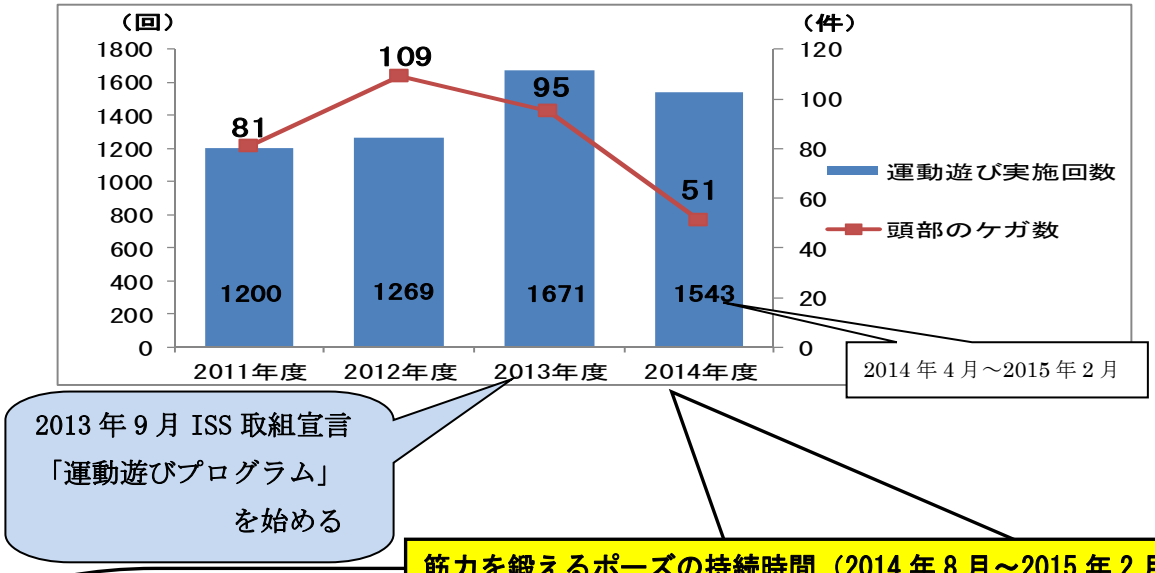
取組の理解、保育環境についての意見交流

運動場……運動場の整備（石ひろい）、運動場使用のエリア分け、固定遊具（鉄棒、滑り台、登り棒、ブランコなど）使用のルールの可視化、斜面手前の段差へのペイント
ベランダの整備（砂の除去、コンクリート剥離部の改修）、玩具の設置場所、玩具の整備（破損玩具の撤去、改修）など

指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
運動遊び プログラム （体幹育て）	【指標】腹筋力、背筋力の向上 【測定方法】筋力を鍛えるポーズの持続時間	【指標】頭部のケガの減少 【測定方法】ケガ数の記録

図-9　運動遊びの実施回数と転倒、接触の頭部のケガ数（2011 年 4 月～2015 年 2 月）



2013 年 9 月 ISS 取組宣言
「運動遊びプログラム」
を始める

筋力を鍛えるポーズの持続時間（2014 年 8 月～2015 年 2 月）

図-10　腹筋力の持続時間

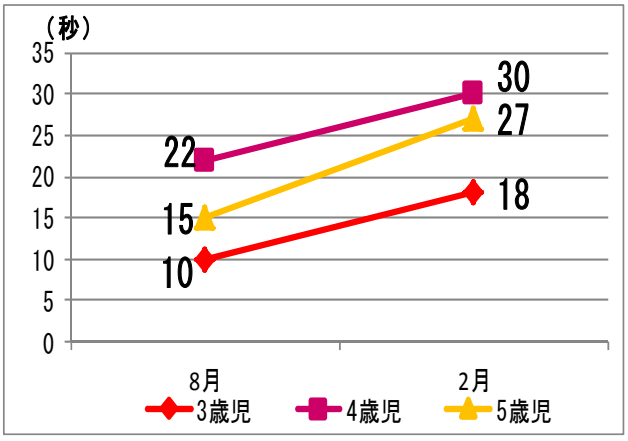
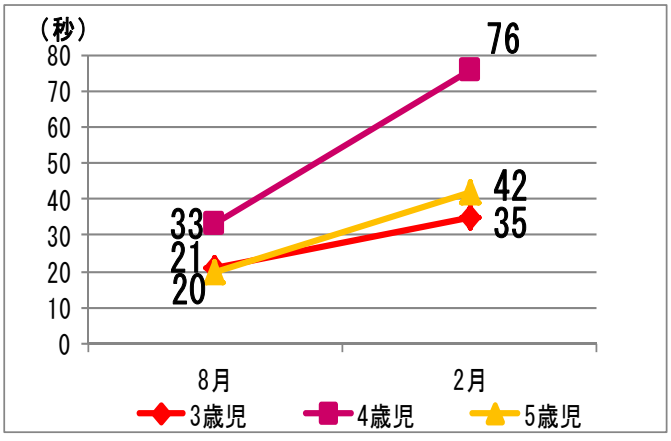


図-11　背筋力の持続時間



中部保育所データ

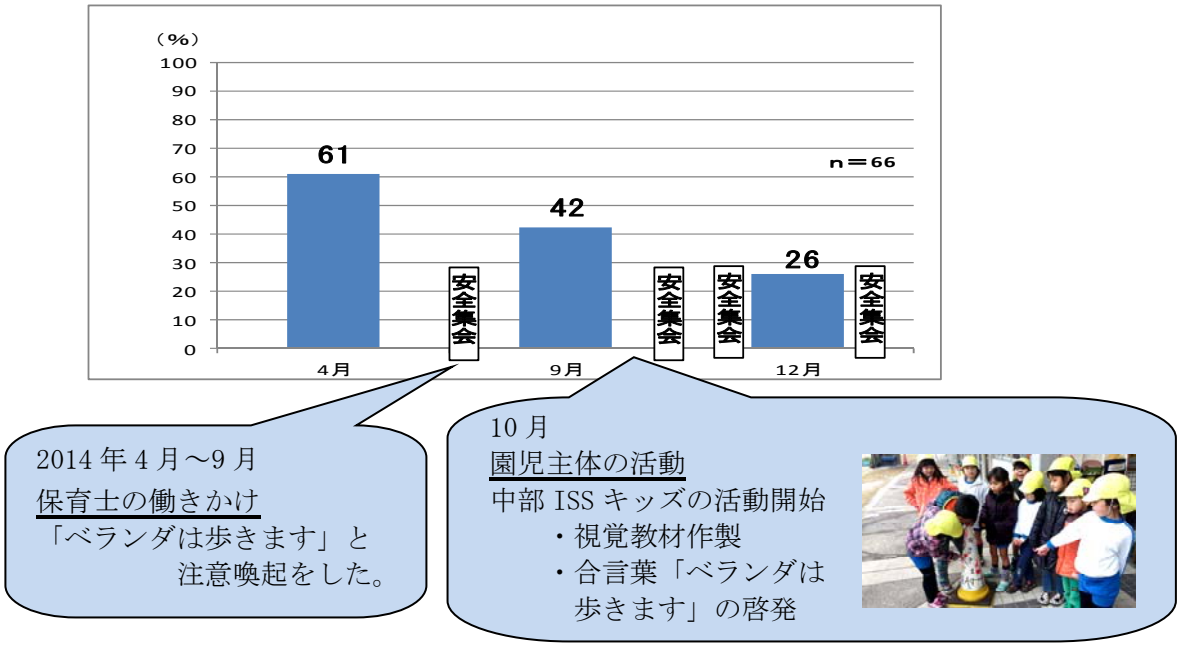
2013 年度は ISS の取組宣言以降、実施回数に大きな変化はないものの、運動遊びの方法、内容、継続時間を見直したことにより、ケガ数は減少しました。特に着目した「体幹育て」による筋力の増加がみられました。頭部のケガとの関係を今後更に検証していきます。

「運動遊びプログラム」の取組の結果、ケガは減少傾向にあります。（図-9）

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
ベランダは歩きますプログラム	【指標】 安全集会に参加しベランダを歩く園児の増加 【測定方法】 安全集会の実施回数とベランダでの行動観察	【指標】運動場でのケガの数の減少 【測定方法】 ケガ数の記録

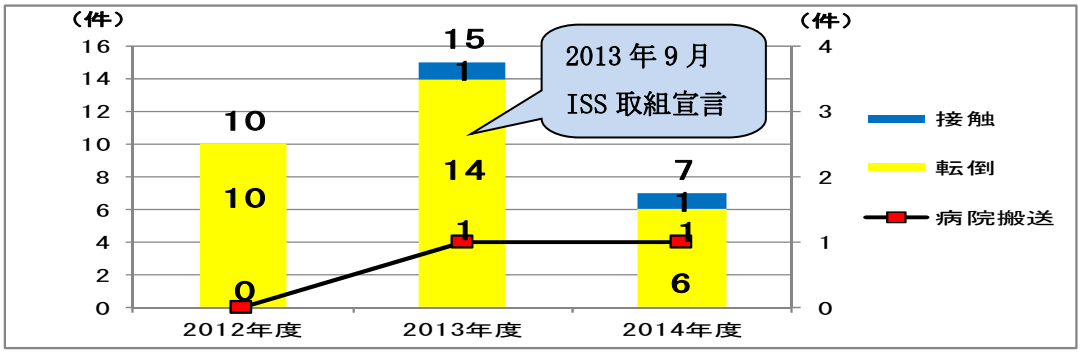
安全集会の実施回数（月）	4 回（5 月・10 月・12 月・1 月）

図-12　ベランダを走る園児数（2014 年 4 月～12 月）中部保育所データ



「中部 ISS キッズ」は、視覚教材の設置場所を考え、「ベランダは歩きます」という合言葉を年下の園児に啓発しています。その結果、「ベランダは歩きます」と言える園児が増え、ベランダを走る園児が減りました。安全教育と園児主体の活動、視覚教材の活用が有効であることからこの取組を継続していきます。「ベランダは歩きますプログラム」の取組の結果、ケガは減少傾向にあります。（図-13）

図-13　ベランダのケガ数と病院搬送件数（2011 年 4 月～2014 年 12 月）



プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
環境改善 プログラム	【指標】 安全点検による環境改善箇所の増加 【測定方法】 安全点検の実施回数と環境改善数	【指標】運動場での ケガ数の減少 【測定方法】 ケガ数の記録

・安全点検を毎月 1 回、計 12 回実施し、198 箇所改善しました。
・押しピンを 0 個にする取組は指標 4 の 2 で示しています。

5　課題と今後に向けて

●課題

[園児]

・ISS の取組を始め、新たに「運動遊びプログラム」を作成し、危険回避能力を育てる為の運動遊びを進めてきました。その結果、転倒、接触による頭部のケガは減少傾向にあります。しかし、2014 年度も 51 件発生したことから課題が十分に解決されているとは言えず、頭部のケガを予防するための運動遊び（特に体幹育て）の効果があるかどうかは、まだ判断できる状況ではありません。

[保護者]

・保護者会の会則に ISS の理念が明記され、保育所と協働の取組ができました。保育所からの啓発による一定の効果はあると判断できます。更に効果的に取組を進める為には保護者の協力が不可欠です。保護者との協働の取組が少なく、ISS の理念の啓発が不十分であったと考えられます。

[職員]

・ISS の取組を始め、職員の安全への意識が一定向上しました。しかし、経験や意識の差による共通理解の不足から実践につながらないことがありました。

[地域]

・就学先の曽我部小学校が ISS 取組校であったことで、職員同士、園児と児童の ISS 視点での交流が実現しました。しかし、他の就学先である小学校との ISS 視点での交流が出来ていません。
・未就園児の家庭でのケガの状況の把握と、保護者との情報交流が不十分でした。
・園児が地域で多くの地域の方々の見守りの中で安心して生活する為に、また、地元地域での園児のケガ、事故を予防する為に、地元の関係機関との連携が必要だと考えます。ISS の取組については機会を捉え啓発しています。それと共に、関係機関が主催される各行事への参加はしているものの継続可能な計画的なものではありません。

●今後に向けて

［園児］

・運動遊び（特に体幹育て）の効果と頭部のケガの関係性について、筋力の測定と効果の検証を進めます。作業療法士の指導を仰ぎながら、より効果的な方法、内容、取組時間を検討します。幼児期運動指針、保育所保育指針を基に発達に即した運動遊びを進めます。

［保護者］

・保護者との情報共有、意見交流から園児の家庭での状況をつかみ、保育所での生活やケガとの関係を考察します。その情報を保護者と共有することで園児、保護者の安全を確保します。さらに、ISS の理念が家庭の中でも生かされるよう啓発方法、内容、回数を工夫します。そして、ISS の取組を進める為には、保護者の協力が不可欠であることを啓発し、協働で取り組む内容を検討します。

［職員］

・ISS 推進リーダーが中心になり、ISS の理念、取組を資料にし、職員相互で意見交流しながら、全職員が共通理解の上で実践できるようにします。それをもとに ISS の理念の理解を進め、安全意識、危機管理意識の向上を目指します。

［地域］

・園児の就学先である曽我部小学校（ISS 取組校）との ISS 交流会を 1 年に 2 回開催し、職員同士、園児と児童の交流の場とします。また、他の就学先小学校との連携も進めます。園児の園外でのケガ、事故予防し、就学後のケガ、事故も予防する為、今までの交流に加え、ISS 視点を盛り込んだ内容で実施します。

・未就園児の家庭での安全確保の為、ケガの状況を把握した上で、計画的に ISS 視点での情報交流し、ISS の理念が家庭の中でも生かされるよう啓発方法、内容、回数を工夫します。

・地元の関係機関との交流を、計画的にすることにより継続可能な取組にします。

亀岡市立保津保育所

ISS スローガン

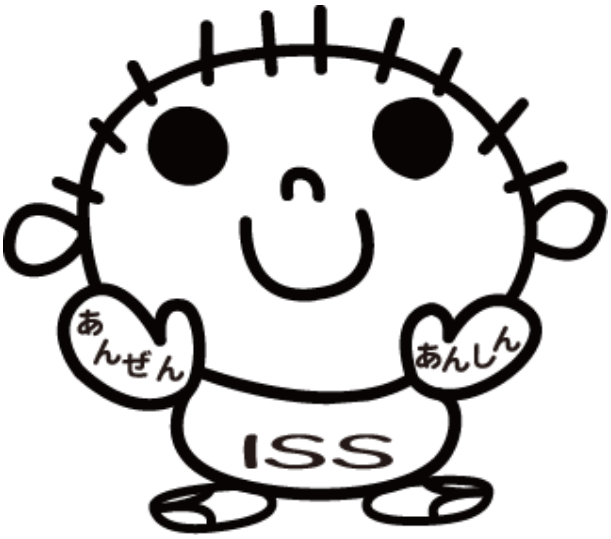
じょうぶなからだで　けがをなくそう！

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する

目指す子ども像

「元気に遊ぶ子ども」「思いやりのある子ども」
「感じ考え表現できる子ども」「意欲のある子ども」



保津保育所　ISS イメージキャラクター

あんづちゃん

安全（あんぜん）・安心（あんしん）・保津（ほづ）保育所から名前を付けました。

みんなでつくる安全安心な保育所

～みんなともだち　つながれなかまたち～

保津保育所は、豊かな自然に囲まれ、地域の皆さんの温かいまなざしに見守られながら、人権を大切にする心を育み、豊かに生きていく力の基礎を育てる保育を進めてきました。そして、亀岡市のセーフコミュニティ活動の中で保育所での安全対策に取り組み、さらに安全安心な保育所づくりをめざして、2013 年 9 月にインターナショナル・セーフスクール（ＩＳＳ）の取組宣言をしました。

初めにＩＳＳの取組を職員が共通理解し、外傷データを分析する中で、課題と解決に向けたプログラム作りを進めました。取組の柱を「丈夫な体づくり」と「安全教育」とし、丈夫な体づくりでは、開所当初から続けているぞうり保育や散歩、牛松山登山も大切な取組として位置づけました。安全教育では、子どもたちが危険だと気付いたことをみんなに知らせるなど、主体的に参加できる活動を取り入れています。「あんづちゃんのコーンを置いてから、遊ぶんやな。」「ＩＳＳやのに危ないなあ。」という声を聞く時、子どもたちの中にも安全力の向上がうかがえうれしく思います。また、玄関周辺でのけが予防の取組は、保護者とともに進める中で成果が表れています。

今後も、かけがえのない一人一人の命を守るＩＳＳの取組を、子どもたち、保護者、地域の皆さんとのつながりを大切にしながら進め、安全安心な保育所づくりに努めていきます。

2015 年 3 月　亀岡市立保津保育所

所長　石田　英子

1　概要・職員と園児数

開所　1980 年　4 月

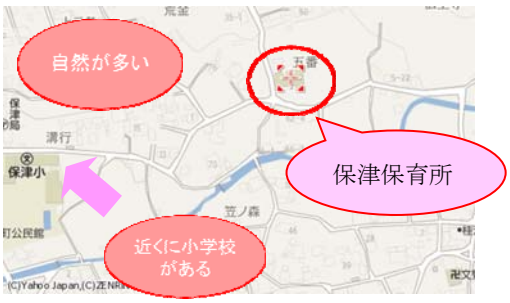
園児数　**表-1**　2015 年 3 月現在（人）

年齢	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	**合計**
人数	4	6	10	7	6	33

職員数　15 人（内訳：所長 1・所長補佐 1・作業員 1・給食調理員 2
長時間保育担当者 2・保育士 8）

2　保育所を取り巻く環境

保津保育所は、亀岡市の東部に位置し、田畑に囲まれた静かな環境です。保育所の近くには小学校や自治会、文化センター、駐在所などがあり日頃から様々な行事などで交流しており、保津町全体で園児の様子や安全面を見守っていただいています。



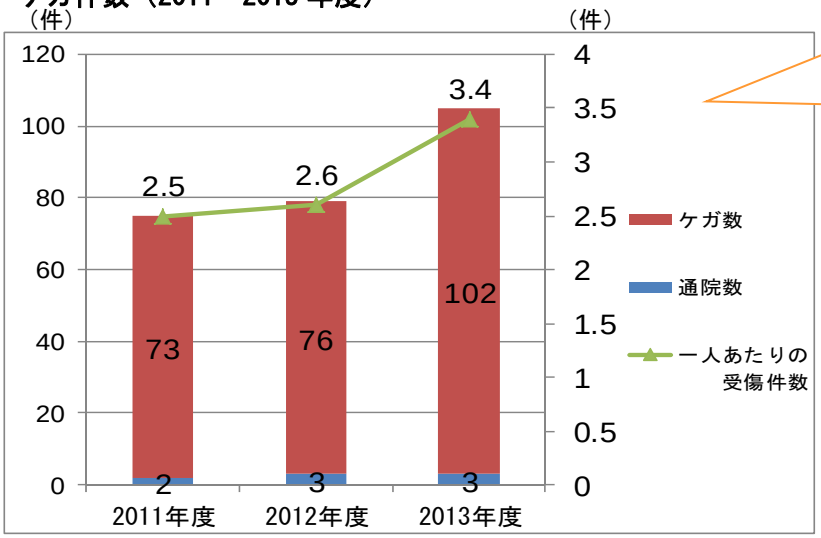
亀岡市

3　ケガの状況

データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

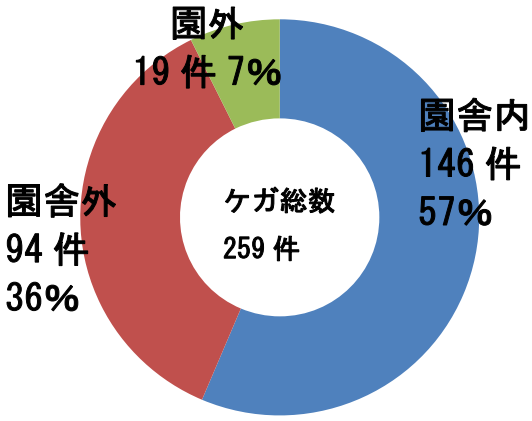
①　全体のケガ

図-1　ケガ件数（2011～2013 年度）



過去 3 年間のケガ傾向は、主に通院を要しない軽微なケガが増加している。

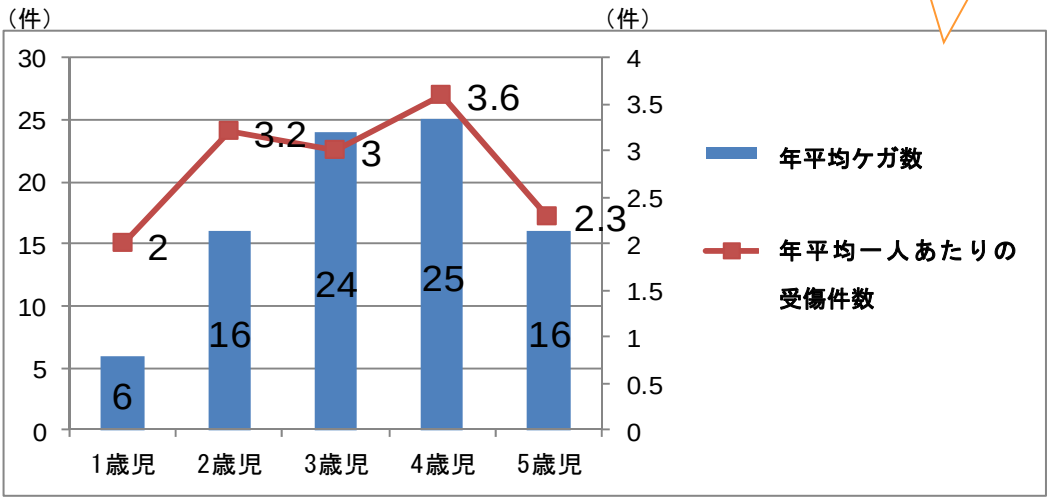
図-2　ケガが発生している場所と件数（2011～2013 年度）



ケガ発生場所の割合をみると、園舎内での発生が 57%と高い。

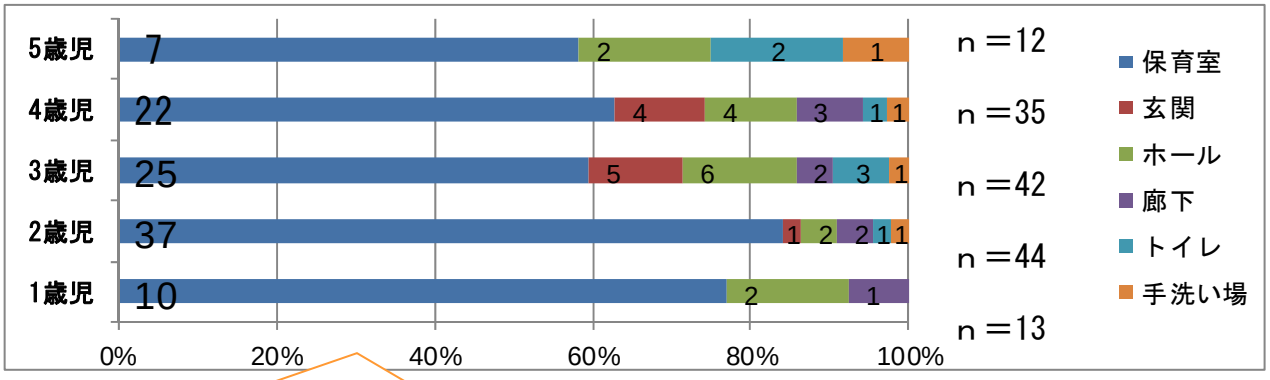
年平均一人あたりの受傷件数をみると、2 歳児・3 歳児・4 歳児の受傷件数が多い。

図-3　年平均年齢別ケガ件数と年平均一人あたりの受傷件数（2011～2013 年度）



② 園舎内のケガ

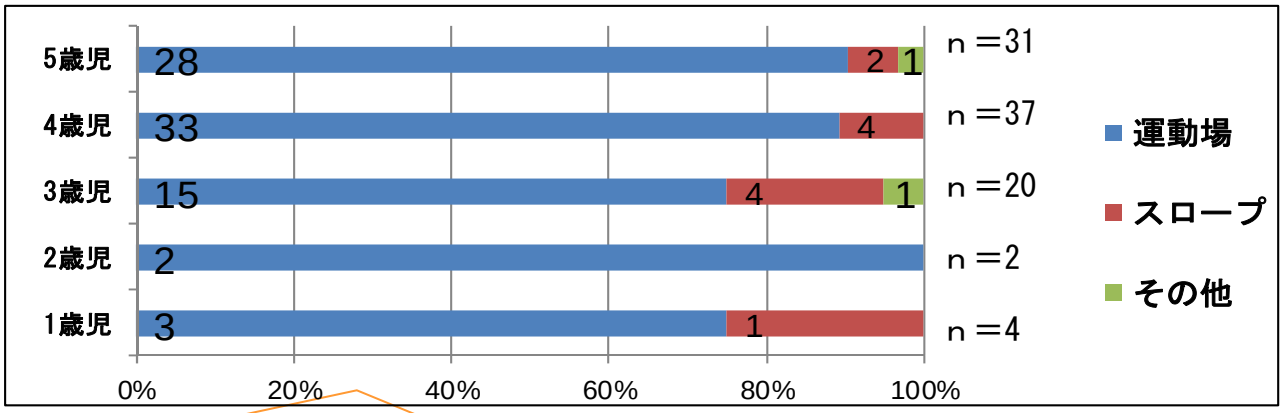
図-4 園舎内の年齢別ケガ発生場所（2011～2013 年度）



園舎内では、すべての年齢において保育室でのケガが多い。

③ 園舎外のケガ

図-5 園舎外の年齢別ケガ発生場所（2011～2013 年度）



園舎外では、すべての年齢において運動場でのケガが多い。

表-2 の見方

例）1－1

ねらい　取組番号

4　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-2　全体像

場所＼対象者		園児					職員	保護者・地域
		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
園内	園舎内	1-1 1-3	2-1 2-4	2-5 3-1	3-4		1-1	2-4 3-4
	園舎外	1-3	2-1 2-4	2-5 3-2	3-3	3-5	3-5	2-4 3-5
園外	送迎中	2-1	2-2 2-3	2-4			2-2	2-2 2-3 2-4
	家庭	2-2	2-3 2-4	2-5 2-6	2-7		2-2 2-6	2-2 2-3 2-4 2-6 2-7
	地域	1-2	2-2 2-3	2-6 2-7			1-2 2-2 2-6	2-2 2-3 2-6 2-7

【ねらい　１　丈夫な体づくり　２　安全教育　３　環境改善】

各種取組　　**（凡例：①プログラム名　②対象 ③場所 ④実施者 ⑤概要）**

（下線部はＩＳＳの取組宣言後に新規・改善した取組です）

１　丈夫な体づくり

1-1	①	布ぞうり				
	②	園児・職員	③	園舎内	④	職員・保護者・地域
	⑤	開所間もなく（1981 年）から園児の丈夫な体づくりを目的に、園舎内では年中素足に布ぞうりをはいて生活している。園児に、足の親指と第 2 指で鼻緒をしっかりはさみ、同時に指を使って歩くように繰り返し指導している。布ぞうりは保護者の手づくりで、年 3 回布ぞうり講習会を開催し、地域の方が講師に来てくださり、指導を受けて作っている。				

1-2	①	保津町内の散歩・牛松山登山				
	②	園児・職員	③	地域	④	職員
	⑤	足腰が丈夫になることをめざし、年間を通して保津町内を散歩したり、5 歳児は春に牛松山登山（標高 629m）を行っている。				

1-3	①	運動あそび				
	②	園児	③	園内	④	職員
	⑤	丈夫でしなやかな体づくりをめざし、週 2 回全園児で体操を行ったり、ピアノの曲に合わせてリズムあそび*1を行っている。				

＊1 リズムあそび…曲に合わせて全身を動かすあそび

２　安全教育

2-1	①	安全集会*2				
	②	園児	③	園内・送迎中	④	職員
	⑤	安全集会を行い、園児のケガ予防意識を高めている。 固定遊具の使い方…遊具を使う時の約束を決め、正しい使い方を 5 歳児から小さい園児に伝えている。 降所時の約束…門に続く坂道を駆け下りる事の危険性を伝え、降所時の約束の絵表示を見ながら繰り返し確認している。 廊下の約束…廊下の曲がり角では、衝突する危険性があるので、廊下に視覚表示を設置し前を見て歩くよう伝えている。 保育室の約束…保育室での約束を繰り返し確認している。				

＊2 安全集会…園児が安全について学ぶ集会

2-2	①	交通教室*3				
	②	園児・職員・保護者	③	園外	④	職員
	⑤	年2回、交通教室を実施している。亀岡警察署の方に来ていただいたり、職員が交通教材を活用して園児に交通ルールの大切さや約束事を伝えている。また、道の正しい歩き方や横断歩道の渡り方などの練習を行っている。				

＊3交通教室…保育所で交通ルールについて学ぶ集会

2-3	①	子育て講演会				
	②	園児・保護者	③	園外	④	職員
	⑤	保護者を対象に、家庭や地域、送迎中における園児のケガを防ぎ、命を守るための講演会を開催している。				

2-4	①	安全啓発				
	②	園児・保護者	③	園内・送迎中・家庭	④	職員
	⑤	安全集会で確認した降所時の約束を、保護者向けに玄関掲示し、保護者への啓発を行うと共に、登降所時間帯は必ず職員が門に立ち見守りと安全確認を行っている。保育中は門扉に施錠を行い、長時間保育中は門扉の安全バーを閉めてもらうよう啓発している。 降所時の約束について保護者にアンケートを実施した。(2014年10月)				

2-5	①	なかよし集会*4				
	②	園児	③	園内・家庭	④	職員
	⑤	友だちとの遊び方や、関わり方、互いの人権を大切にすることに気づけるように人形劇や人権啓発ビデオの上映などを行っている。				

＊4なかよし集会…園児の優しい心を育むことを目的に行う集会

2-6	①	地域啓発				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	地域・家庭	④	職員
	⑤	地域の行事に参加し、保育所で行っているISSの取組について知らせて、理解と協力をお願いしている。また、地域の方々を保育所行事に案内し安全に配慮して保育を行っている様子をみてもらっている。				

＊5要保護児童対策

2-7	①	虐待を未然に防止する				
	②	園児・保護者・地域	③	家庭・地域	④	職員
	⑤	園児の心と体の様子を観察する。保護者対象の相談事業を実施する。要保護児童対策地域協議会*5で対策を検討する。				

地域協議会…保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための競技を行う場

３　環境改善

3-1	①	保育室内の角カバー
	②	園児　③　園舎内　④　職員
	⑤	園児の衝突によるケガを予防するため、ロッカーや手洗い場に角カバーを取り付けている。

設定理由　・玄関と門の間はコンクリートの坂道のため転倒する危険があり、倒れると重症になり

3-2	①	門扉に安全バーロックのお願い表示
	②	園児　③　園舎外　④　職員・保護者・地域
	⑤	園児の飛び出し防止のため、出入りの際には必ず門扉の安全バーを閉めてもらうよう啓発と表示を行っている。
3-3	①	あんづちゃんコーンの設置
	②	園児　③　園舎外　④　職員
	⑤	ゆれるブランコに衝突することを防ぐために、ブランコで遊ぶ時には、「ならぼうね」「はいらないでね」と書いてある、あんづちゃんコーンを置いてから遊ぶことを約束としている。コーンの設置と片付けは、園児自身で行っている。

3-4	①	「おかえりのやくそく」の掲示
	②	園児・保護者　③　園舎内　④　職員
	⑤	園児が視覚で理解できるよう、玄関に「おかえりのやくそく」の絵表示を掲示し啓発している。
3-5	①	石拾い
	②	園児・職員・保護者　③　園舎外　④　職員
	⑤	転倒によるケガを予防するために、園庭の石拾いを園児と共に行っている。

指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

図-9 で見られるように、登降所時のケガが多く、坂道を駆け下りて車道に飛び出す危険がある。

玄関と門の間はコンクリートの坂道のため転倒する危険がある。

	やすい。 ・門を出るとすぐ車道で、飛び出しや乗車・降車時の事故のリスクが大きい。 ・園児が門扉を開けて車道に飛び出す事例があった。
現状	・降所時、坂道を駆け下りて転倒するケガが多い。
既存の取組	・安全集会で降所時の約束を行っている。（**指標 3　2-1**） ・年 2 回の交通教室を実施し、道路を歩くときは保護者と手をつなぐ約束の確認や、道路の安全な渡り方を練習している。（**指標 3　2-2**）
対策内容	・降所時の約束を園児の実態に合ったものに変更し、安全集会で園児に約束の内容と目的を知らせている。（改善）（**指標 3　2-1**） ・保育中は門扉に施錠を行い、長時間保育中は門扉の安全バーを閉めてもらうよう啓発している。（**指標 3　2-4**） ・登降所時間帯に職員が門で見守り、手をつないで安全に降所するよう啓発している。（改善）（**指標 3　2-4**）
実績	＜2013～2014 年度 12 月末まで＞　　安全集会 6 回　交通教室 4 回　安全啓発（随時）
取組結果	・転倒によるケガが減っている。 ・取組を継続してきた結果、園児が車道へ飛び出した事による事故は一度も起きていない。

スロープは手をつないで
歩く約束をしています。

指標５　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

１　課題を導く要因

（１）保育室と運動場でのケガが多い

図-4・図-5 の年齢別ケガ発生場所から、園舎内では保育室、園舎外では運動場がすべての年齢においてケガが多いことがわかり、ケガの直接機転と間接機転を調べることにしました。

図-6　ケガ総数から園舎内・園舎外でのケガ発生場所と件数（2011～2013 年度）

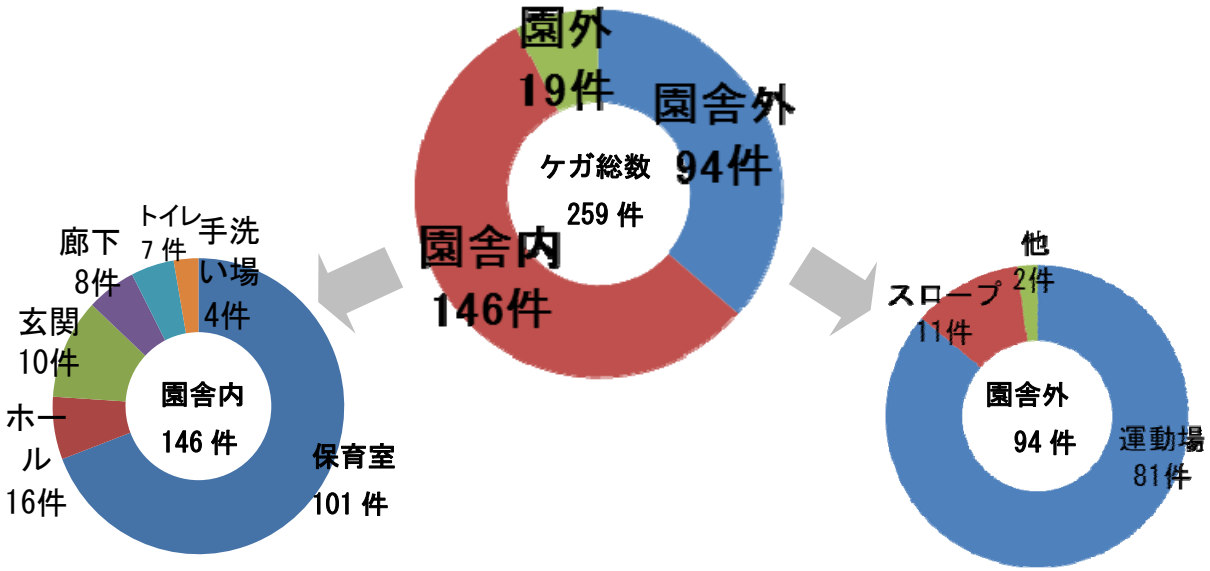


図-7　保育室と運動場での直接機転別ケガ件数（2011～2013 年度保津保育所独自データ）

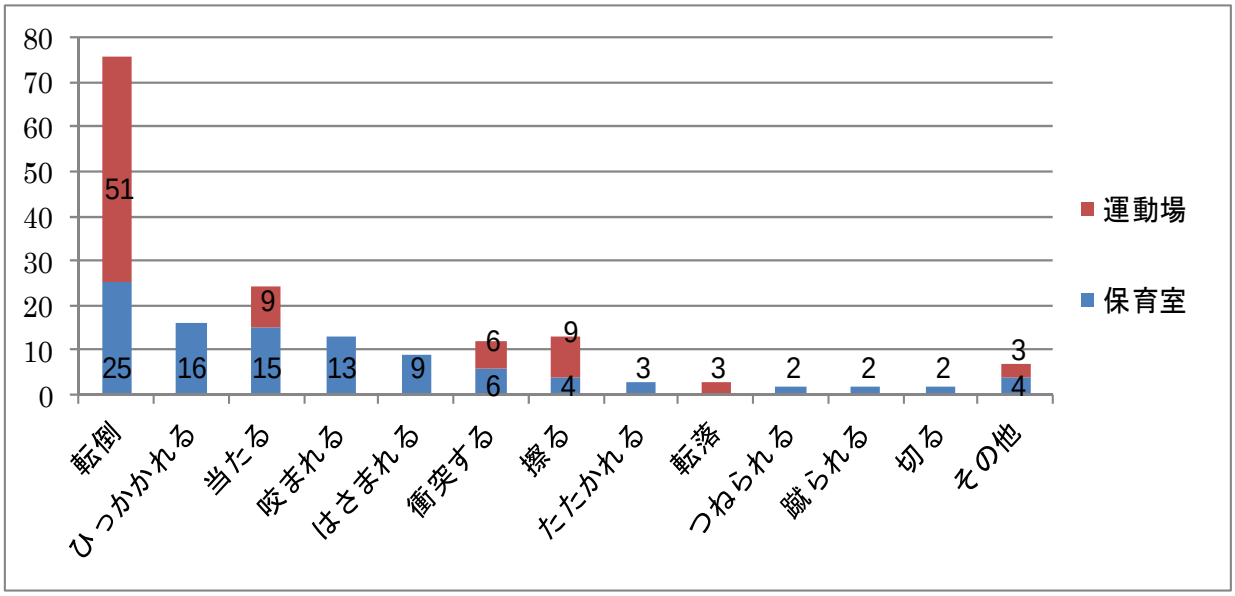


図-8　保育室と運動場での転倒によるケガの間接機転（2011～2013 年度保津保育所独自データ）

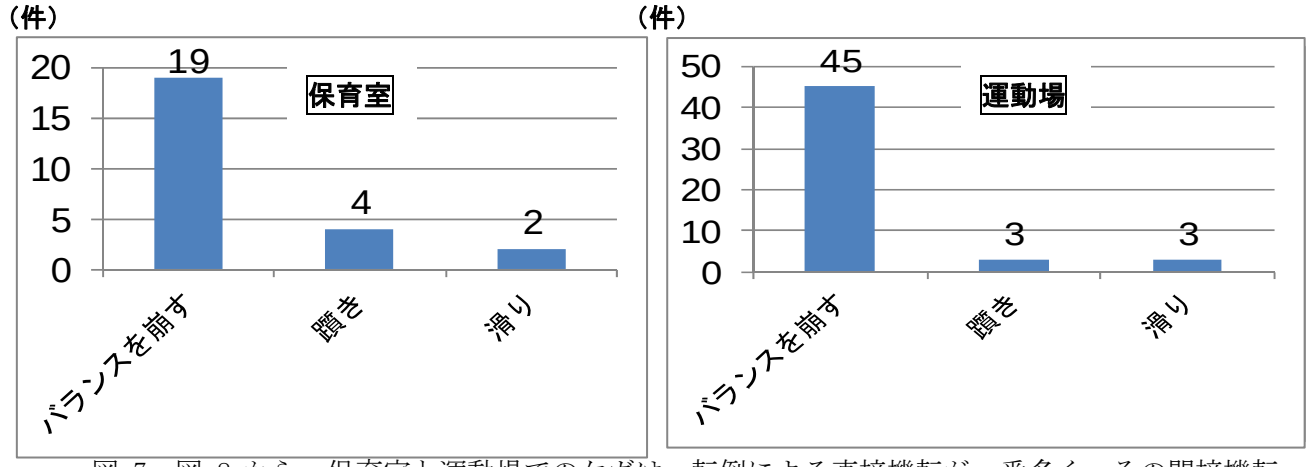


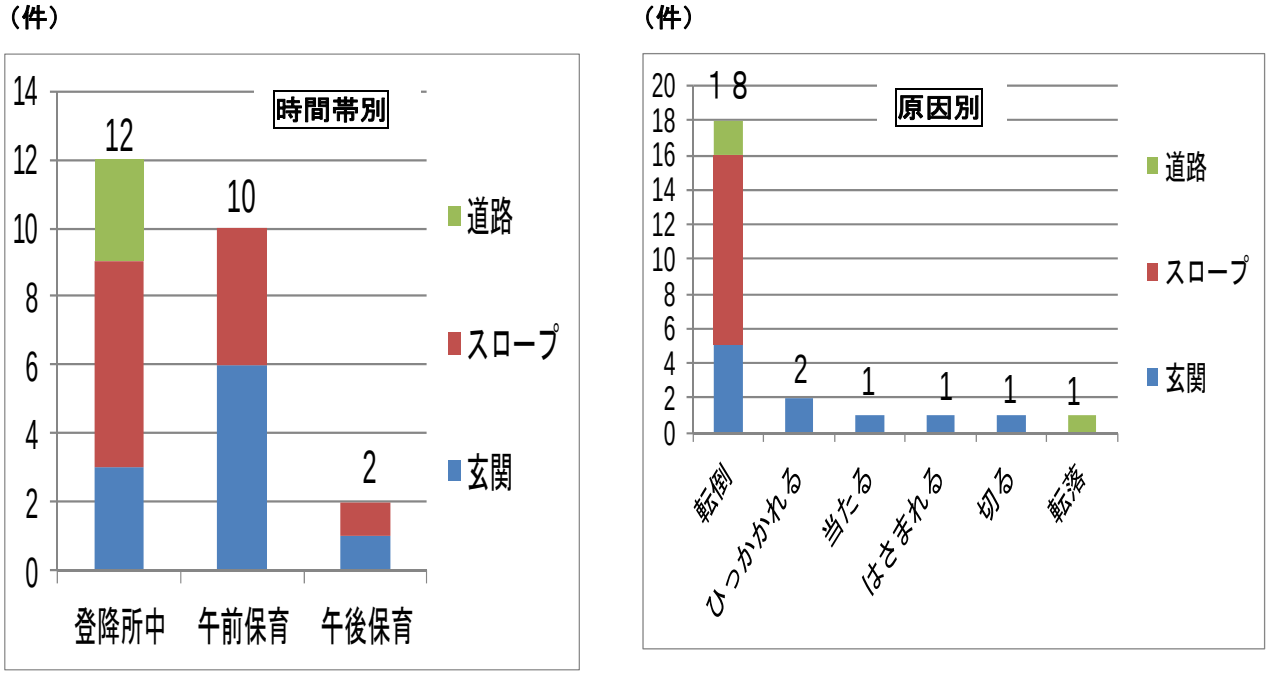
図-7・図-8 から、保育室と運動場でのケガは、転倒による直接機転が一番多く、その間接機転を見るとバランスを崩したことによるケガが大半を占めています。今後は、布ぞうり（指標 3　1-1）保育で園児のバランス感覚を育て、全身を使った遊びを積極的に保育に取り入れていくことで足腰を丈夫にし、転倒によるケガを減らしていこうと考えました。

（２）ハイリスク環境の『玄関から門周辺』でのケガについて

図-5 から、園舎外では運動場の次にスロープでのケガが多いことに着目し、ハイリスク環境の『玄関から門周辺』でのケガデータを調べました。

図-9　ハイリスク環境の『玄関から門周辺』でのケガ件数（時間帯別・原因別）

（2011～2013 年度保津保育所独自データ）



道路

スロープ

玄関

登降所時間帯に転倒によるケガが多く、降所時の約束を園児だけでなく保護者に知らせて、親子でケガ予防に努める必要がある事が分かりました。また、門から園児の飛び出しなどの重大なケガを予防するために、保護者や来園者の協力を求める取組も行っていくことにしました。

２　重点取組

（１）　保育室と運動場での転倒によるケガが多い

転倒によるケガ防止プログラム

① 布ぞうり保育の充実

② 全身を使った運動あそび

保育室と運動場の環境改善プログラム

③ 安全環境づくり

（２）ハイリスク環境の『玄関から門周辺』でのケガが多い

親子一緒の安全力向上プログラム

④ 安全集会の実施

⑤ 登降所時間帯の声掛けによる安全啓発

⑥ 門扉に安全バーロックのお願い表示

３　各種取組

表-4　転倒によるケガ防止プログラム

目的	保育所での園児の外傷を減少させる
目標	園児の転倒によるケガを減少させる
対象者	園児
既存の取組	布ぞうり保育 運動あそび（体操・リズムあそび）
ISS 取組内容	・布ぞうりの鼻緒を挟み、足の指を使って歩くよう指導する。（改善）（**指標３　1-1**） ・バランス力向上のための運動あそびを取り入れる。（改善）（**指標３　1-3**）
実績	＜2013～2014 年度 12 月末まで＞ 布ぞうり保育（毎日）　体操（毎週２回）　運動あそび（随時）

① 布ぞうり保育の充実

足の親指と第 2 指で鼻緒をはさみ、同時に指に力を入れて歩くよう指導することで、床を指で捕地しバランスをとる能力を高めています。

鼻緒を挟んで歩くことを意識しています。

保護者は地域の方に指導をしてもらい、布ぞうりを作っています。

② 全身を使った運動あそび

体操やリズムあそびなどの、全身を使った遊びをとおして足腰を鍛え、転倒しない丈夫な体づくりを行っています。

運動あそびをしています。

表-5 保育室と運動場の環境改善プログラム

目的	保育所での園児の外傷を減少させる
目標	園児の保育室と運動場での転倒によるケガを減少させる
対象者	園児
既存の取組	保育室内の角カバー（**指標 3　3-1**） 石拾い（**指標 3　3-5**）
ISS 取組内容	あんづちゃんコーンの設置（新規）（**指標 3　3-3**）

安全環境づくり

保育室の手洗い場やロッカーなどに、角カバーを取り付け、転倒からの衝突による衝撃を和らげています。

石を踏む事による転倒や、転倒時に石があることでケガが重症にならないように、石拾いをしています。

動いているブランコと園児が衝突して転倒するケガを防ぐために、ブランコ周囲のプランターと、両サイドにあんづちゃんのコーンを設置し、園児の侵入を防いでいます。

表-6　**親子一緒の安全力向上プログラム**　（指標４　再掲）

目的	保育所での園児の外傷を減少させる
目標	ハイリスク環境の『玄関から門周辺』での園児のケガを減少させる
対象者	園児・保護者
既存の取組	・安全集会で降所時の約束を行っている。（**指標３　2-1**） ・年 2 回の交通教室を実施し、道路を歩くときは保護者と手をつなぐ約束の確認や、道路の安全な渡り方を練習している。（**指標３　2-2**）
ISS 取組内容	・降所時の約束を園児の実態に合ったものに変更し、安全集会で園児に約束の内容と目的を知らせている。（改善）（**指標３　2-1**） ・保育中は門扉に施錠を行い、長時間保育中は門扉の安全バーを閉めてもらうよう啓発している。（改善）（**指標３　2-4**） ・登降所時間帯に職員が門で見守り、手をつないで安全に降所するよう啓発している。（改善）（**指標３　2-4**）
実績	＜2013～2014 年度 12 月末まで＞　安全集会 6 回　交通教室 4 回　安全啓発（随時）

④　安全集会の実施

『玄関から門周辺』の危険性を園児にわかりやすく伝え、安全に降所するための約束を知らせる集会を行っています。

⑤　登降所時間帯の声掛けによる安全啓発

安全集会の内容を写真で表示することで、保護者に降所時の約束を知ってもらい、親子で安全に降所できるように支援しています。また、登降所時間帯には職員が門で親子の様子を見守り、安全確認を行っています。

安全集会の内容を玄関に掲示し、親子で降所時の約束の共通理解を行っています。

登降所時間帯には職員が門で見守り、手をつないで降所するように啓発しています。

⑥　門扉に安全バーロックのお願い表示

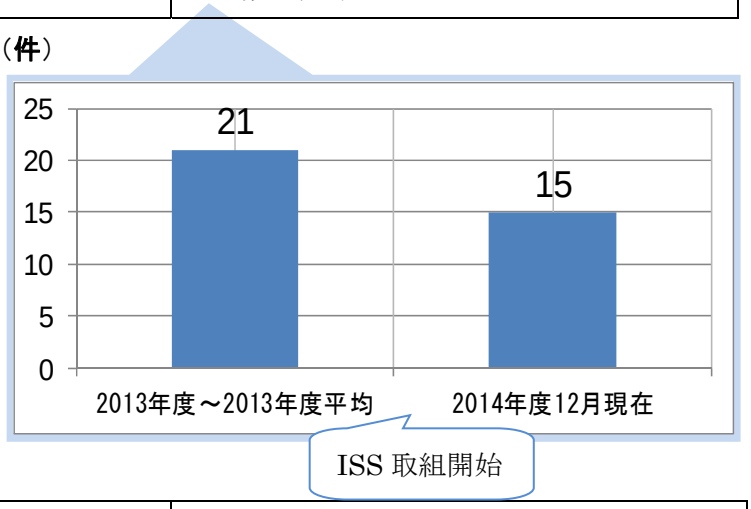
職員が門にいない時間帯、特に長時間保育時間帯など保護者や来園者が玄関を開けた後は、必ず門扉の安全バーを閉めてもらうように啓発と掲示をしています。

保護者だけでなく、来園者にもわかるように掲示しています。

指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
転倒によるケガ防止プログラム	【指標】園児のバランス力の向上 【測定方法】バランス保持時間	【指標】 保育室と運動場での転倒によるケガの減少 【測定方法】 ケガ数の記録

図-10　バランスを崩したことによる転倒のケガ件数（2011～2014 年度 12 月現



バランスを崩したことによるケガ件数は少し減っている。

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
保育室と運動場の環境改善プログラム	【指標】保育室と運動場の環境改善を行う 【測定方法】環境改善箇所	【指標】 保育室と運動場での転倒によるケガの減少 【測定方法】 ケガ数の記録

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
親子一緒の安全力向上プログラム	【指標】 ・園児や保護者が、玄関の危険性について認識する 【測定方法】 ・降所時の約束を知っている園児の数 ・保護者アンケートから、降所時の約束を知っている保護者の数（**図-11**）	【指標】 園児や保護者が降所時の約束を守る 【測定方法】 降所時の約束を守れている親子の数	【指標】 玄関から門周辺でのケガの減少 【測定方法】 ケガ数の記録

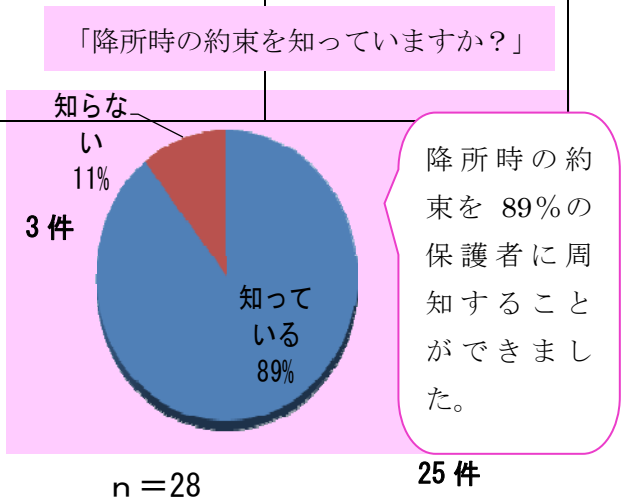


図-11　保護者アンケートの結果（2014 年 10 月実施）

５　課題と今後に向けて

【課題】

・保育室と運動場で、バランスを崩すことにより転倒する園児は少し減少しているが（図-10）、まだ転倒によるケガは多く、取組の効果が表れているかどうかは検証できていません。

・降所時の約束（指標 3　2-1）や安全啓発（指標 3　2-4）を行う中で保護者の安全意識が高まり、これまで以上に、園児の安全を守ろうとする行動が見られます。しかし、親子で手をつながず道路を歩く姿もまだあります。

・職員は、園児の外傷予防について話し合う時間を作っているものの、不定期での実施となっており、また研修会等で学んできた職員からの伝達研修が十分ではなく、職員の安全意識に差があります。

【今後に向けて】

・保育士が足腰を育てるあそびを計画的に取り入れることにより、園児のバランス力向上に努めます。（体操、かけっこ、登山、散歩、リズムあそび、トランポリン、縄跳びなど）

・バランス力を鍛えることがケガ減少につながるかを検証するために、保育士が園児のバランス力を測定します。（年間 2 回）

・親子が手をつないで安全に登降所できるよう、職員が、毎日、登降所時間帯に門周辺に立ち見守

りと、声かけを行います。

・職員が、保護者向けの保育内容研修の中で ISS の取組説明を行ったり、園児のケガの現状報告を毎年行い、保護者啓発を行います。

・職員は、毎月定期的に ISS についての話し合いや伝達研修を行うことで安全意識の向上を図り、共通理解のもとで ISS の取組を進めていきたいと思います。

亀岡市立川東保育所

ISSスローガン

げんきいっぱい　かわひがしっこ
あんぜんあんしん　あい・えす・えす！

保育方針　養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する

めざす子ども像　「元気に遊ぶ子ども」「思いやりのある子ども」
「感じ考え表現できる子ども」「意欲のある子ども」

かわひがしっこの合言葉　『安全・安心　あい・えす・えす！』

川東保育所では、友だちと楽しく元気に過ごし、生活やあそびの体験から多くのことを学び、生きていく力の基礎を培っています。こうした中、2013 年 9 月にインターナショナルセーフスクールの取組宣言をし、活動が始まりました。

ＩＳＳの活動を子どもたちにわかりやすく浸透させるために、“まもるんじゃー”のヒーローごっこからスタートさせていきました。『安全安心　あい・えす・えす！』を合言葉に、かっこよくポーズを決めて、保育所内の危ない場所や行動についての安全チェックなどをしました。徐々に安全安心の意識と使命を持った“まもるんじゃー”の取組が定着してきている姿に、ＩＳＳの取組の成果を感じます。

子どもたちが環境づくりに関心を持ち、安全で安心して生活していく力をつけていくことは、将来に渡っての生活の基盤となっていきます。ＩＳＳの継続した取組が、安全安心意識をより深め、川東保育所から近隣地域の安全安心意識が高まっていくことに期待をしています。

子どもの現状や環境を的確に把握しながら、ＩＳＳの取組を今後ますます展開させ、ケガや事故を予防し命を大切にする、“安全で安心な川東保育所”を、保護者や地域の方々と共に目指していきます。

2015 年 3 月　亀岡市立川東保育所
所長　松山　直美

１　概要･職員と園児数

亀岡市立川東保育所は、1957 年 7 月に設立され創立 57 年目を迎えます。「みんなだいすき　いっしょにあそぼう！」の年間テーマのもと、友だちとともに心と体に響く実体験を大切にした保育を進めています。

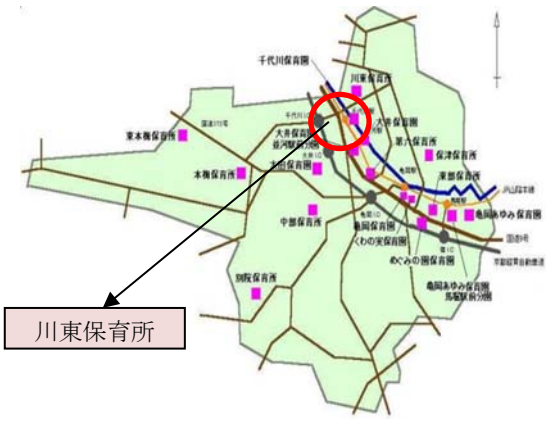
表-1　園児数および職員数　　（2015 年 3 月現在）

（人）

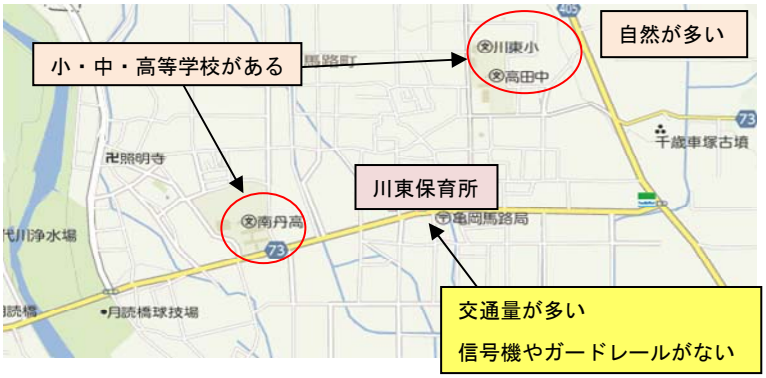
年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	３	１３	９	２３	２０	２６	９４
所長（１）所長補佐（１）看護師（１）作業員（１）給食調理員（３）保育士（２１） 長時間保育担当*1（１０）　　*1　午後 4 時～6 時までの保育を担当する職員です。							３８

2　保育所を取り巻く環境

川東保育所は亀岡市の北部にあり、周りは田園が広がり、車塚古墳や桜の名所の七谷川など多くの自然に囲まれています。保育所の位置する馬路町は、保育所・小学校・中学校・高等学校があり、「スクールタウン馬路町」と呼ばれています。保育所から高等学校までが子どもの成長に見通しを持って、連携をとりやすい環境となっています。また、小・中学校とともに「川東体力・競技力向上委員会」*2にも参加し、体力の向上と危険回避ができる体づくりを目指しています。



保育所前の府道７３号線の交通量は大変多く、それにもかかわらず信号機やガードレールがないことが課題となっています。また、周辺道路は道幅が狭く、見通しも悪い状況にあり、保護者も子どもの送迎や通勤に利用されるため、安全面での注意が必要です。



＊2　体力が学力に影響するとして、川東地域の子どもの 12 年間を見通して体力と競技力の向上を図る、保・小・中学校の組織です。

3　ケガの状況

園内で発生したケガデータを看護師が収集し、「場所」「症状」「発生状況」などを記録しています。
＊データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

図-1　園内*3で発生したケガ（2011～2013 年度）　＊3　園舎を含む保育所敷地内のことです。

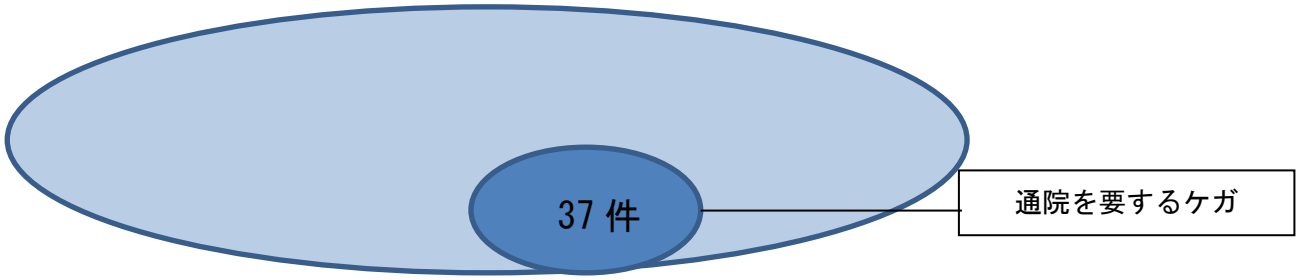
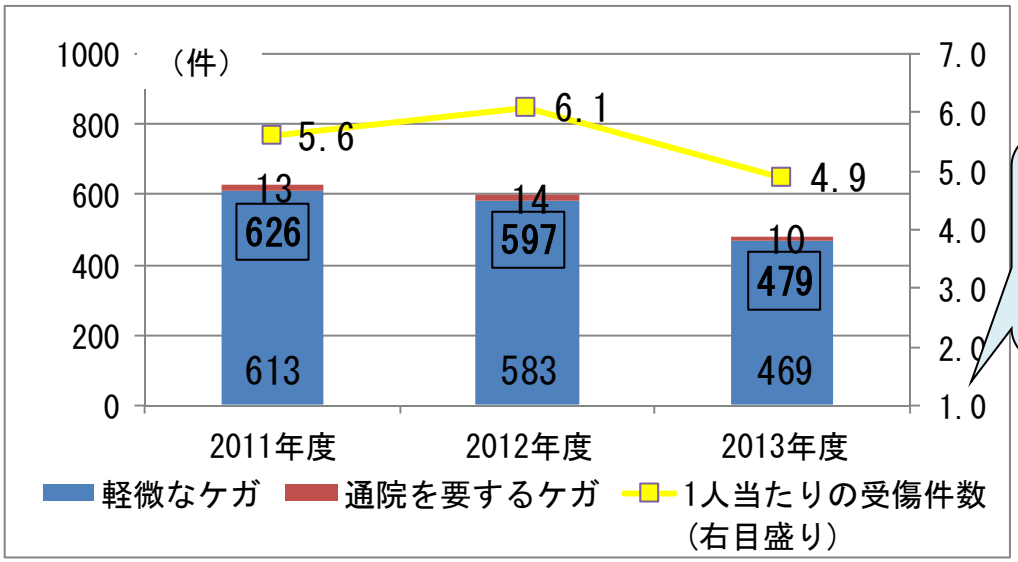
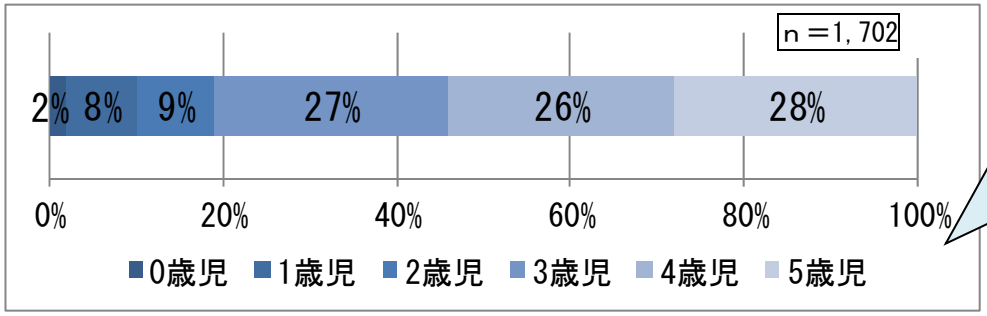


図-2　園内での受傷件数（2011～2013 年度）



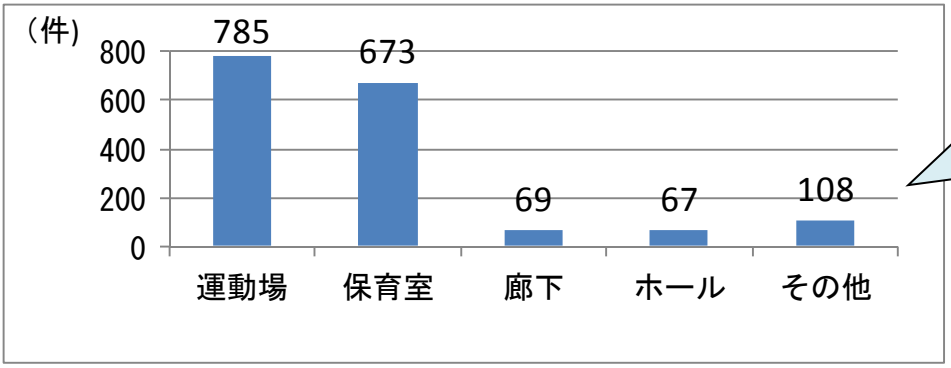
園内の受傷件数は、年々減少傾向にあり、ＩＳＳの取り組みを始めてからは特に減ってきています。

図-3　園内における年齢別のケガ（2011～2013 年度）



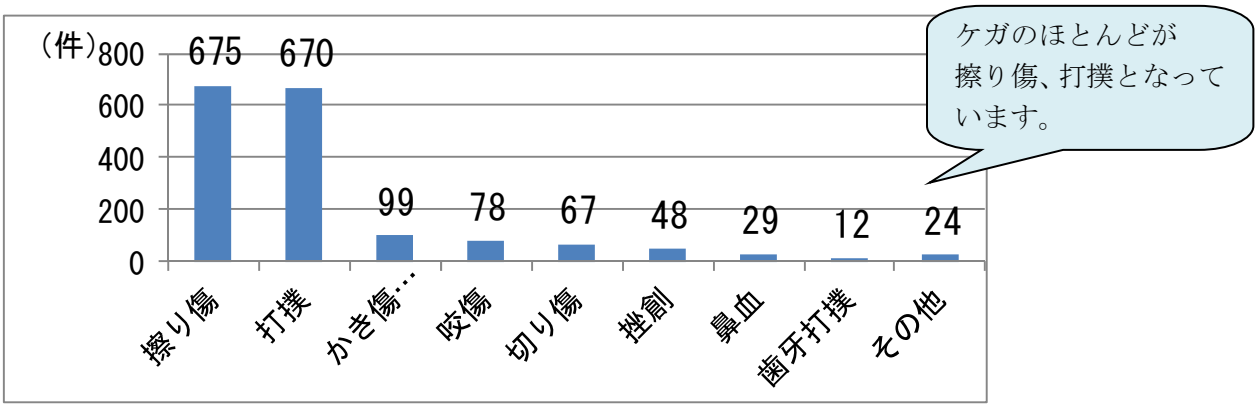
活動が活発になる３・４・５歳児のケガの割合が多くなっています。毎年同じ傾向が見られます。

図-4　場所別のケガ（2011～2013 年度）



運動場でのケガが一番多く、続いて保育室でのケガが多くなっています。

図-5　症状別のケガ（2011～2013 年度）



4　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-2 の見方
例）1－1
ねらい*　取組番号

（１）全体像

＊ねらい　１ケガの予防　２安全教育　３環境改善

表-2

場所＼対象者		園児						職員	保護者・地域
		０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児		
園内	園舎内	1-1 2-1　2-2　2-3 2-5　2-6　2-7 3-1　3-2　3-3　3-4						2-1　2-2　2-3 2-5　2-8 3-1　3-2　3-3　3-4	2-2 2-5　2-7　2-8　2-9 3-3　3-4
	園舎外	1-1 2-1　2-2　2-3 2-4　2-5　2-6　2-7 3-1　3-2　3-3　3-4						2-1　2-2　2-3 2-4　2-5 3-1　3-2　3-3　3-4	2-2 2-4　2-5　2-7　2-9 3-3　3-4
園外	送迎中	2-4　2-5　2-7 3-3						2-4　2-5 3-3	2-4　2-5　2-7 3-3
	家庭	2-2　2-5　2-7　2-8 3-3						2-2　2-5　2-8 3-3	2-2　2-5　2-7　2-8　2-9 3-3
	地域	2-2　2-4　2-5　2-6　2-7　2-8 3-3						2-2　2-4　2-5　2-8 3-3	2-2　2-4　2-5　2-7　2-8 2-9 3-3

（２）各種取組　　【ねらい　１　体づくり　２　安全教育　３　環境改善】

（凡例：①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要）

＊下線部は ISS の取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　体づくり

1-1	①	しなやかな体作りのための運動遊び*4プログラムの実施				
	②	園児	③	園内	④	園児・保育士
	⑤	・毎週月・水・金曜日の朝に体操やかけっこを実施する。 ・毎週リズム体操遊びを実施する。 ・竹馬・天狗の下駄・竹ぽっくりなど年齢に合ったおもちゃで遊ぶ。				

＊4　体を使った運動を伴う遊びのことです。

２　安全教育

2-1	①	安全マップ（ケガマップ）・まもるんじゃーマップの実施				
	②	園児・職員	③	保育室	④	園児・職員
	⑤	・毎週金曜日、クラスごとに一週間のケガの状況を確認し、園児が「ケガマップ」のケガをした場所にシールを貼る。 ・園児（まもるんじゃー）が作成した園内危険箇所マップ「まもるんじゃーマップ」を用いて、ケガにつながるような場所・行動を確認する。				

2-2	①	ＩＳＳ集会*5の実施				
	②	園児・職員 保護者・地域	③	遊戯室	④	園児・職員
	⑤	・ＩＳＳ集会を実施し、ケガ・事故を予防し、自分の身を守る方法について考える。 ・まもるんじゃーの活動を発表し、園児の啓発意識を引き出す。 ・「靴のはきかたＩＳＳ」などの合言葉や、まもるんじゃーダンスを実施し、ＩＳＳの活動をわかりやすく、楽しく取り組めるようにする。 ・集会の様子は写真や文書で保護者に知らせ、安全意識の向上と啓発を図る。				

＊5　園児が職員とともに安全安心な保育所生活を送るために、学び考える集会です。

2-3	①	ケガチェックの実施				
	②	園児・職員	③	園内	④	園児（４歳児）
	⑤	・毎日、給食の時間にビブスを着た４歳児のまもるんじゃーが、その日午前中のケガの人数を各クラスに報告する。 ・「ケガが少ない」＝「安全に過ごせている」ということを子どもたちが感じることで、安全意識を向上させる。				

2-4	①	駐車場および園周辺道路での見守り・交通整理				
	②	園児・職員 保護者・地域	③	駐車場・玄関・園周辺道路	④	職員・保護者・地域
	⑤	・毎日送迎時に、職員による駐車場での見守りや交通整理を実施し、事故防止に努める。 ・保護者にチャイルドシートや自転車用ヘルメットの着用を呼びかける。 ・馬路駐在所の警察官作成の「チャイルドシート着用啓発ボード」を掲示する。 ・行事開催時など多数の人が出入りする時には、保護者を識別するため名札を使用し、不審者対策を行う。保護者会*6役員が中心となって見守り・交通整理を実施する。 ・行事開催時や園児の散歩時に、馬路駐在所の警察官や地元ボランティア（見守り隊）に見守りや交通整理の協力をしてもらう。				

＊6　在籍園児の保護者が、園児の健やかな育ちのために保育所と協力し、育児力の向上を図る会のことです。

2-5	①	交通教室*7の実施				
	②	園児・職員 保護者・地域	③	遊戯室 園庭	④	園児・職員・地域
	⑤	・園児が交通安全教育の教材を使用し、実際の道の渡り方を練習して、交通ルールを楽しく学ぶ。 ・亀岡警察署交通課・馬路駐在所・地域交通安全活動推進員と連携して実施する。 ・交通教室の様子を保護者に写真や文書で知らせ、安全意識の向上と啓発を図る。				

＊7　園児が交通ルールを学び、道路での安全について考える教室です。

2-6	①	異年齢児交流保育の実施				
	②	園児	③	園内・園外	④	園児・職員
	⑤	・「なかよしの日」を設定し、同年齢だけでなく、異年齢の友だちと一緒に遊ぶ、散歩に出かける、給食を食べるなどの交流を深める。 ・いろいろな年齢の友だちと関わることで、思いやりやいたわりの気持ちを育て、周りの人に対して優しい気持ちがもてるような保育を実施する。				

2-7	①	虐待の未然防止				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・家庭・地域	④	職員・地域
	⑤	・園児の心と体の様子を観察する。 ・子育て支援推進員*8を中心に、保護者対象の相談事業を実施する。 ・要保護児童対策地域協議会*9で対策を検討する。				

＊8　保育所および地域の保護者に子育ての相談や情報提供を行い、支援を行う保育士です。

＊9　保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための協議を行う場です。

2-8	①	おたより・アンケートの発行				
	②	職員・保護者・地域	③	園内・家庭・地域	④	職員
	⑤	・熱傷や誤飲などのケガ・事故防止についての文書を発行する。 ・ＩＳＳの取組について文書を発行したり、写真やポスターなどの掲示をして啓発をする。 ・職員に向けてアンケートを実施し、ＩＳＳの取組に対する意見から効果的な手立てを考えるとともに、安全意識を向上させる。				

2-9	①	子育て支援事業「おたのしみひろば」の実施　・啓発				
	②	保護者・地域	③	園内・家庭・地域	④	職員
	⑤	・子育て支援推進員を配置し、地域の子育て家庭に支援を行う。 ・月１回の子育て支援事業を実施し、保護者への参加を呼び掛ける。 ・「子どもの視野めがねの体験」「誤飲について考える」など、事故防止についての啓発を行う。 ・育児相談の場を持ち、未就園児とその保護者の心身の安定を図り、虐待やケガ・事故の防止に努める。				

３　環境改善

3-1	①	「まもるんじゃーチェック」の実施				
	②	園児・職員	③	園内	④	園児（２～５歳児）・職員
	⑤	・園児がビブスを着て「まもるんじゃー」に変身し、園内の注意する場所や危険な行動についてチェックし、友だちや職員に知らせる。 ・ＩＳＳ集会で、改善した箇所の報告をする。				

3-2	①	園内安全点検の実施				
	②	園児・職員	③	園内	④	職員
	⑤	・毎日、保育開始前に保育室の点検や環境整備を実施する。 ・毎月１日に安全点検簿を用いて、園内を５つの検査区分について点検し、不適切な箇所について報告・改善する。				

3-3	①	地域の情報収集				
	②	職員・保護者・地域	③	園内･園外	④	職員
	⑤	・園周辺の安全に関する情報を地域の関係機関と共有する。 ・「防災情報かめおかメール」からの情報や防犯ニュースなどを入手し、保護者に周知し、園児の安全確保に努める。				

3-4	①	園内施設改修工事				
	②	園児・職員・保護者	③	園内	④	亀岡市
	⑤	・老朽化に伴い、施設改修工事を実施した。 ・トイレのバリアフリー化、トイレ扉の指づめ防止、通路の段差解消、保育所の周囲のフェンスや遊戯室の床など環境改善を図った。				

指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

（１）ハイリスクの環境

保育所周辺の道路は交通量が多く、特に大型車から小さな園児は見えにくいことから、園児にとって事故のリスクが大変大きいと考えます。特に保育所前の府道 73 号線の交通量が大変多く、国土交通省データによると 7 時～19 時の間の交通量は 4,629 台となっています。また、国道 9 号線など主要幹線道路に通じる道路であること、直線道路でスピードを出しやすいこと、信号機やガードレールがないことなど大変危険な状況です。取組を継続してきた結果、園児を巻き込んだ事故は起きていません。

（２）主な取組

①交通教室の実施（指標３　2-5）

交通教室では、園児が交通ルールを楽しく学べるよう、亀岡警察署交通課、馬路駐在所、地域交通安全活動推進員の協力を得て、指導をしています。パネルシアター*8、紙芝居、クイズなどの教材を使用したり、実際に横断歩道を渡る練習をしたりし、園外保育や家庭においても園児が安全に過ごす意識を持てるようにしています。

交通教室で学んだことは、文書や写真で保護者にも知らせ、家庭や地域にも啓発しています。

＊8　パネル布を貼った舞台に不織布に描いた絵を貼ったり動かしたりして演じる表現方法です。

②駐車場での安全確保（指標３　2-4）

毎日、園児の登所・降所時間に、まもるんじゃーのビブスを着た職員が駐車場で園児の安全確保を行っています。園児の様子を確認するとともに、「チャイルドシートを着用する」「駐車場で遊ばない」「保護者と手をつなぐ」などの約束ごとも声をかけています。

③地域の方の見守り（指標３　2-4）

園児が芋ほりや散歩など園外に出かける時は、馬路駐在所の警察官や黄色いベストを着た地域の見守り隊の方が園児の安全に気をつけてくださっています。園の行事開催時など人の出入りが多いときは、警察官に駐車場や周辺道路の見回りをしていただいています。

指標５　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

（１）課題を導く要因

川東保育所は、特に運動場でのケガが多いというデータが出ており、ケガの件数の約 50%が運動場で起こっています（図-6）。ケガの直接機転は転倒が最も多く、全体の 74%を占めています（図-7）。また、転倒の原因として最も多いのがつまずきであり、滑ることを含めると 82%を占め（図-8）、この環境的要因としては、運動場やコンクリート面の砂、段差などがあります。これらの要因から、園児の安全意識を高めて危険予測能力を育成するとともに、環境整備をしていくことが課題であると考えます。

図-6　ケガの発生場所（2011.4～2013.9）＊ＩＳＳ取組宣言前

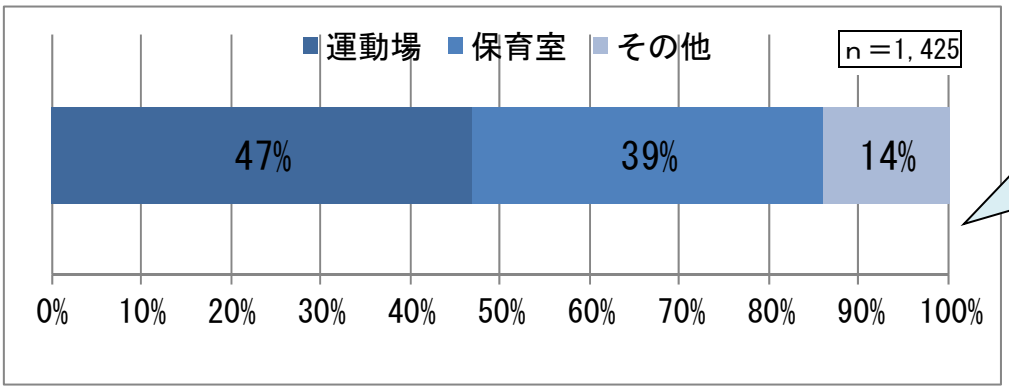


図-7　運動場のケガの原因（2011.4～2013.9）＊ＩＳＳ取組宣言前

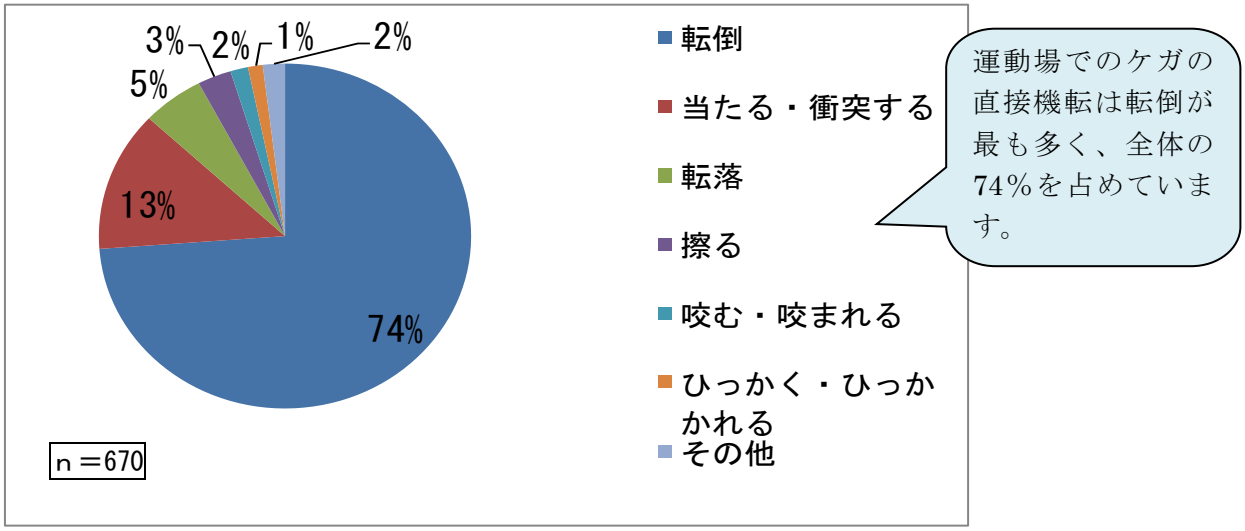
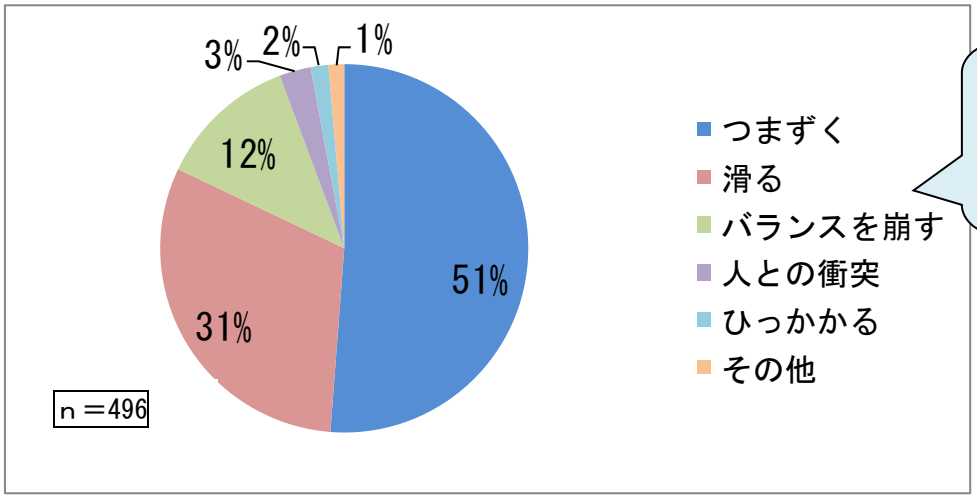


図-8　運動場の転倒によるケガの原因（2011.4～2013.9）＊ＩＳＳ取組宣言前



（２）課題に対する重点取組

表-3　**園内の安全点検プログラム**

目　標	園児の運動場での転倒のケガを減少させる
対象者	園児
既存の取組	職員による園内安全点検実施
ＩＳＳ取組	遊び場点検や環境整備を園児と一緒に実施（新規）
内　容	①まもるんじゃーチェックの実施　　②まもるんじゃーマップの作成

①まもるんじゃーチェックの実施（指標３　3-1）

職員の安全点検に加え、園児も一緒に月２回遊び場等の点検を行っています。園内でのケガが多い３・４・５歳児を中心に、ビブスとブレスレットをつけて“まもるんじゃー”に変身し、「まもるんじゃーチェック」を実施しています。自分たちの身の周りの環境を観察することで、安全に生活する意識を向上させるのがねらいです。
「安全マットが砂だらけで滑るから掃除しよう」「こんな大きな穴があったら、小さい子が落ちるかもしれないし、スコップで埋めよう」など、子どもなりの安全の視点から気づいたところを改善し、園長先生に報告して“まもるんじゃーの任務完了”です。

表-5
【まもるんじゃーが点検・改善した箇所】

砂場の穴	砂場の上の藤棚	雲梯下の安全マットの砂	なかよしハウスの中の砂	
穴掘り蜂の巣	山の吊り橋	ジャングルジムの止め具	運動場の石拾い	延べ 36 か所

②まもるんじゃーマップの作成（指標３　2-1）

５歳児のまもるんじゃーが、まもるんじゃーチェックで気づいたことを書き込んで「まもるんじゃーマップ」を作成しました。「ブランコの柵に入らないで」「キックボードはタイルの道で乗らないで」など、園児が気づいたことを記入し、園内で注意する場所や行動について保育所のみんなに知らせ、安全に遊ぶことを意識できるようにしています。

指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

表-4

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
園内の安全点検プログラム	【指　標】 園児の安全に対する関心や意識を高める 【測定方法】（図-9） まもるんじゃーに取り組む園児の数	【指　標】 まもるんじゃーチェックを実施する 【測定方法】（表-5） まもるんじゃーが点検・改善した件数	【指　標】 運動場での転倒によるケガの件数を減少させる 【測定方法】（図-10） 川東保育所外傷データ

ぼくたち、わたしたち
一番小さいまもるんじゃー！
安全安心あい・えす・えす！

図-9　まもるんじゃーの人数（2013.10～2014.10　川東保育所調べ）

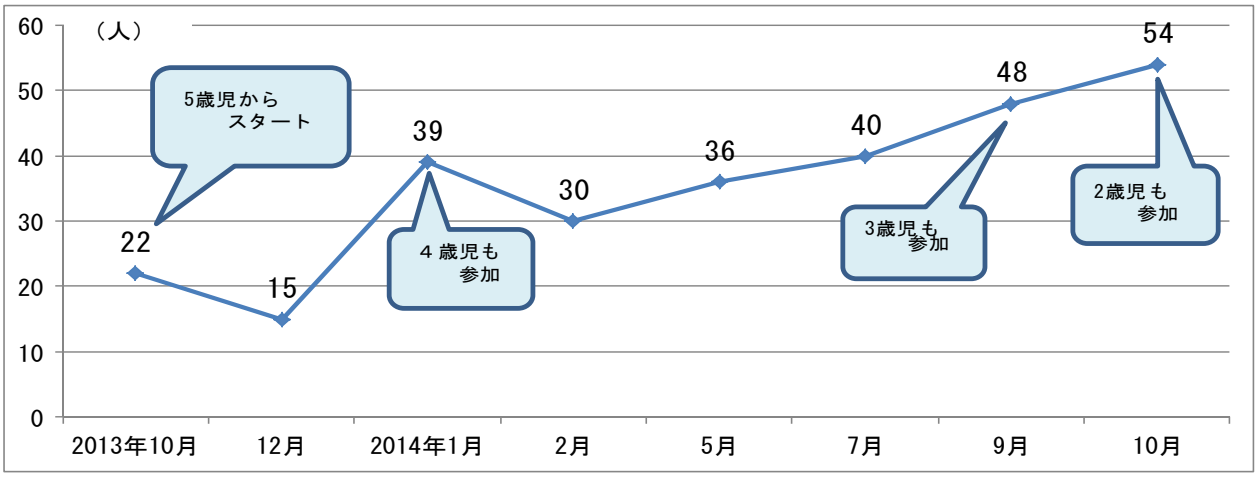


表-5 （再掲）

【まもるんじゃーが点検・改善した箇所】

砂場の穴　　砂場の上の藤棚　　雲梯下の安全マットの砂　　なかよしハウスの中の砂
穴掘り蜂の巣　　山の吊り橋　　ジャングルジムの止め具　　運動場の石拾い　　延べ 36 か所

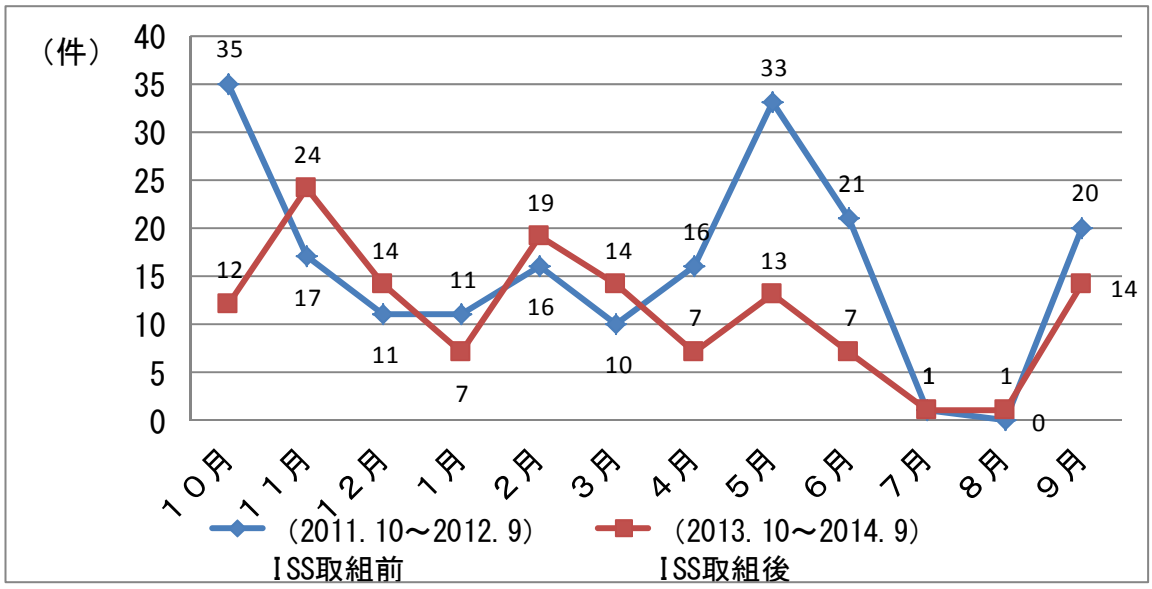
小さい友だちが
穴に落ちるかもしれない
から埋めておこう！

なかよしハウスに
砂がいっぱい…
滑ると危ないから
掃除しよう！

安全マットに
砂があると
危ないよ！

藤棚のつるが
伸びてきたよ。
先生に切って
もらおう！

図－10　運動場の転倒によるケガの件数（2011.10～2012.9／2013.10～2014.9）



（１）園児の変化

４歳・５歳児を中心にまもるんじゃーによる「まもるんじゃーチェック」を始めましたが、その姿にあこがれた３歳児が一緒に参加するようになり、今では２歳児までがビブスを着て“まもるんじゃーごっこ”を楽しんでいます。ＩＳＳ集会でまもるんじゃーの活動内容を報告したり、まもるんじゃーダンスをしたりすることで、“ケガをしないように気を付けて遊ぶ”というルールが園児に浸透してきています。

ＩＳＳ取組宣言後の 2013 年 10 月から、まもるんじゃーチェックなどのＩＳＳの取組を始め、わずかではありますが、運動場の転倒によるケガの件数（**図-10**）は減少傾向にあることから、園児の安全意識は高まってきていると考えられます。

（２）保護者の変化

ＩＳＳの取組の様子を保護者に知らせて関心をもってもらうことで、家庭での安全意識の向上と啓発を図っています。園児の取組を通して保護者のＩＳＳに対する関心も高まり、ロゴマークを考える、ＩＳＳに関する掲示物を子どもと熱心に見る、ＩＳＳ事前審査に参加するなど、積極的な姿勢が見られます。

５　課題と今後にむけて

（１）課題

運動場での転倒のケガが多い

運動場の転倒によるケガの件数は減少傾向にありますが（**図-10**）、月によっては以前より増えている時もあります。その原因もつまずく、滑る、バランスを崩すなどが多いことから（**図-8**）、自分の体の操作が十分できない園児がいると考えられます。

ＩＳＳの取組に対する保護者の理解に差がある

ＩＳＳの取組を始めてから保護者に啓発を随時行い、保護者の意識や関心も高まりつつあります。しかし、保護者によってはＩＳＳの取組に対する理解に差があり、ＩＳＳに関心のある保護者もいれば、「ＩＳＳとは何か」「なぜ、職員が駐車場でビブスを着ているのか」など疑問を持たれている保護者もあるため、ＩＳＳの意識が浸透するには時間がかかると考えられます。

ＩＳＳの取組や知識に対して職員の共有が不十分である

ＩＳＳの取組については、ＩＳＳ推進メンバーを中心に実行部である職員とともに進めてきましたが、担当する園児の年齢によって職員の意識に差があり、積極的に取り組めていない状況があります。また、今後異動により職員が変わることで、皆が同じ方向性をもって取り組むことが難しくなる可能性もあります。

（２）今後にむけて

運動遊びプログラムの充実

園児のケガの減少のためには、とっさの時に的確な判断をして、自分の体を自分で守ることができるような体作りが必要であると考えます。「運動を調整する能力は、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、ケガや事故を防止することにもつながる」（文部科学省　幼児期運動指針より）ことから、今後は川東体力・競技力向上委員会と連携しながら、多様な動きを身に着けられるような運動遊びプログラムをさらに充実させていきます。

保護者・地域と連携した取組の充実

子どもたちを守るためには、家庭や地域での安全意識の向上を目指して、保護者への啓発と取組を充実させていくことが必要です。そのために、保護者会総会でのＩＳＳの取組の報告、保護者への安全意識についてのアンケート実施、参観日における親子での運動遊びのほか、地域と連携して駐車場での交通安全の呼びかけを計画しています。今後もＩＳＳの取組に対する理解を深めるために、保護者・地域と連携しながら取組を進めていきます。

安全教育および取組の継承

交通教室やまもるんじゃーチェックなどの取組を今後も継続できるように、取組の内容や手順の視覚化、ＩＳＳの取組の年間計画の作成を実施します。毎年、対象の園児や職員は変わりますが、ＩＳＳの理念および取組を継承していくための仕組みを作り、保育所のみならず家庭や地域でも安全意識を高めていきたいと考えます。

亀岡市立第六保育所

こころも からだも
げんき いっぱい ISS

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する

目指す子ども像

元気に遊ぶ子ども・思いやりのある子ども・感じ考え表現できる子ども・意欲のある子ども

ＩＳＳスローガン

けがや病気をしない丈夫な体をつくり、みんなで安全・安心な保育所にしよう

「心も体も元気いっぱい　てとてをつなごう　みんな友だち」

第六保育所は亀岡市の中心部に位置し周辺には３２棟からなる公団住宅をはじめ、新たな住宅地やマンションが建ち並び、活気ある地域にあります。また、近隣に公園も多く豊かな緑に囲まれています。

子どもたちは友だちと一緒に遊ぶことが何より楽しく元気いっぱい活動しています。様々な経験、異年齢交流を行う中で健康で人と人との豊かな関係が持てるよう保育を行っています。また、亀岡市中心部の保育所として園庭開放や子育て相談、一時保育、休日保育などの地域の子育て支援センターとしての役割も果たしています。

近年、周辺環境の変化と園児数の増加に伴い、保育所や家庭でのけがや周辺での交通事故が増加しています。亀岡市がセーフコミュニティー認証をしたことに合わせ第六保育所でも、安全安心な保育所となるようインターナショナルセーフスクール認証をめざして取り組みを進めています。今後も家庭、地域と連携して安全安心な保育環境を整えていきます。そして、子どもたち一人一人の人権を大切にした保育の中で子どもたちの心と体が豊かに育つよう努めていきます。

2015年３月　亀岡市立第六保育所
所長　人見　直美

１　概要・職員と園児数

開所　　1976年５月１日
園児数　　**表－１**　　（2015年３月現在）（人）

年齢	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	合計
人数	１４	２４	２５	４０	４１	２８	１７２

職員数５３人（内訳　所長１・所長補佐１・養護師１・給食調理員４・作業員１・保育士３１　長時間担当１４）

２　保育所を取り巻く環境

第六保育所は、亀岡市の中心部の市街地にあります。近隣には、住宅街・商店街、国道・市道があり車両の通行量も年々増えてきました。隣接する公団住宅（保津川団地）の建設と同時に設立されたため、大きな公園が、保育所周辺にあります。また、５分ほど歩けば、電車が見える田園風景が広がります。少し足を延ばせば野山が広がる自然にも恵まれた地域です。

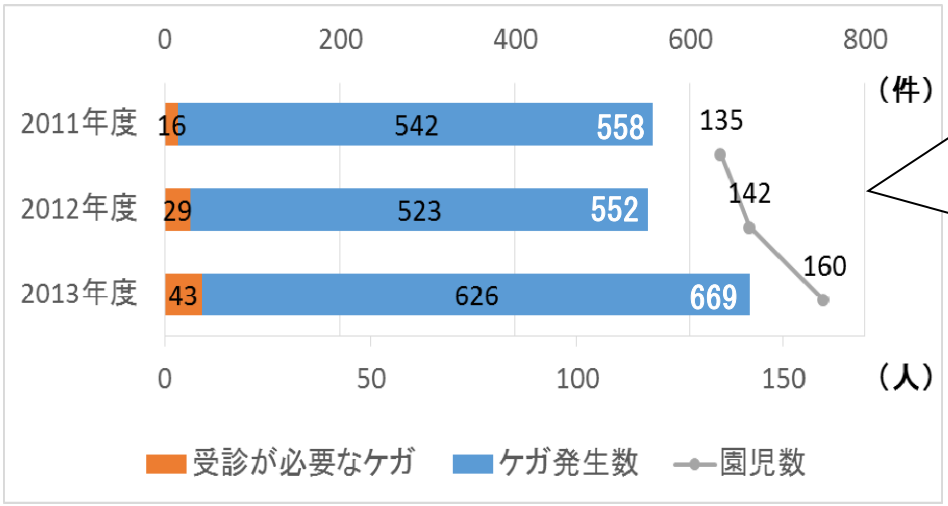
（亀岡市地図）

（保育所周辺地図）

3　ケガの状況

データについては特別な記載がない限り、市立保育所外傷データより出典しています。

図-1　年度別ケガ発生件数（2011 年度～2013 年度）



ケガ発生数と病院受診が必要なケガ発生数は、図-1 のとおりです。

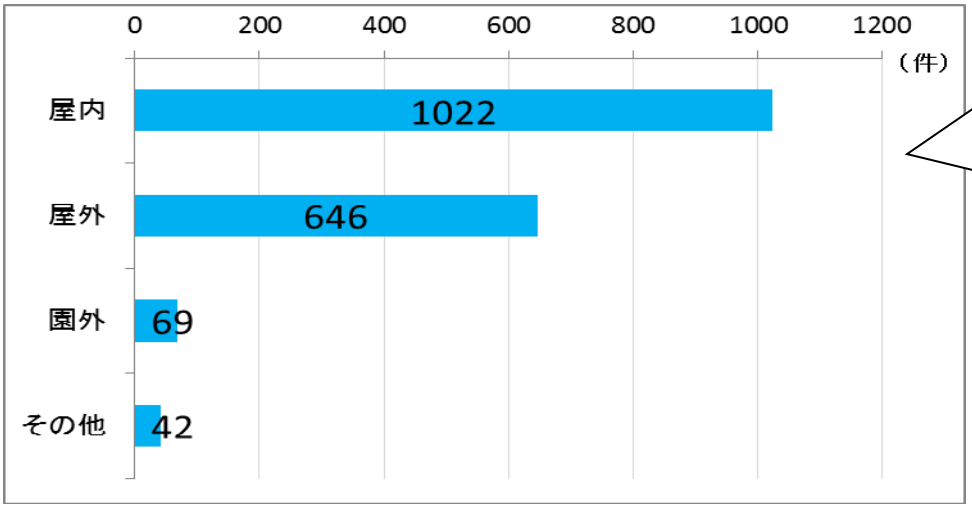
一人当たりのケガは

2011 年度　4.0 件

2012 年度　3.7 件

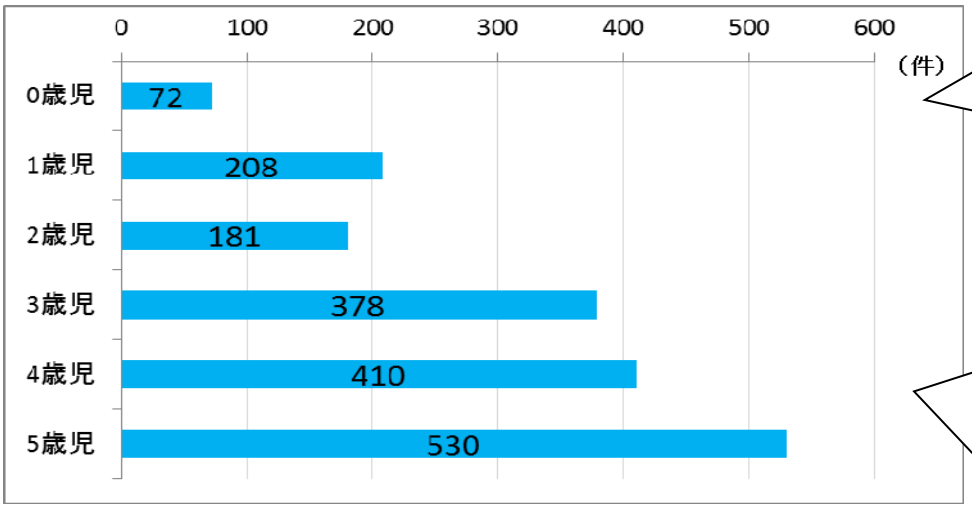
2013 年度　3.9 件

図-2　場所別ケガ発生件数（2011 年度～2013 年度）



ケガの発生する場所は屋内が多く、全体の 60%を占めています。そのため、屋内のケガに着目します。

図-3　年齢別発生件数（2011 年度～2013 年度）



年齢別にみると活動量の多い幼児のケガ数が多くなっています。

一人あたりのケガ数

0歳児…1.9 件

1歳児…3.3 件

2歳児…2.4 件

3歳児…4.4 件

4歳児…5.1 件

5歳児…5.5 件

表-2 の見方
例) 1－1
ねらい　取組番号

４　８つの指標に基づいた取組

指標３：　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-２　全体像

場所＼対象者		園児	職員	保護者・地域
		０歳児 1歳児 2歳児 3歳児 4歳児 5歳児		
園内	園舎内	1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 3-1 3-2 3-3	1-1 1-2 2-1 2-4 2-5 2-6 2-7 3-1 3-2 3-3	2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 3-2 3-3
	園舎外	1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 3-1 3-2 3-3	1-1 1-2 2-1 2-4 2-5 2-6 2-7 3-2 3-3	2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 3-2 3-3
園外	送迎中	2-1 2-3 2-4 2-5 2-6 3-3	2-1 2-4 2-5 2-6 2-7 3-3	2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 3-3
	家庭	2-1 2-3 2-4 2-5 2-6 3-3	2-1 2-4 2-5 2-6 2-7 3-3	2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 3-3
	地域	2-1 2-3 2-4 2-5 2-6 3-3	2-1 2-4 2-5 2-6 2-7 3-3	2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 3-3

【ねらい・・・１　体づくり　２　安全教育　３　環境改善】

各種取組（凡例　①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要）

＊下線部はＩＳＳの取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　体づくり

1-1	①	リズム遊び*1・体操				
	②	園児・職員	③	園内	④	職員
	⑤	週３回リズム遊び・体操を行い、丈夫な体づくりをする。				

*1 リズム遊び：ピアノの音に合わせてリズミカルに体を動かし、体の柔軟性や筋力をつける遊び

1-2	①	健康集会*2				
	②	園児・職員	③	園内	④	職員
	⑤	「虫歯予防のための歯磨きの指導」「風邪予防のための手洗い・うがいの指導」などを園児が集まった場で伝える。				

*2 健康集会：健康な体にするために大切なことについて考える集会

２　安全教育

2-1	①	交通教室*3				
	②	園児・職員	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・道路の歩き方、車の乗り方、降り方などを学び、実際に練習を行う。 ・散歩や園外保育などの時に交通安全指導を行う。				

*3 交通教室：交通安全について考え学ぶ集会

2-2	①	ＩＳＳ集会				
	②	園児	③	園内	④	職員
	⑤	・「廊下はゆっくり歩こうＩＳＳ」「友だちと仲良くＩＳＳ」など合言葉を考え安全への意識を高める。 ・ケガマップを活用し、危険個所に対する安全認識を深める。				

2-3	①	虐待の未然防止				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・家庭・地域	④	職員
	⑤	・園児の心と体の様子を観察する。 ・保護者対象の相談事業を実施する。 ・要保護児童対策地域協議会*4や関係機関と対策を検討する。				

*4要保護児童対策地域協議会：保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための協議を行う場

2-4	①	避難訓練				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・毎月１回火災や地震・不審者侵入などの緊急時の訓練を行う。 ・近隣地域に避難訓練の日時・内容を文書にて配布し、安全意識の啓発を行う。				

2-5	①	交通安全指導				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・送迎時、事故防止のため交通安全指導を行う。 ・亀岡警察署との共催で交通安全指導を行う。				

2-6	①	ケガ予防対策について啓発				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ケガ予防対策について玄関に掲示する。 ・文書を発行して、ケガ予防を啓発する。				

2-7	①	保護者会*5研修会				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・保護者会研修会でＩＳＳの取組を報告し、「子どもの安全について」意見交流する。				

*5園児を明るく健やかに育てるため、会員相互の親睦、意見の交換等をする保育所に在籍の保護者の集まり

2-8	①	子育て支援事業の中でＩＳＳについて啓発				
	②	保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・未就園児とその保護者が、安全な生活を送るために、　ＩＳＳの取組の情報提供を行う。				

３　環境改善

3-1	①	ケガ防止クッション材などの設置				
	②	園児・職員	③	園内	④	職員
	⑤	ロッカーや柱の角などにクッション材などを設置する。				

3-2	①	段差のある通路の安全通行				
	②	園児・職員・保護者	③	園内・園外	④	職員
	⑤	段差のあるところでは、手づくりスロープを利用する。				

3-3	①	安全点検				
	②	園児・職員・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	安全点検を全職員で行い、環境改善を行う。				

指標４：　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

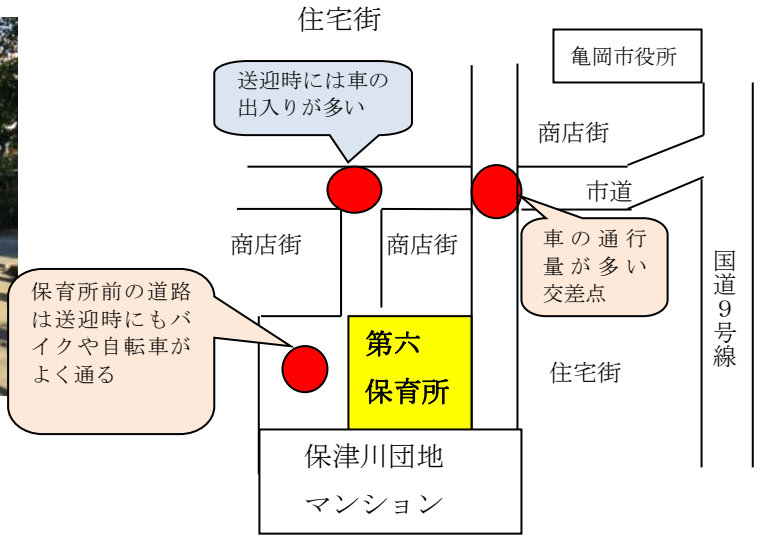
①　段差が多い環境に対する取組

保育室前には、手づくりスロープの設置や移動できるスロープを用意している。

設定理由	・移動手段にバギーや乳母車、車いすがあるため
現状	・園舎内の廊下が全て外にあり、外靴・上靴での通行を区別している。そのため全ての廊下にすのこを敷いており、段差がある。
対策内容	・段差をなくすために移動式のスロープと固定式のスロープを設置する。
活動実績	・2014 年度～　スロープの利用開始（**指標３　3-2**） ・固定式スロープ１箇所 ・移動式スロープ６箇所
結果	・安全に移動が可能になり、段差によるケガは起こっていない。

②　玄関前に生活道路がある危険な環境に対する取組

設定理由	・玄関前に、すぐ道路があるため	
現状	・送迎時は、人通りが多くなり、自転車や車が増加して危険が増す。保護者同士の車の接触事故などが起こることがある。 ・子どもが玄関や車から飛び出すことがある。 ・交通安全に対して、保護者の意識に差が伺える。	
対策内容	・交通教室を実施し、交通ルールを知らせる	
活動実績	園児	・亀岡警察署と共催で交通教室　年２回（春・秋）**（指標３　2-1）** ・園外保育を活用しての交通指導（随時）**（指標３　2-1）** ・送迎時に職員が玄関前で交通安全指導（毎日）**（指標３　2-5）**
	保護者 祖父母	・交通安全のお知らせ（玄関掲示） ・祖父母参観時に亀岡警察署と職員で交通安全劇と交通教室**（指標３　2-5）** ・職員が送迎時に玄関前で交通指導（毎日）**（指標３　2-5）** ・保護者研修会で、子どもの安全について話し合う**（指標３　2-7）**
結果	・園児が玄関を飛び出すことが減り、園児の事故は起こっていない。 ・保護者、祖父母が子どもとしっかりと手をつないで歩く姿が増えてきた。 ・チャイルドシートや自転車乗車時のヘルメットの適正な着用が増えてきた。	



警察署員による
園児への
交通安全指導

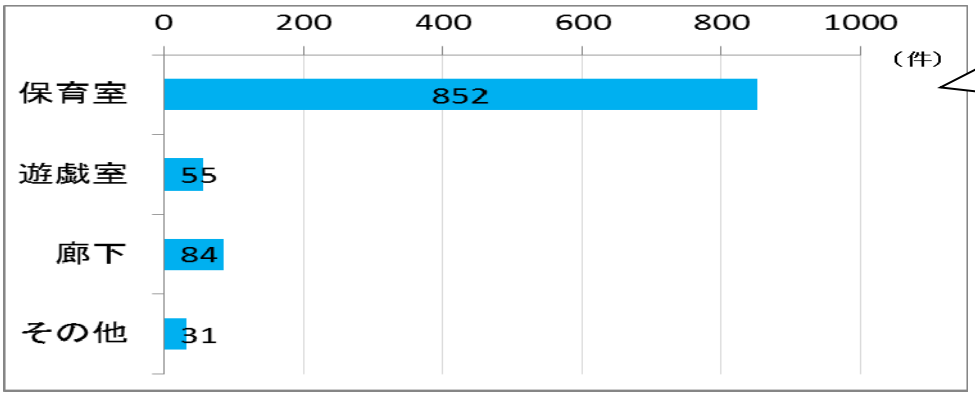
保育士による
チャイルドシート着用の
啓発劇

指標５：　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

①　課題を導く要因

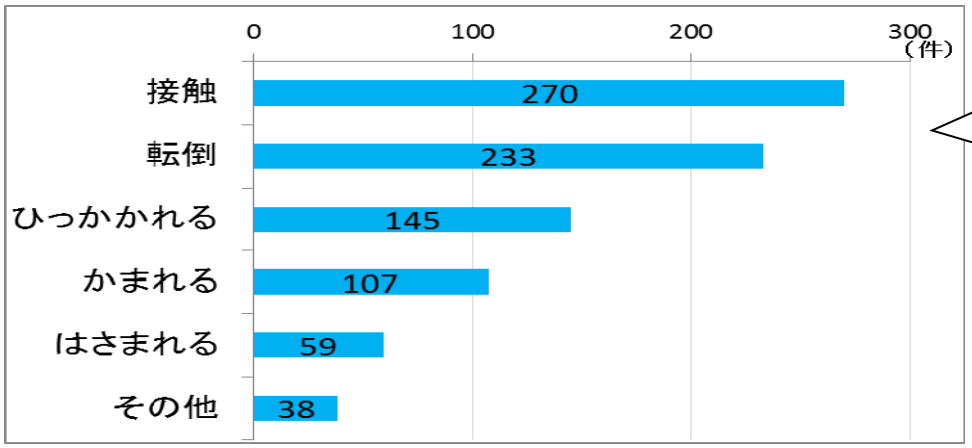
場所別ケガ発生件数から屋内のケガが多いため（図-2)、屋内のケガに着目します。

図 - 4　屋内の場所別ケガ発生件数（2011 年度～2013 年度）



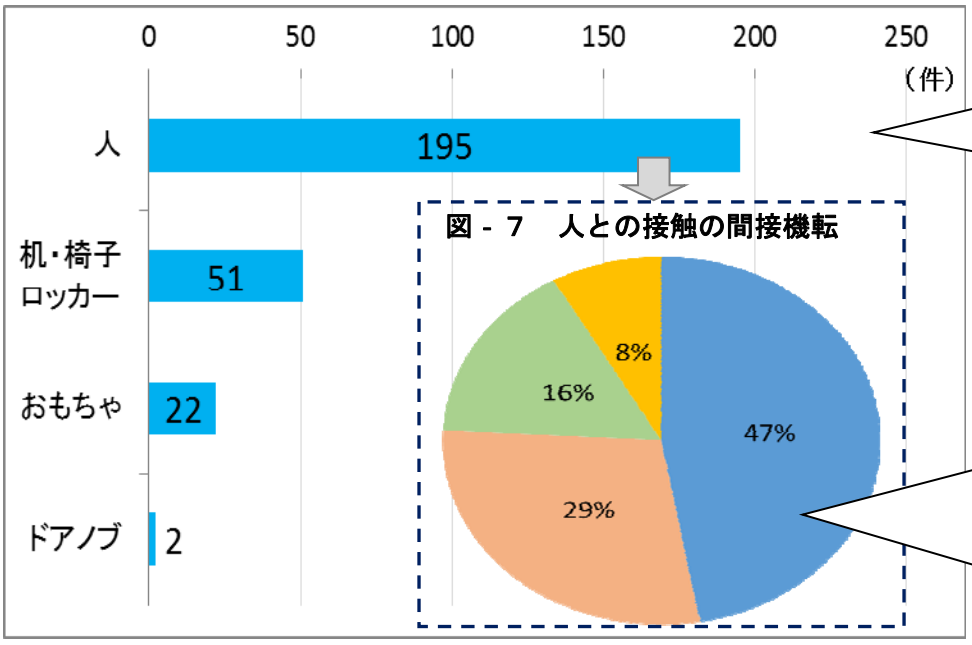
屋内のケガは、保育室で多く起こっています。

図 - 5　保育室内の直接機転ケガ発生件数（2011 年度～2013 年度）



保育室のケガは、接触によるものが多く起こっています。

図 - 6　保育室内の接触の要因別ケガ発生件数（2011 年～2013 年度）



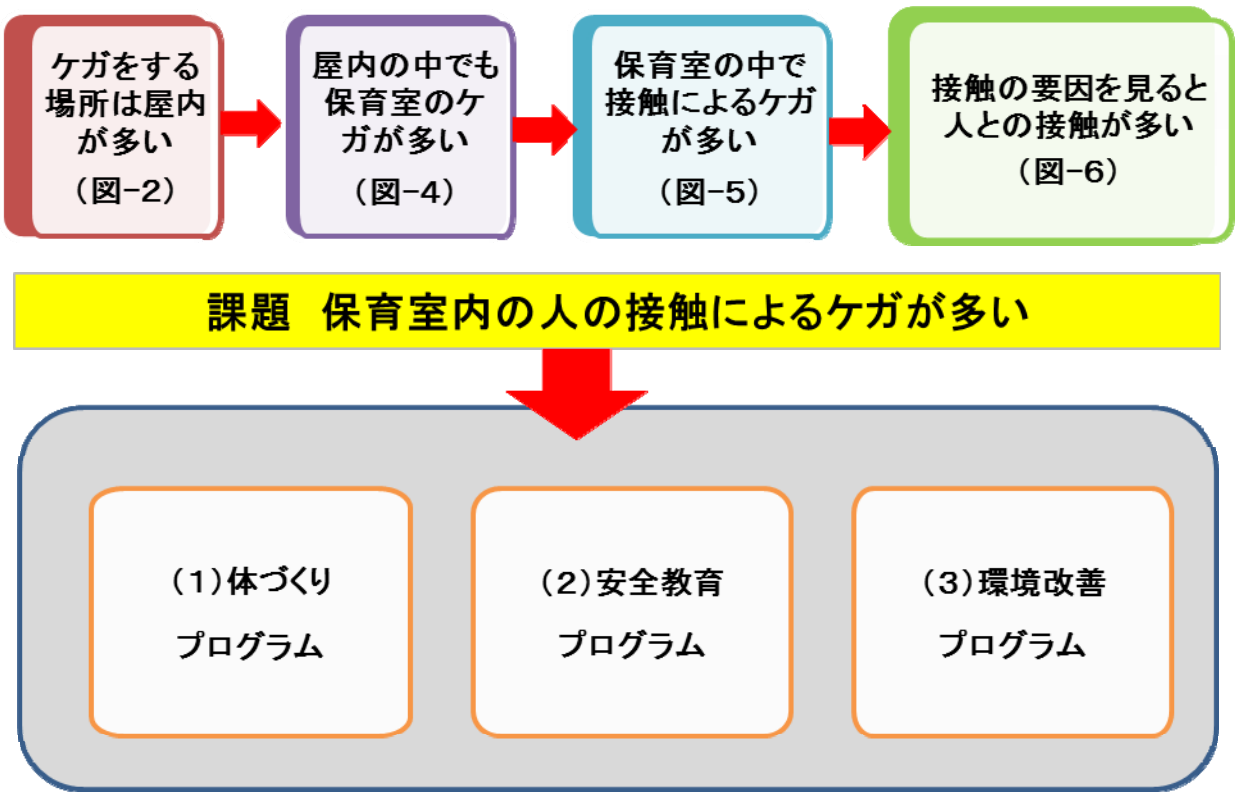
保育室内の接触の要因別でみると、人との接触が多く起こっています。

図 - 7　人との接触の間接機転

人との接触の間接機転は、左図の通り子ども自身の危険回避能力の不足と考えられます。

- **自分でバランスを崩す**
- **人との距離感がもてない**
- **不注意**
- **他児とのトラブル**

＜ケガの分析による取組図＞



①　取組

（１）体づくりプログラム（指標３　1-1）

目標	バランス力を向上させるための基礎体力を養う。
対象者	園児
既存の取組	リズム遊びや体操を週１回行う。
ISS 取組内容	・リズム遊びや体操やかけっこを、日時を決めて行う。（週３回） ・人との距離感を体験する遊びを行う。 ・バランス感覚を養う遊びを行う。

園庭で異年齢児が一緒に体操をする。

バランスを取りながら組み立て遊具で遊ぶ。

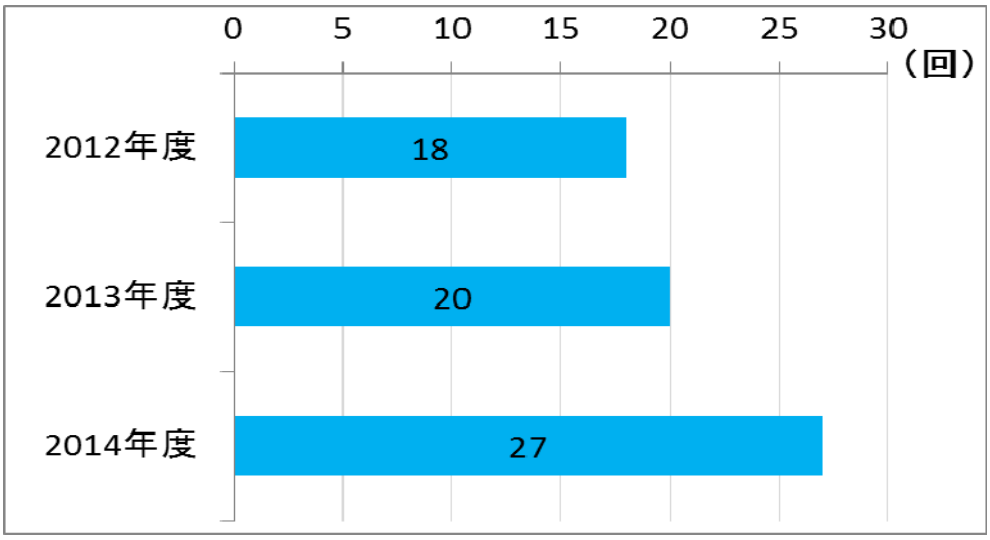
友だちと適切な間隔をあけてふれあい遊びを楽しむ。

（２）安全教育プログラム（指標３　2-2　2-8）

目標	保育室の人との接触を防ぐため遊びのルールを教育する。
対象者	園児・保護者
既存の取組	安全集会を行う。
ISS 取組内容	・安全安心を意識して安全集会をＩＳＳ集会に変更する。 ・ＩＳＳ集会を行い、年齢に合ったあそびのルールについて知らせる。 ・人との距離感を教育 （保育室内を走らないルールと、保育室の遊びのルール） ・保護者会研修で特に「子どもの保育室の安全安心」について保護者に啓発をする。

図-8　安全集会の回数（2012 年度～2014 年度）

出典：第六保育所データ

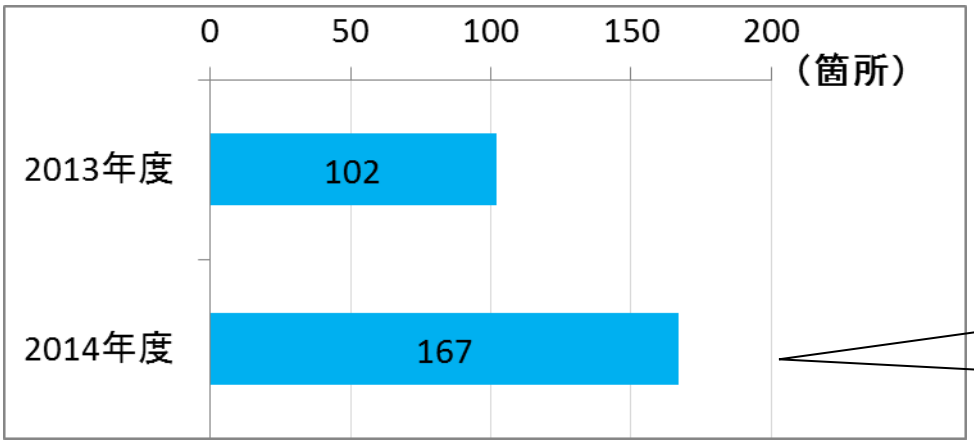


（３）環境改善プログラム（指標３　3-1　3-3）

目標	人との接触を防ぐために保育室の環境を改善する。
対象者	園児
既存の取組	月１回の安全点検を行い、環境改善を行う。
ISS 取組内容	・保育室の遊びのコーナーを保育室の中央に配置する、個人のロッカーの位置を変えるなど保育環境の工夫をする。 ・毎週１回の保育室の環境設定を工夫する日を設けて園児の動線に配慮する。

図-9　安全点検後の環境改善箇所数（2013 年度～2014 年度）

出典：第六保育所データ



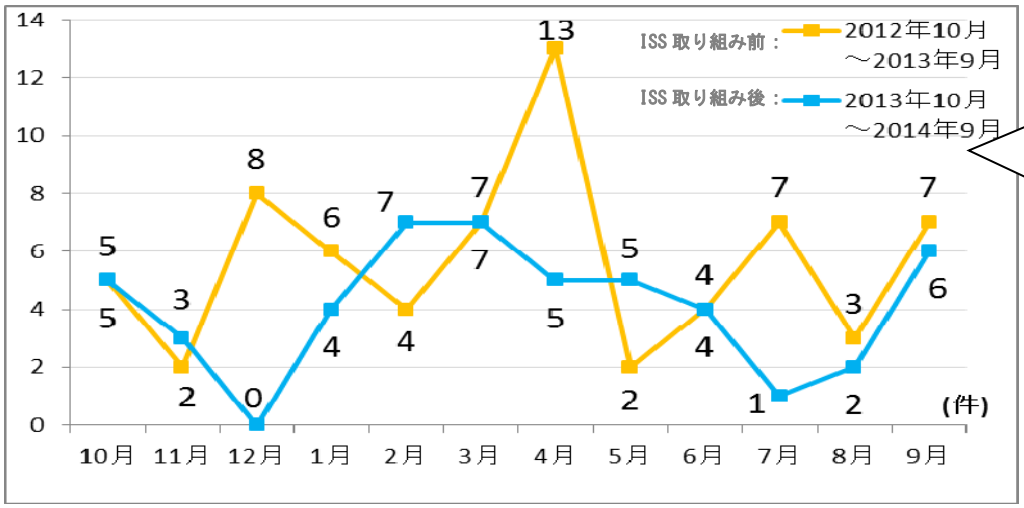
2014 年度は、2013 年度からの累積数です。

指標７：予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

①　成果指標と効果の検証

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
(1) 体づくり プログラム	【指標】園児の基礎体力の向上 【測定方法】体力測定		【指標】保育室内の人との接触によるケガ件数の減少 【測定方法】ケガ数の記録 (図―10)
(2) 安全教育 プログラム	【指標】園児の意識を向上 【測定方法】安全集会の回数 (図―8)	【指標】ルールを守る園児の増加 【測定方法】園児の行動観察	
(3) 環境改善 プログラム	【指標】環境改善箇所の増加 【測定方法】環境改善箇所の測定　(図―9)		

図 - 10　保育室内の人の接触によるケガ件数
（2012 年 10 月～2014 年 9 月）



ＩＳＳ取組前は
総計 68 件
ＩＳＳ取組後は
総計 49 件に
減少しています。

5　課題と今後にむけて

課題

保育室内の子ども同士の接触によるケガが多い

ＩＳＳの取組を進めてケガは全体的に減少傾向（図-10）にありますが、月によっては増加している時もあります。

特定の子どもが繰り返しケガをする状況があり、自分の体をコントロールする力の弱さや自分でバランスを保つことが難しい子どもがいると考えられます。

保護者・地域への啓発が不十分である

玄関掲示による啓発・交通指導・保護者会研修を行い「園児の安全について」啓発しています。子どもと一緒に熱心に掲示を見て話をする親子や保護者会研修に参加される保護者が増えてきました。しかし、まだまだ保護者への浸透に時間がかかると考えられます。また、就学先である小学校や自治会などとのＩＳＳに関しての情報交流はできていません。

職員の意識に差がある

ＩＳＳの取組から、安全点検時の視点の持ち方や、安全保育への意識向上が見られるようになりました。しかし、経験などの違いから認識に差があり、共通理解ができる意識づけが必要であると考えられます。

今後にむけて

危険回避ができるしなやかで丈夫な体づくりを充実させる

自分の体の動きを、自分でコントロールして、危険から身を守る身体能力やバランス力が必要です。体力測定を行い、効果の検証を進めます。体操、リズム遊びの内容を充実させ、ケガの減少につなげます。

保護者・地域へのＩＳＳに対する意識の向上をはかる

子どもたちの安全を守るためには、保護者や地域への啓発を充実させていくことが必要です。ＩＳＳの取組について玄関掲示版を通じて充実させます。また、保育参観時に園児と保護者と共に安全教育を行っていきます。そして、保護者会の行事の際には必ずＩＳＳの取組報告を行い、共に安全安心の意識を高めていきます。また、地域への啓発として、自治会や警察署や小学校との情報共有を計画的に行っていきます。

職員のＩＳＳの取組への意識の向上をはかる

園内のＩＳＳ部会を新たに設置し、年間の計画に基づいた実践計画、ＩＳＳ集会の内容を作成します。その中で、全職員が共通理解を持ち、安全安心な保育所になるよう意識の向上を図っていきます。

亀岡市立別院保育所

保 育 方 針　養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する

目指す子ども像　「元気に遊ぶ子ども」　「思いやりのある子ども」
「感じ考え表現できる子ども」　「意欲のある子ども」

年 間 テーマ　「笑顔キラキラげんきっこ ～自分のことが好き　みんなが好き～ 」

- 四季をとおして友だちと一緒に自然を楽しむ
- 一人一人の子どもの良さを認め合い、表現力を高める

ISS スローガン　**「笑顔キラキラげんきっこ**
みんなの命をたいせつに」

１　概要・職員と園児数

亀岡市街地より、峠を越え大阪府に隣接した場所にある保育所は、山や田畑に囲まれ、四季折々に咲く草花を摘んだり、山道の散策・土手登りなどの遊びが楽しめる自然豊かな環境です。心豊かに育つ大事な自然環境の側面には自然の脅威もあります。

土手登り･草花摘みする
畦･小山

土砂災害の恐れ

毎日
マラソンする坂道

ハスの花が咲く田

保育所

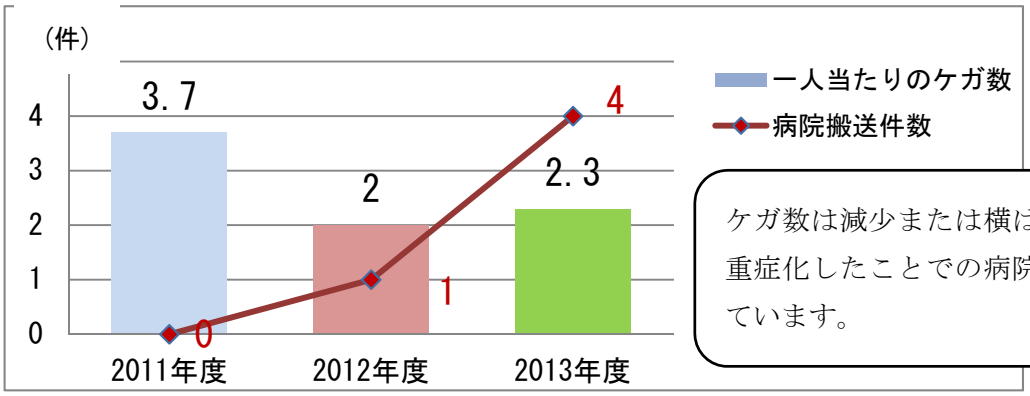
大雨が降ると
川の氾濫の恐れがある

3　ケガの状況

データは、特別な記載がない限り公立保育所外傷データより出典しています。

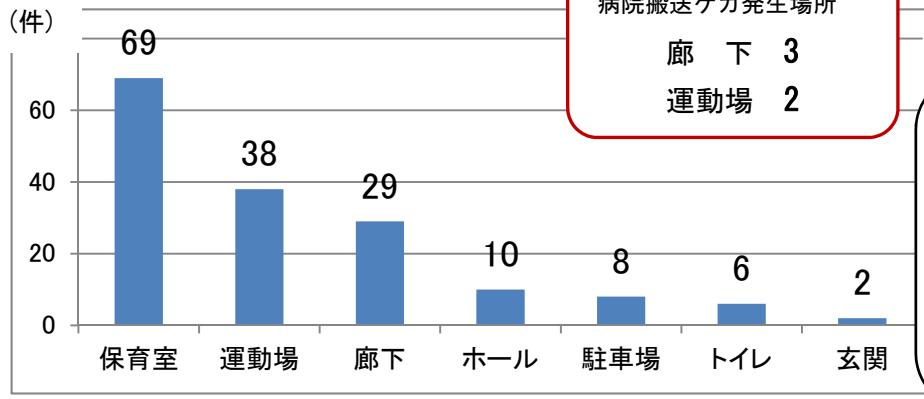
1 園内のケガ

図－1　年度別園児の病院搬送件数・一人あたりのケガ数（2011～2013 年度）



ケガ数は減少または横ばい傾向ですが、重症化したことでの病院搬送数が増加しています。

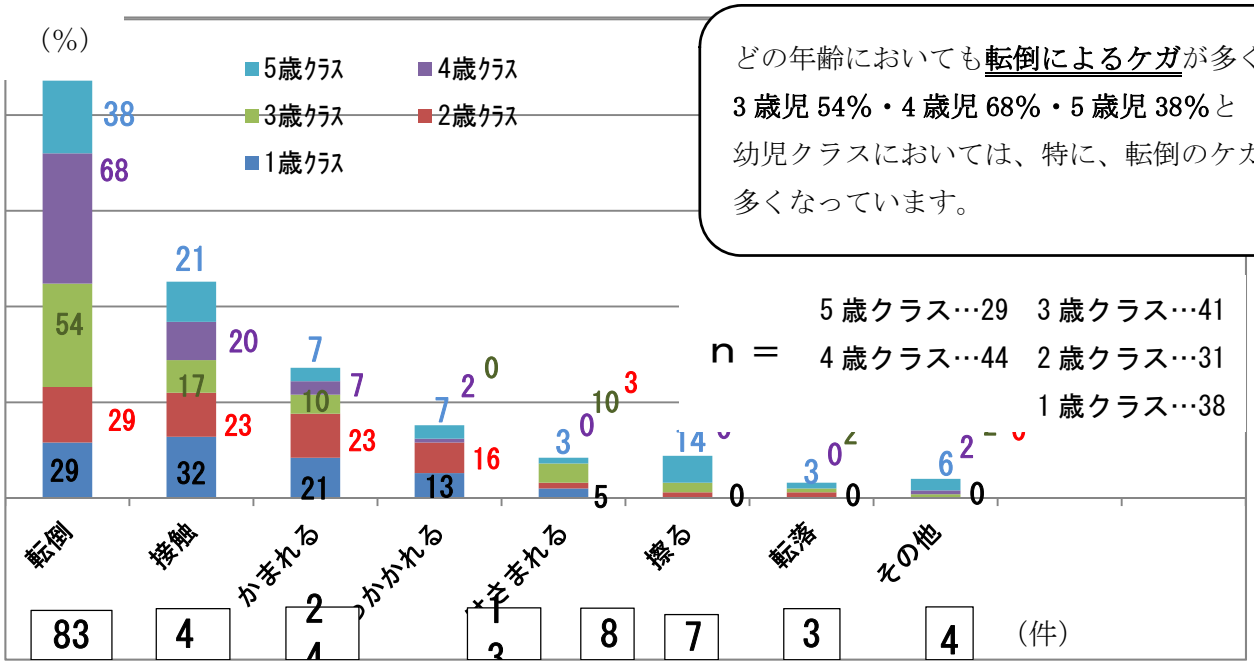
図－2　場所別発生総数（2011～2013 年度）



病院搬送ケガ発生場所
廊　下　3
運動場　2

ケガ発生場所が多いのは、**保育室・運動場廊下**の順です。
重症化しやすいのは、**運動場・廊下のケガ**です。

図－3　原因別ケガ発生総数と年齢別頻度　（2011～2013 年度）



どの年齢においても**転倒によるケガ**が多く、3 歳児 54%・4 歳児 68%・5 歳児 38%と幼児クラスにおいては、特に、転倒のケガが多くなっています。

４　８つの指標に基づいた取組

指標３：すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

安全安心な保育所を目指す長期的かつ継続的なプログラムの全体像です。
下表は、園児・職員・保護者・地域の対象別及び園舎内外でのプログラムを整理したものです。
詳細は、次のページ以降で説明しています。指標４・指標５に明記の項目もあります。

表−2 の見方　〈例〉 1−1　（1：ねらい、1：取組番号）

表−2　全体像

場所＼対象者		園児					職員					保護者・地域				
		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児										
園内	園舎内	1−1	1−2	1−3			1−1	1−2	1−3	1−4	1−5	1−3	1−5			
		2−1	2−2	2−3	2−4	2−5	2−1	2−2	2−3	2−4	2−5	2−1	2−4	2−5	2−6	2−7
		2−6	2−7				2−6	2−7	2−9	3−1	3−3	2−9				
		3−1	3−3				3−1	3−3				3−1				
	園舎外	1−1	1−2	1−3			1−1	1−2	1−3	1−4	1−5	1−3	1−5			
		2−1	2−2	2−3	2−4	2−5	2−1	2−2	2−3	2−4	2−5	2−1	2−4	2−5	2−6	2−7
		2−6	2−7				2−6	2−7	2−9			2−9				
		3−1	3−2	3−3	3−4		3−1	3−2	3−3	3−4		3−1	3−2	3−3	3−4	
園外	送迎中	2−4	2−6				2−4	2−6				2−4	2−6	2−9		
	家庭	1−3	1−1									1−1	1−3			
		2−1	2−2	2−3	2−4	2−5						2−1	2−2	2−3	2−4	2−5
		2−6	2−7	2−8			2−7	2−8				2−6	2−7	2−8	2−9	
	地域	1−2					1−2	1−4	1−5			1−5				
		2−7	2−8				2−6	2−7	2−8	2−9		2−4	2−6	2−7	2−8	2−9
							3−2	3−3	3−4			3−3	3−4			

【ねらい】　１　体づくり　　２　安全教育　　３　環境改善

各種取組　（ 凡例　①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要 ）

下線部は ISS の取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　体づくり

1-1	①	危険回避能力*1向上の為の運動遊び*2				
	②	園児・職員	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・ 平衡感覚やスピードコントロールを養う運動遊び（リズム・固定遊具・竹馬・体育遊び等）をすることで危険回避能力を育てる。				

竹　馬

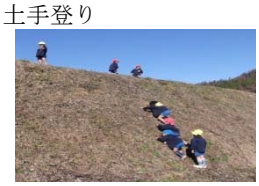
リズム遊び

＊1 危険回避能力とは、危険を予測・判断し、安全な行動をとる能力のことです。

＊2 運動遊びとは、体を使った運動を伴う遊びのことです。

1-2	①	体力・筋力を育てる活動				
	②	園児・職員	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・ 毎日体操とマラソンをし、保育所周辺へ出かけ農道や山道を歩き、土手登りをする等で足腰を鍛え、体力筋力をつける。				

土手登り



1-3	①	親子で運動遊び				
	②	園児・保護者	③	園内	④	保育士
	⑤	・ 参観等の行事に運動遊びを積極的に取り入れ、親子で運動遊びをする。 ・ 家庭でできる運動遊びを知らせていく。				

親子でボール運びゲーム

1-4	①	子どもと体についての学習会				
	②	職員	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・ 運動遊びやリズム遊びの講習会等に参加し学習する。 ・ 運動遊びと体の関係を学び、具体的な運動遊びを考え、実践につなげていく。				

職員リズム学習会

1-5	①	未就園児親子への運動遊びの啓発				
	②	未就園児親子	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・ 子育て支援事業の中にふれあい遊びやリズム遊びを取り入れ親子で運動遊びをする。 ・ 家庭でできる運動遊びを知らせていく。				

親子でリズムあそび

2　安全教育

2-1	①	ISS 遊び（災害時を意識した遊び）				
	②	園児・職員・保護者	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ 見つけてかくれんぼ、大声遊び(助けを呼ぶ)、コアラだっこ(避難時に大人から離れない)、ダンゴ虫ポーズ(危険回避姿勢)等の遊びの体験から身を守ることを体得する。				

ダンゴ虫ポーズ

2-2	①	きらきらの日（異年齢児交流＊3）				
	②	園児・職員・保護者	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ 散歩、わらべうた遊び、ゲーム遊び、絵本の読み語り、音楽会等、様々な年齢が交流することで、子ども同士のつながりを深め、思いやりの心・命を大切にする心を育てる。 ・ 活動内容を保護者へ知らせ親子で考え合う時間をつくる。				

みんなで散歩

＊3 異年齢児交流とは、クラスや年齢での活動ではなく、他の年齢の友だちと交流する活動です。

2-3	①	ISS 安全集会				
	②	園児・職員・保護者	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ 遊具の使い方を知ると共にルールを守る大切さを考え、実践できるようにする。 ・ 手洗い、うがい、薄着等の大切さを学び、健康な身体と安全安心な生活がつながることを意識できるようにする。 ・ 集会内容を保護者へ知らせ親子で考え合う時間をつくる。				

危ない遊び方を考える

安全マップからの学習

2-4	①	事故予防・安全への活動				
	②	園児・保護者・職員 未就園児親子	③	園内・園外	④	保育士 消防署員・警察署員
	⑤	・ 月に 1 回の避難訓練や年に 2 回の交通教室*4・防犯教室*5等で避難方法や安全意識を高める。未就園児親子も参加する。 ・ 消防署・警察署との合同訓練や救命救急講習等を実施する。 ・ 保護者や未就園児保護者対象にチャイルドシート着用の必要性や交通ルールを守る大切さ等、交通安全指導を受ける。				

避難訓練

京都府警による交通教室

＊4　交通教室とは、交通事故予防をねらいに、園児や保護者と考え合い実践する集会です。

＊5　防犯教室とは、不審者が保育所内に侵入した時の対応訓練をしたり、不審者からの被害予防等を考え合い実践する集会です。

2-5	①	ケガ・事故防止の安全指導				
	②	園児・職員・保護者	③	園内・園外	④	職員 消防署員・警察署員
	⑤	・ ISS 会議を定例化し、安全安心な保育について考え、実践する。 ・ 消防署や警察署との合同訓練や救命救急講習等で、適切な避難誘導等の知識を習得し、確認、指導を受ける。				

会議後点検を強化する

2-6	①	保育所 ISS 活動の理解と家庭での事故防止対策				
	②	園児・職員 保護者・地域	③	園内・園外	④	職員 市役所職員
	⑤	・ 保護者対象 ISS 学習会 ・ セーフコミュニティ便り、健康便り、安全便り、保育所便りの配布や回覧 ・ 危険箇所の注意喚起看板等の掲示				

保護者対象 ISS 学習会

お便りを見る親子

2-7	①	虐待を未然に防止する				
	②	園児・保護者・地域	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ 園児の心と体の様子を観察する。 ・ 保護者対象の相談事業を実施する。 ・ 要保護児童対策地域協議会で対策を検討する。 ・ 家庭訪問等での子育て支援（相談等での虐待予防等）				

子育て支援事業の中で
「子育て相談」

2-8	①	地域でのケガ予防・啓発活動				
	②	園児・保護者 地域・未就園児親子	③	園外	④	地域・職員
	⑤	・ 保育所便りの配布（健康・安全について掲載） ・ 家庭訪問、あかちゃん訪問*6等での子育て支援 ・ 地域行事に参加し、地域との連携を構築。安全啓発をする。				

地域行事で
川の危険を学ぶ

＊6　あかちゃん訪問とは、新生児誕生のご家庭を地域の民生委員の方と一緒に訪問し、話したり、悩みを聴いたりし、保護者が孤立することがないようにしていく活動です。

2-9	①	未就園児親子へのケガ・事故防止指導				
	②	未就園児親子	③	園内・園外	④	保育士
	⑤	・ 室内遊具や固定遊具の使い方を知らせ、遊びを見守る。 ・ 保育所主催の交通教室に参加し、安全意識を高める。 ・ 保育所便りの配布（健康・安全について掲載）				

未就園児親子園庭開放

3　環境改善

3-1	①	園舎内外・運動場の安全点検				
	②	園児・職員・保護者	③	園内	④	園児・職員
	⑤	・ 職員による安全点検を定期的に実施し、整理、補充、修理する。 ・ 園児と職員による運動場の石拾い、地面の凸凹の整備 ・ 園児による安全パトロール				

園児と職員運動場の石拾い

3-2	①	園舎裏山・園舎周辺の点検				
	②	園児・保護者・職員	③	園内・園外	④	職員
	⑤	・ 園舎裏山や園舎周辺を点検し、異常の有無を毎日点検する。				

3-3	①	有害動植物（ハチ・ヘビ・ムカデ等）からの被害防止対策					
	②	園児・保護者・職員	③	園内・園外	④	保護者・職員	
	⑤	・ 草刈、木の伐採や園舎内外の害虫駆除 （ゴキブリ・カメムシ等も含めた害虫駆除のための園舎周辺の環境整備）					

3-4	①	園舎周辺の草刈・木の伐採					
	②	園児・保護者・職員	③	園内・園外	④	保護者・職員	
	⑤	・ 草刈、木の伐採等園舎周辺の環境整備 ・ 保護者からの呼びかけで始まり、毎年２回実施する。					

指標４：ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

（１）土砂災害、大雨による川の氾濫等の可能性がある環境　　（指標３　2-1　2-4　3-2　）

（＊7 2014 年度は 2014 年 4 月～2015 年 1 月までの集計です）

設定理由	大雨が降ると川が氾濫し、保育所が孤立する。裏山の土砂が崩れ落ちる恐れがある。
現　　状	・大雨が降るたびに河川水位が増す。 2011 年 10 月　大雨警報発令 （園児帰宅 後）駐車場付近の橋けたの近くまで水位が増し、氾濫しかける。 2013 年 9 月 16 日 台風 18 号 川が氾濫し園舎前の畑に土砂が溢れる。
対策内容	職　員　・警報発令時及び危険な状況と判断した際の対応確認 ・災害想定避難訓練時の職員の役割、行動の確認の徹底 ・裏山の安全点検（毎日） ・土砂災害、河川氾濫想定の避難訓練や学習会の実施 園　児　・避難訓練実施 ・災害を想定した ISS 遊び[*7] の実践
活動実績	職　員　・土砂災害対策マニュアルの作成（2013 年 3 月） ・土砂災害想定避難訓練　（2013 年度　2 回　2014 年度[*8]　3 回） ・土砂災害前兆現象等の学習会　（2013 年度　1 回　2014 年度　1 回） 園　児　・土砂災害想定避難訓練　（2013 年度　1 回　2014 年度　2 回）
結　　果	2013 年豪雨で経験した川の氾濫や土砂が流れる状況が学習会や避難訓練と重なり、職員や園児の豪雨や土砂災害に対する警戒意識が高まった。

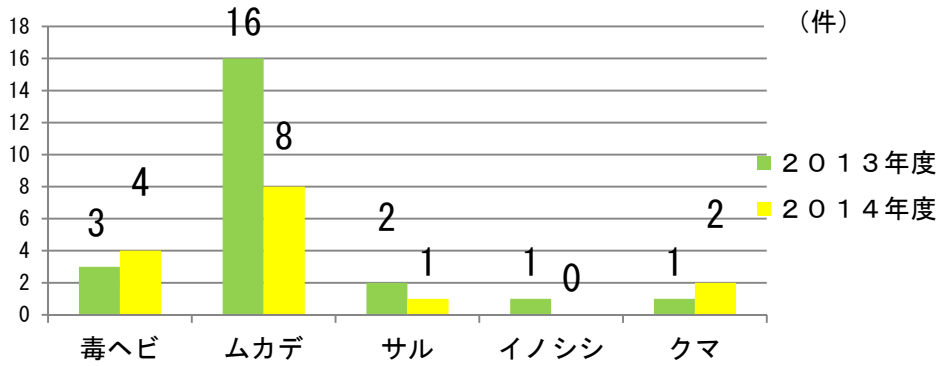
＊4 ISS 遊び　**（指標３　2-1）**

○ 上から物が落ちてくる時等の防御姿勢 … ダンゴ虫ポーズ
○ 避難時に保護者と離れないようにするため…コアラだっこ
○ 閉じ込められた時大きな声で助けを呼ぶ
　見つけてかくれんぼ　大声遊び（どんな声が届くかな）
○ ISS ソング　♪くるりんだんごむし　♪あかちゃんハイハイ

火災時、煙を吸わない為のハイハイポーズ

（２）獣・害虫等の侵入がある環境　　**（指標３　2-3　3-3　3-4 ）**

（＊8 2014 年度は 2014 年 4 月～2015 年 1 月までの集計です）

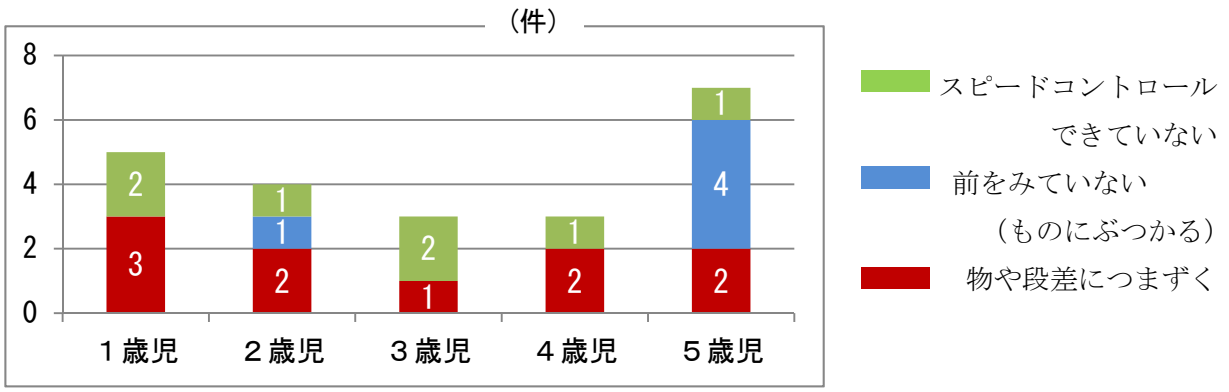
設定理由	山間部に立地しているため、保育所周辺に獣が生息している。 また、園舎内では、ムカデ・毒ヘビ等が頻繁に出没する。
現　　状	**図－３　獣、害虫発生状況** （2013 年度～2014 年度[*8]　害虫駆除記録簿 別院保育所データより）  毒ヘビ・ムカデ … 園内での駆除数　　イノシシ・サル … 園舎周辺での目撃数 クマ … 別院地域内での目撃数（市役所、駐在所からの連絡）
対策内容	職　員　・害虫が侵入しないための薬剤散布 ・園舎周辺の草刈り（年 5 回）木の伐採（年 2 回） ・獣発生時の連絡網作成 （駐在所、警察署、小中学校、自治会等） ・ISS 会議で有害動植物の写真等を利用し特徴を学ぶ 園　児　・有害動植物を見つけた時『近寄らない・触らない・知らせる』等の徹底
活動実績	職　員　・園児が触れられない所に害虫駆除薬を散布　（2013 年度　4 回） ・毎日の点検　・害虫注意喚起ポスターの作成（2014 年度　1 回） ・市役所、駐在所、亀岡警察署及び自治会との連携（情報提供 2013 年度 4 回） 園　児　・害虫についての安全集会　（2013 年度　1 回　2014 年度　2 回）
結　　果	ムカデの発生が減少し（図-3 参照）、園児が害虫発見を伝える回数も大幅に増えた。 近隣住民からの獣発生情報もあり、地域の中で保育所への安全意識をもってくださるようになってきている。

指標５：入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

１　課題を導く要因

図－1・図－2・図－3 からわかるように、転倒によるケガが多くなっていることから、転倒によるケガの間接機転・発生場所を分析してみました。

図－４　転倒の間接機転・年齢別間接機転（2013 年度）

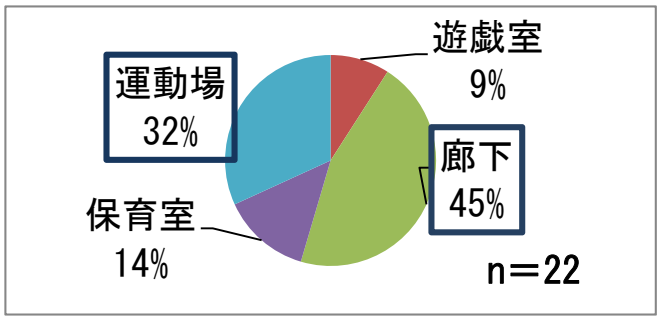


転倒の間接機転は、前を見ていない・物や段差につまずく・スピードコントロールができないことなどがあります。次にどうなるのか、何に気をつけなければならないのか、自分の動きが他の人にどう影響するのかなどを予知する意識や危険回避能力が必要だと考えられます。

年齢別に見てみると、5 歳児は、行動範囲が広がり、動きも活発になることから転倒へとつながっています。低年齢児はおもちゃや段差などにつまずくことが多く見られます。

次に、転倒する場所について分析してみました。

図－5　転倒によるケガの場所　（2013 年度）

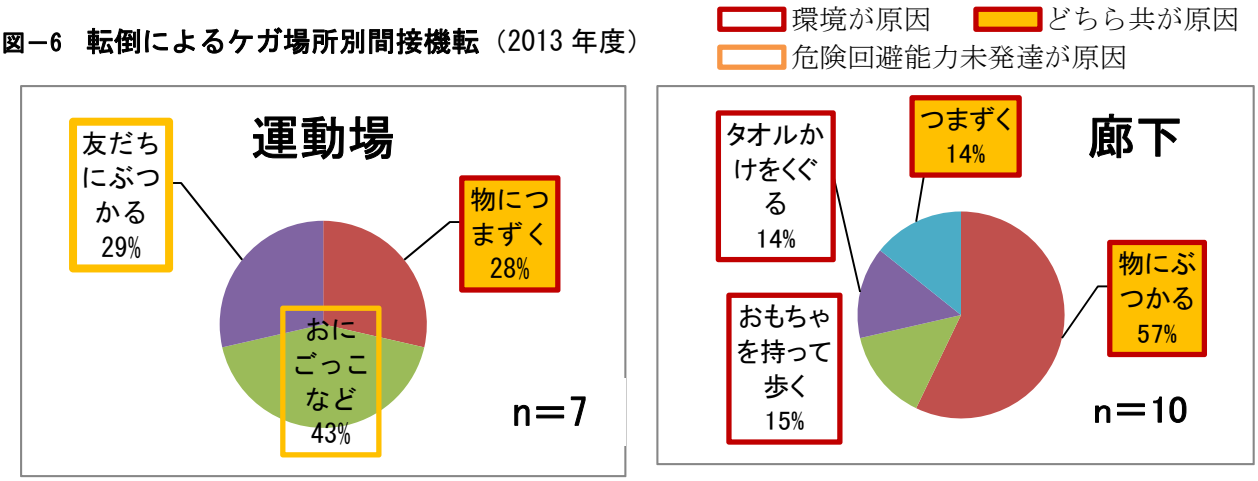


転倒によるケガの場所は、運動場と廊下が多くなっています。

それぞれの場所での間接機転を調べてみると環境が原因のケガは、運動場では 28%、廊下では 100%　になっています。

危険回避能力未発達が原因のケガは、運動場で 100%、廊下 71%になっています。

図－6　転倒によるケガ場所別間接機転（2013 年度）



転倒によるケガが多い

発生場所 … 運動場・廊下

発生原因 … 前を見ていない・物や段差につまずく・スピードコントロールができない

2　重点取組・・・転倒によるケガの予防

予防対象	課　　題	計画・実践
転倒によるケガの予防	危険回避能力の向上	危険回避能力の向上プログラム ・ISS 安全集会の実施 ・ISS 会議の定例開催
	運動場・廊下の環境整備の充実	運動場・廊下の環境整備の充実プログラム ・遊び場の環境整備・補修 ・園児による安全パトロール

①　危険回避能力の向上プログラム（指標３　2-1　2-2　2-3　2-5　2-6 ）

ISS 安全集会　**実施回数　5 回（2014 年 4 月～2015 年 1 月）**

園児自身が危険な場所や危険を回避するためにどうしたらいいのかを考える場として、安全集会をしています。安全マップを掲げ、ケガをした場所にシールを貼り、何故ケガをしてしまったか、どうすればなくなるのかを考え合い、自分たちで気付けるようにしていきます。

廊下での転倒原因を考え合った時、子どもたちから「廊下を走るからや」という意見が出、“廊下は歩きます”を合言葉にしました。

危険を予測する力は、様々な経験から体得していきます。集会で幼児クラスのおにごっこやリレーなどから、スピードコントロール力やぶつかり回避力などを育んでいきます。

ISS 会議・ISS 安全集会前会議　　**実施回数　11 回　（2014 年 4 月～2015 年 1 月）**

月に 1 回の職員による安全点検後に、危険箇所を報告する会議をし、園児と一緒に補修できるところがあれば保育の中で実践していきます。

安全集会前には、今、気になることを出し合い、どのような集会にすることで、園児の意識が高まるのか話し合い、職員の寸劇やクイズ形式などの集会もしています。

②　運動場・廊下の環境整備の充実（指標３　2-5　3-1）

ISS 集会後に 5 歳児が実際に運動場や廊下を歩き、どこが危ないかをパトロールしています。パトロールでみつけた危険箇所に印をつけたり、マットを敷いたりしています。低年齢の園児も運動場の石を拾ったり、整備などを職員と一緒にしています。

職員は安全点検日だけでなく、“気付いたその日に実行を！”と常に安全安心意識をもち、環境整備をしています。

危険な箇所にペンキを塗って
注意喚起できるようにする

廊下クッション材敷き

運動場の凸凹を補修

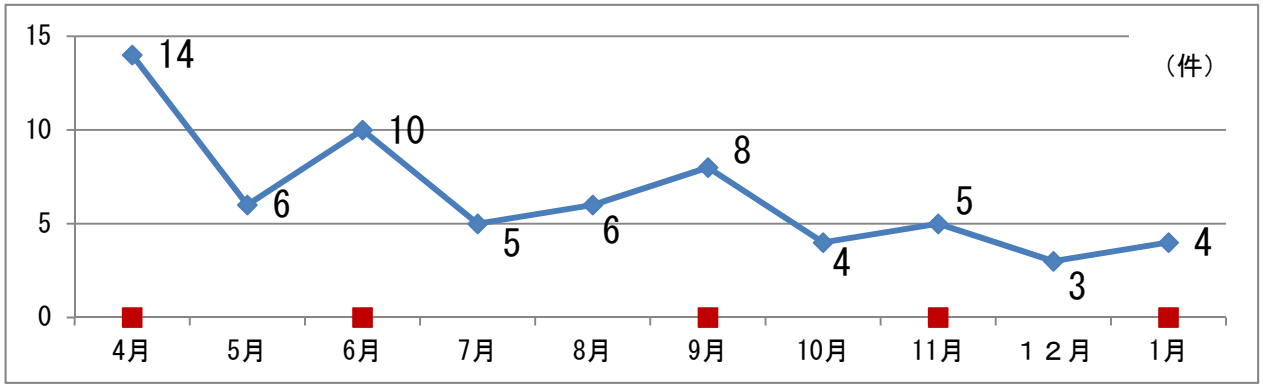
廊下のひび割れ補修

廊下の『歩きます』掲示箱補修
柱クッション貼り付け

指標７：プログラムの効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

プログラム名	短期・中期的指標	長期的指標
危険回避能力向上プログラム	【指標】 安全集会に参加　（図－8） 廊下を走る園児数の減少（図－7） 【測定方法】 安全集会実施回数　（図－8） 廊下での行動観察（図－7）	【指標】（図－10） 転倒によるケガの減少 【測定方法】 ケガ数の記録
環境整備の充実プログラム	【指標】 安全パトロール等を実施し、危険な場所に気付ける園児の増加（図－8・9） 【測定方法】（図－9） 安全パトロール実施回数 運動場と廊下の点検修繕箇所数 安全安心マップの危険箇所発見シール数	【指標】 運動場と廊下での転倒ケガ数の減少 【測定方法】（図－9） 安全点検後の修繕箇所記録

図－7　廊下を走る園児数（2014 年 4 月～2015 年 1 月）

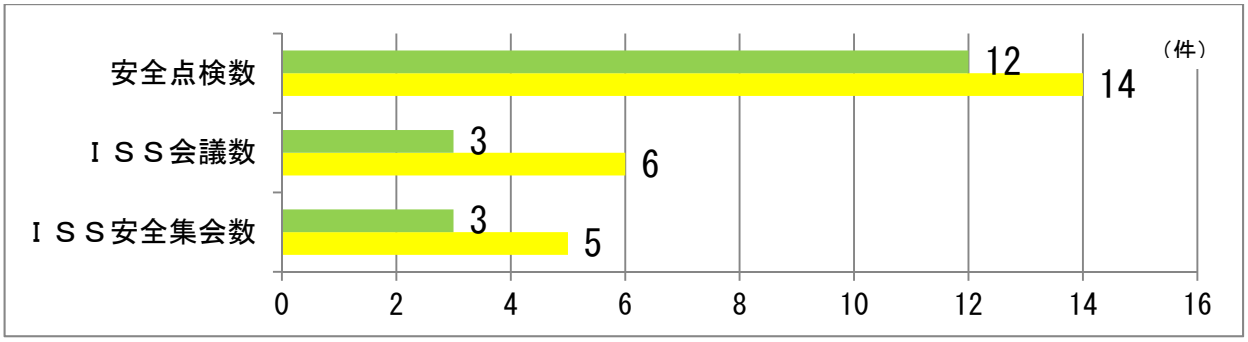


■　安全集会を実施した月

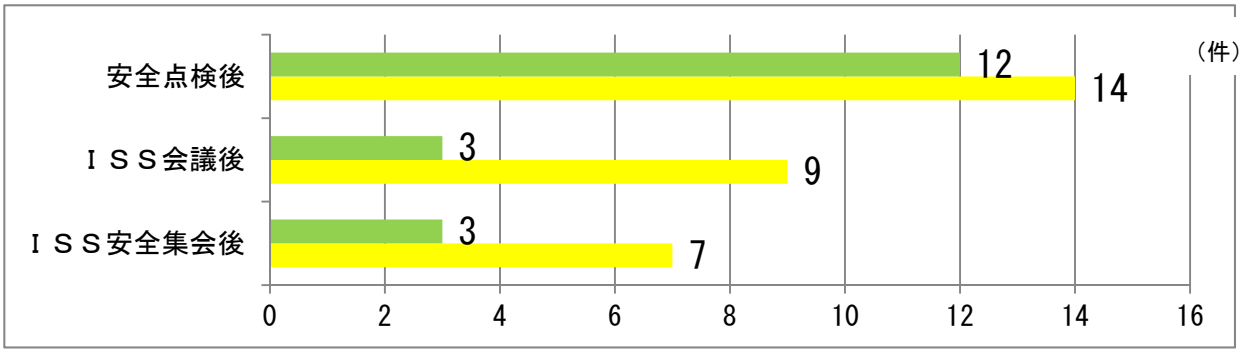
「廊下は歩きます」を考え合った安全集会後は、走る園児が減少しますが、日にちがたつと少しずつ増えていきます。繰り返し考え合い、『廊下を走る子ゼロ』を目指します。

図－8　年度別安全点検数・ISS 会議数・ISS 安全集会数

（2013 年 4 月～2015 年 1 月までの会議録より　別院保育所データ）2013 年度　2014 年度



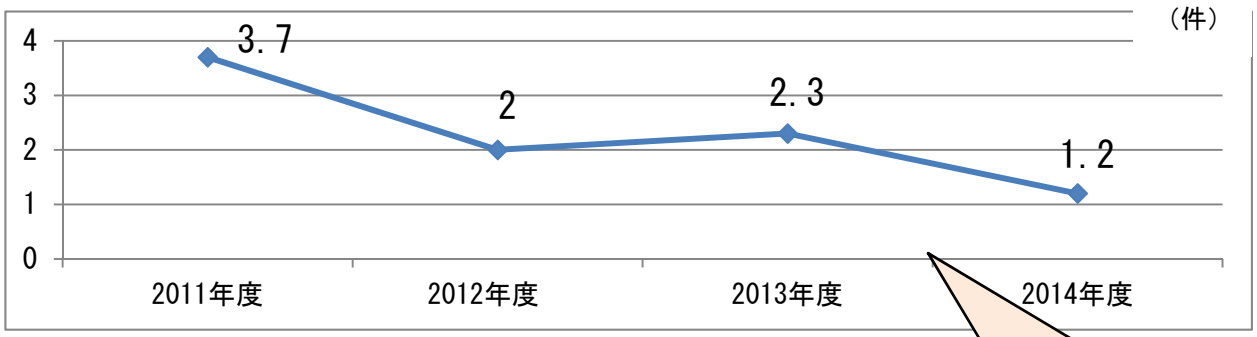
図－9　年度別修繕箇所数（2013 年 4 月～2015 年 1 月までの修繕箇所記録簿より　別院保育所データ）



ISS 安全集会後は、園児と一緒に運動場整備や石拾いをすることが習慣付き、園児自身が小さな石に気付き拾う姿も見られます。また、5 歳児と危険箇所安全パトロールをしながら、危ないと思ったところに目印を付けました。

月に 1 回の職員による安全点検では、亀岡市立保育所研修部の危機管理研修『屋外遊具の安全・安心な管理について』などの学びから、より丁寧に点検しています。

図－10　　一人あたりの転倒によるケガ数　（2011 年 4 月～2015 年 1 月）



ケガ数の減少と共に、重症化するケガも減少し

2013 年度 4 件あった病院搬送数は 2014 年度は 0 になりました。

５　課題と今後にむけて

（１）課　　題

○ 園児の重症化するケガ数は減少傾向になっていますが、転倒によるケガの大幅減少にはなっていません。

○ 職種や担任するクラスの年齢などによって園児の行動予測や危険環境の着目点が違うなど、職員の安全安心教育に対する意識に差があります。

○ 草刈りなどの環境整備等は保護者の協力の中進めていますが（指標３　3-4)、保護者のISS への関心や安全安心に対しての意識等は把握できていません。

○ 近隣の警察署や消防署とは避難訓練や交通教室など連携をもちながらすすめていますが、小中学校・自治会との連携は十分ではありません。

ISS 理念は生涯を通じて大切なものです。小中学校への安全安心を意識した活動の継続や地域全体での ISS への関心の高まりはまだ弱いです。

（２）今後にむけて

園児の危険回避能力向上プログラムの充実

園児のケガ減少のためには、自分の行動を予測し回避できる能力を育んでいくことが必要です。幼児期は理論で考えるだけでなく、実際に行動して体得することがより重要です。

・ どのような運動が子どもの危険回避能力につながるのか専門講師を迎えての職員学習をしていきます。

・ ISS 遊び、運動遊び等を定期的に計画し、体づくりをさらに充実させていきます。

職員の安全教育への意識向上と取組の継続

・ 何をしている時にどのようにしてケガをしたのか、園児はどのような気持ちだったのか、職員は何をしていたのかなどもデータ入力し、月 1 回 ISS 安全会議をもち分析していきます。

・ 毎月の保育計画の中に ISS 実践の項目を掲げ、計画・実践・反省し、課題を明らかにし、次への実践へとつなげていきます。

・ 亀岡市立保育所の保育士や養護師等が定期的に集まり、安全安心な環境づくりのための取り組みを考え合う部会（ISS 指導部会）を立ち上げ、他保育所の取組からも学び亀岡市立保育所全体の安全安心な環境づくりへの実践力を高めていきます

保護者・地域と連携した取組

- ISS への関心から理解へとつなげるため、保護者会総会や懇談会で ISS 活動の紹介をし、保育所の取組の便り等も定期発行していきます。また、保護者の ISS 意識や具体策等のアンケートを実施し、保護者意識を把握していきます。
- 体づくりを推奨するために、年 2 回の保育参観や運動会等行事の中で親子での運動遊びを取り入れます。
- 地域環境からも車での移動が多く、全園児が自家用車での送迎です。園児・保護者共に、交通ルールを守ることが必至です。地域の駐在所や警察署と連携し、保護者対象の安全教室を実施し年 2 回の保護者総会や参観日には手つなぎ運動（駐車場や道を歩く時）を啓発します。
- 保育所を卒園した園児たちが継続して意識し、行動できるよう年 4 回の地域小学校や中学校との交流学習で ISS 遊びや ISS 安全集会を実践し、年 3 回の教育懇談会等でも小中学生教諭に ISS の取り組みを伝えていきます。
- 保育所発行の ISS 便りを自治会・主任児童委員にも配布し、ISS への関心の高まりや理解につなげていきます。

安全集会や ISS 会議等の取組を充実させることで、『安全安心』を園児も職員も自分たちのこととして捉える事ができるようになってきました。職員・園児・保護者の意識をさらに高め、実践につなげると共に保護者・地域の方々の意識も高めていくことが必要です。

今後は、保育所の ISS 活動を地域に広め、園児の生涯にわたっての安全安心につながる ISS 活動をしていきます。

亀岡市立東部保育所

ＩＳＳスローガン

あんぜん　あんしん　たのしいほいくしょ

げんきにあそぼう　とうぶっこ！」

保育方針

養護と教育が一体となって豊かな人間性をもった子どもを育成する。

目指す子ども像

「元気に遊ぶ子ども」　「思いやりのある子ども」

「感じ考え表現できる子ども」　「意欲のある子ども」

～安全・安心な東部保育所を目指して～

東部保育所は 1972 年に開設し、1995 年に移転改築して開設４３年になります。「みんなだいすきたいせつなともだち」を保育テーマに、一人一人を大切にしながら、自尊感情を高め、お互いを思いやり、人権を大切する心を育てる保育をしています。

東部保育所のある篠町は、亀岡のセーフコミュニティーのモデル地区として、早くから取組を進めています。こうした中、2013 年 9 月に東部保育所も安全安心な保育所を目指して、インターナショナルセーフスクールの認証取得宣言をしました。「安全・安心楽しい保育所、元気に遊ぼう東部っ子」を合言葉に、子どもたちにとって、安全安心に過ごせる保育環境づくり、子ども自身がケガをしない身体をつくるための体幹育て、そして、安全に対する意識がもてるように子どもたちと共に見守り隊活動などを進めてきました。保護者や地域の方にもご協力をいただき、子どもたちの安全を見守っていただいています。未来の宝である大切な命を守り、子どもたちの健やかな成長のために、今後もより一層保護者や地域とのネットワークを大切にしながら、安全安心な東部保育所を目指して努力してまいりたいと思います。

2015 年 3 月　亀岡市立東部保育所
所長　杣田孝子

１　概要・職員と園児数

＊保育目標・・・

子どもたちの全面的な成長発達を保障し、人間として豊かに生きていく力の基礎を育てていく。

＊年間保育テーマ

みんなだいすき
たいせつなともだち

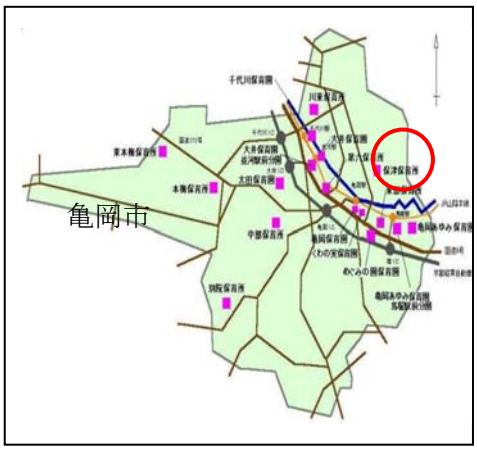
＊職員と在園児の状況

表 - １　園児数　（2015 年 3 月現在）（人）

年齢	０才児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	合計
人数	６	１８	２３	３８	４０	４３	１６８

職員数　所長（１）・ 所長補佐（１）・子育て支援推進員（１）
作業員（１）・養護師（１）・給食調理員（４）・保育士（３９）

2　保育所を取り巻く環境



東部保育所のある篠町は、京都市に隣接し利便性も良いことから、宅地開発が年々進み子育て世代の家庭を中心に人口が増加しています。そのため保育所への入所児童も増えてきています。保育所周辺は住宅地で近くに小学校、中学校、亀岡市立病院などがあり、連携のとりやすい環境にあります。

3　ケガの状況

データについては特別な記載がない限り、公立保育所外傷データより出典しています。

図-1　年度別ケガ発生件数と一人あたりの受傷件数（2011～2013 年度）

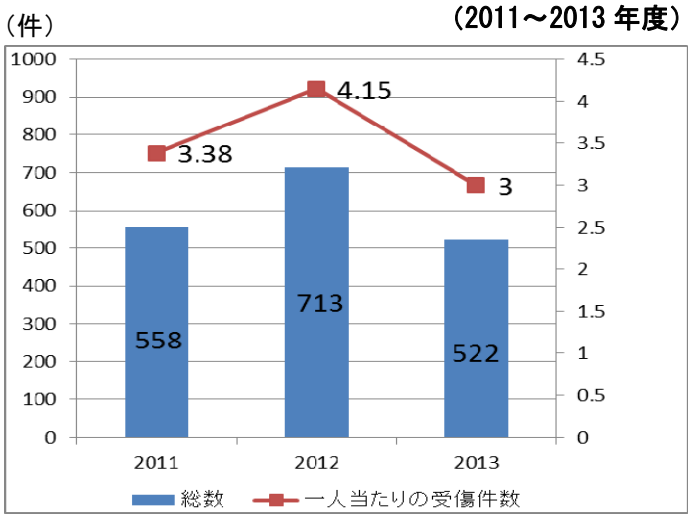


図-2　全体的なケガ件数（2011～2013 年度）

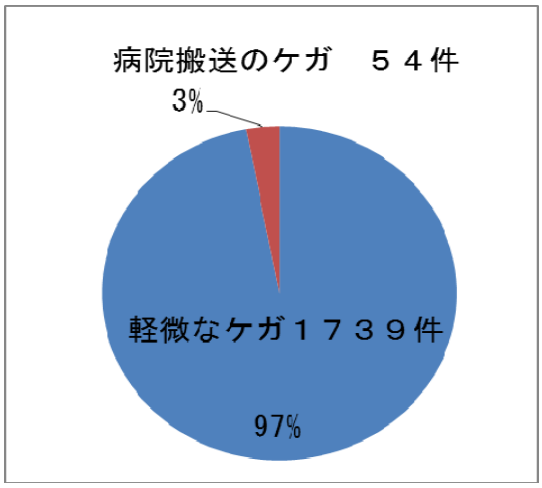
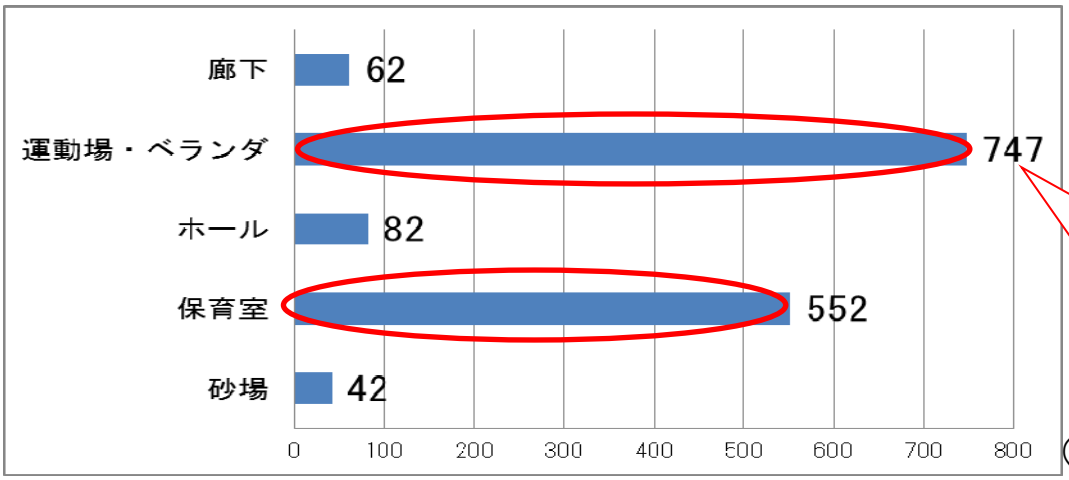
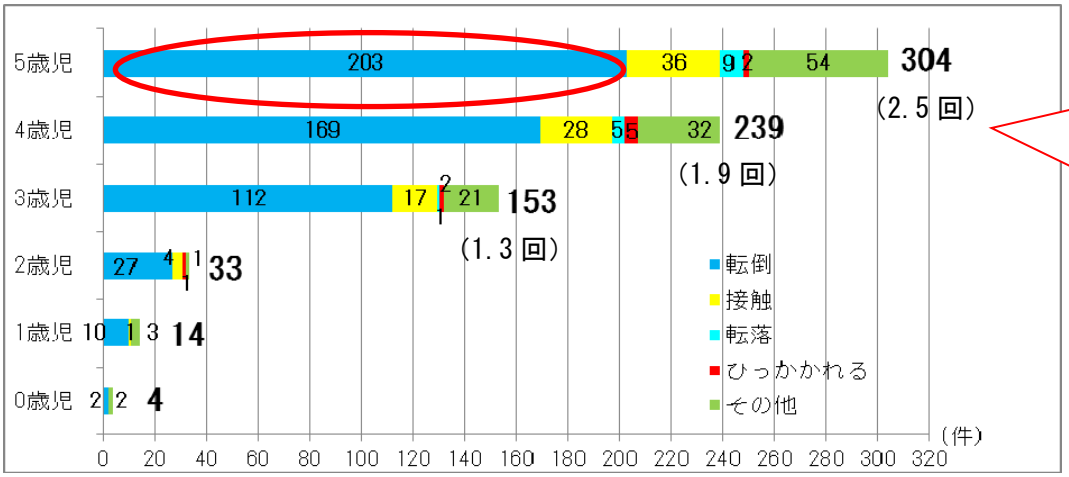


図-3　園内での場所別のケガ数　上位５ヶ所（2011～2013 年度）



園内でのケガは運動場・ベランダと保育室で多く発生しています。

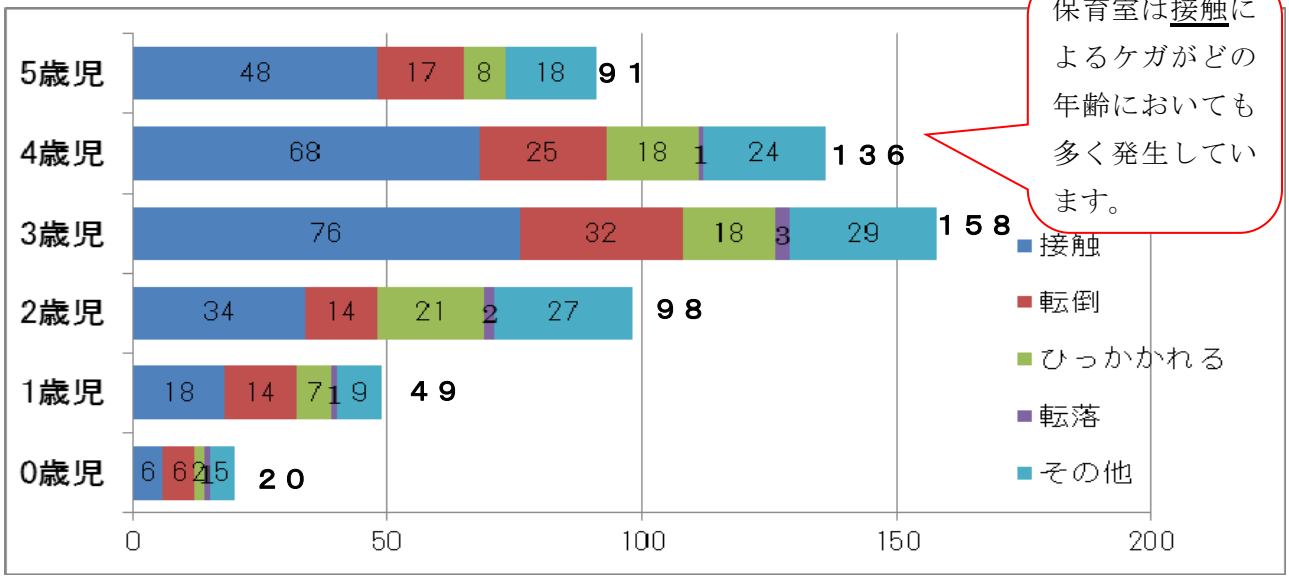
図-4　運動場・ベランダでの年齢別ケガの直接機転分別（2011～2013 年度）



運動場・ベランダでのケガは転倒が特に５歳児に多く発生しています。

（　）内は、３年間の一人あたりのケガ件数

図-5　保育室での年齢別ケガ数とケガの直接機転（2011～2013 年度）



保育室は接触によるケガがどの年齢においても多く発生しています。

４　８つの指標に基づいた取組

指標３　すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-2 の見方
例 1-1
ねらい　取組番

表-2　全体像

場所＼対象者		園児						職員	保護者・地域
		０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児		
園内	園舎内	1-1 1-2 1-3 1-5 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-9 2-10 2-11 2-12 3-2						1-5 2-2 2-3 2-4 2-6 2-10 2-12 3-2	1-6 2-2 2-7 2-9 2-10 2-11 2-12 3-2
	園舎外	1-1 1-3 1-5 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-9 2-10 2-11 2-12 3-2						1-5 2-2 2-3 2-4 2-6 2-10 2-12 3-2	1-6 2-2 2-7 2-9 2-10 2-11 2-12 3-2
園外	送迎中	2-6 2-7 2-8 2-10 2-12 3-2						2-4 2-10 2-12 3-1 3-2	1-6 2-2 2-7 2-8 2-10 2-12 3-1 3-2
	家庭	2-6 2-8 2-7 2-10 2-11 2-12 3-2						2-4 2-10 2-12	2-7 2-8 2-9 2-10 2-11 2-12 3-2
	地域	1-4 2-4 2-7 2-9 2-10 2-12 3-2						2-4 2-10 2-12	1-6 2-7 2-9 2-10 2-12 3-2

【１　体づくり　　２　安全教育　　３　環境改善】

各種取組（凡例：①プログラム名　②対象　③場所　④実施者　⑤概要）

下線部は ISS 取組宣言後に新規・改善した取組です。

１　体づくり

1-1	①	危険回避能力*1向上の為の体幹育て				
	②	園児	③	園舎内　園舎外	④	保育士
	⑤	リズム遊び、体操（週２回）、固定遊具など遊びや雑巾がけの活動を通して体づくりをし、 体幹を育てていく。				

＊1 危険回避能力とは危険を予測、判断し、安全な行動をとる能力のこと。

1-2	①	体力測定				
	②	園児（５歳児）	③	園舎内	④	保育士
	⑤	２ヶ月に１回体力測定を行いバランス感覚・腹筋・背筋の力の育ちを見る。				

1-3	①	バランス感覚や運動能力を育てる運動遊び*2				
	②	園児（３～５歳児）	③	園内	④	保育士
	⑤	手づくりおもちゃ遊び…竹ぽっくり（３歳）天狗の下駄（４歳）竹馬（５歳）など、年齢の発達に合ったバランス感覚を育てる遊びを継続的に行う。				

＊2 運動遊びとは、体を使った運動を伴う遊びのこと。

1-4	①	散歩による体力・筋力を育てる活動				
	②	園児	③	園外	④	保育士
	⑤	周辺地域へ散歩に出かけ歩くことで、足腰を鍛え体づくりをする。また道路を歩く経験をし、交通ルールを学ぶ。				

1-5	①	運動遊びに関する学習				
	②	園児　保育士	③	園舎内　園舎外	④	保育士
	⑤	リズム遊びなど体幹を育てる運動遊びについて学習し、効果的な指導を行う為に職員で学び合ったり研修会に参加する。				

1-6	①	未就園児とその保護者へ運動遊びと安全についての啓発活動				
	②	未就園児とその保護者	③	園舎内 園舎外 地域	④	保育士
	⑤	未就園児とその保護者へリズム遊びや運動遊びの紹介をしたり、家庭でのヒヤリ・ハットした経験について交流し、未就園児の体力向上と安全意識の向上を図る。ＩＳＳ活動に関する啓発実施				

２　安全教育

2-1	①	遊びの為のルール教育				
	②	園児	③	園舎内　園舎外	④	保育士
	⑤	「歩きましょう」「止まれ」の表示や遊びの種類により運動場をエリアに分けるなど、安全に遊んだり生活するためのルールを共通理解する。膝の擦り傷防止対策として、運動場で活動する時は長ズボンを履く。				

2-2	①	ＩＳＳ集会				
	②	園児　保育士　保護者	③	園舎内　園舎外	④	保育士
	⑤	遊具の正しい使い方を知ったり、安全や危険に関する知識を深める。				

2-3	①	園児による安全点検・環境整備				
	②	園児　職員	③	園舎内　園舎外	④	園児　保育士
	⑤	園児自身が園内の危険を週１回見回り点検し、危険箇所を整備したり報告する活動をすることで、危険に対する意識を高める。2014 年 12 月から実施				

2-4	①	避難訓練				
	②	園児　職員	③	園舎内 園舎外 地域	④	園児　職員
	⑤	火災や地震、水害を想定し月１回避難訓練を行う。				

2-5	①	「なかよしの日」*3				
	②	園児	③	園舎内　園舎外	④	保育士
	⑤	友だちとの遊び方や、心地よいコミュニケーション、互いの人権を尊重しあうことを考える。				

*3 なかよしの日とは、異年齢や他クラスと交流し仲間作りをする日のこと。

2-6	①	つぶやき採集*4				
	②	園児　職員	③	園舎内　園舎外	④	職員
	⑤	職員が子どもたちの言葉に丁寧に耳を傾け聞くことで、お互いの信頼関係を築き子どもたちの気持ちの安定を図る。またその意味や思いを考える取組。				

*4 子どもたちの言葉を聞き取り集め、その意味や思いを考えること。

2-7	①	虐待を未然に防止する活動				
	②	園児　保護者　地域	③	園舎内　園舎外　園外	④	保育士 地域
	⑤	園児の心と体の様子を観察し、保護者対象の相談事業を実施する。要保護児童支援対策地域協議会*5 で対策を検討する。				

*5 保護を要する子どもに関する情報の交換や支援を行うための協議を行う場。

2-8	①	「駐車場では親子で手をつなごう」運動				
	②	園児　保護者	③	園外	④	保育士
	⑤	送迎時の約束や駐車場でのルールを親子で共通理解し実践する。				

2-9	①	小学校での安全教室				
	②	園児（５歳児）保護者	③	園内　園外	④	小学校教諭　保育士
	⑤	安全教育に焦点をあて登校班での様子やルールについて学び、見通しや期待をもち就学に向かえるようにする。				

2-10	①	安全に対する情報交換				
	②	園児　職員　保護者　地域	③	園舎内　園舎外　園外	④	保育士　地域
	⑤	災害や不審者情報について、メールや交流の中で情報交換する。				

2-11	①	親子で運動遊び（手づくりおもちゃ作成・練習）				
	②	園児　保護者	③	園舎内　園舎外　園外	④	保育士
	⑤	手づくりおもちゃの作成と練習を通して、園児の成長発達を保育士と共に理解支援してもらう。				

2-12	①	ＩＳＳ啓発おたより発行				
	②	園児　保育士　保護者	③	園舎内　園舎外　園外	④	保育士
	⑤	園児や保護者に安全啓発を行うおたよりを作成することで、保育士が子どもの安全について学習する。				

３　環境改善

3-1	①	駐車場内での安全対策				
	②	園児　保育士　保護者　地域	③	園舎外　園外	④	保育士　地域
	⑤	駐車場での約束を守り安全に送迎する為に一方通行規制、駐車スペースの拡大、亀岡警察署・安全活動推進員による指導、地域の老人会「見守り隊」の活動を実施する。				

3-2	①	職員による安全点検・環境整備				
	②	園児　職員　地域	③	園舎内 園舎外 園外	④	職員
	⑤	危険箇所を見極める意識をもち、日々点検を行うことで安全な環境作りに努める。ベランダのグリーンマットなどの環境改善。安全安心マップでケガの状況を確認し、危険箇所の改善を行っていく。				

指標４　ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

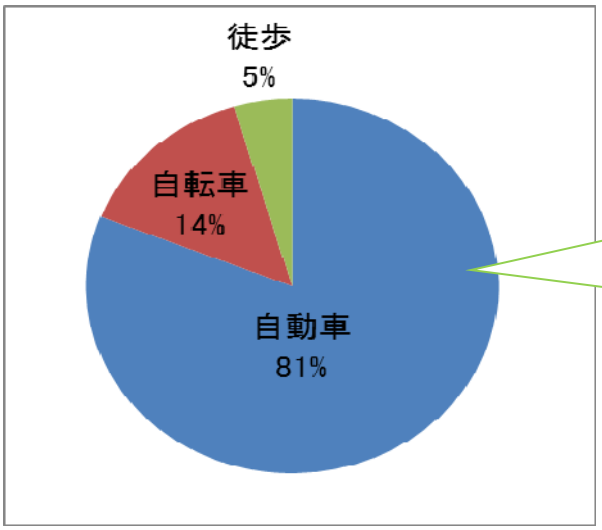
１　車が混雑する危険な環境（駐車場）

車で送迎をされる家庭が増えていることや周辺道路は通勤、通学の車が多く混み合う状況であることなどが原因となり、年々駐車場の混雑が深刻化している状況をハイリスクと考えます。

2013 年には他の場所に駐車場を確保し、園児の送迎用に活用することで駐車場の混雑緩和に努めています。毎年１～２件の車同士の接触事故が起きていたが以下の取組を進める中で、2014 年度においては１件も事故が起きていません。ドライバー・歩行者共に駐車場でのマナーを守ろうとする意識も高まっています。

図-6　登降所時の主な交通手段（2014 年度）

東部保育所データ



全園児家庭の主な交通手段を割合で表しています。
８１％の家庭が自動車を利用し、自動車で登降所する家庭が大半を占めています。

２　安全対策

①　駐車スペースの拡大（指標３　3-1）

表-3　年度別駐車場利用状況（2012～2013 年）

	2012	2013	2014
駐車可能台数	１２	２８	２８
駐車場利用台数	９４	９９	９７

※車での登降所は３年間で増減はありませんが、2013 年に駐車スペースを増やすことで駐車率が上がっています。

②　送迎時一方通行規制（指標３　3-1）

駐車場の空きを待つ車で混雑し危険である為、送迎が混み合う時間帯のみ一方通行にすることにより、スムーズに安全に送迎出来るようにしています。

※一方通行にすることで道路に並ぶ駐車待ちの車の台数が減少しています。

③ 保護者への啓発活動 （指標３ 3-1）

近隣から登降所される家庭には、できるだけ徒歩や自転車を利用してもらえるように協力をお願いしています。

④ 交通指導 （指標３ 3-1）

亀岡警察署交通課や地域の安全活動推進員にチャイルドシート
ヘルメットの着用など、交通ルールについての指導をしていただいています。

⑤ 老人会むつみ会「見守り隊」（指標３ 3-1）

地域の老人会の方に玄関や駐車場で、園児や保護者の見守りをしていただいています。

⑥ 「駐車場では親子で手をつなごう」運動（指標３ 2-8）

駐車場内で子どもが車の死角に入ってしまったり、飛び出しをすることのないよう「駐車場では手をつなごう」を合言葉にしたり、約束事を書いた看板を表示し、園児と保護者が駐車場でのルールを共通理解し実施できるようにしています。

亀岡警察署交通課

安全活動推進員

老人会「見守り隊」

指標５　入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

１　課題を導く要因分析

図-3 図-4 図-5 のデータの結果から園舎外では運動場での転倒によるケガが５歳児に多く、園舎内では保育室での接触によるケガが全年齢に多いことが分かりました。

図-7　５歳児の転倒によるケガの部位（2011～2013 年度）

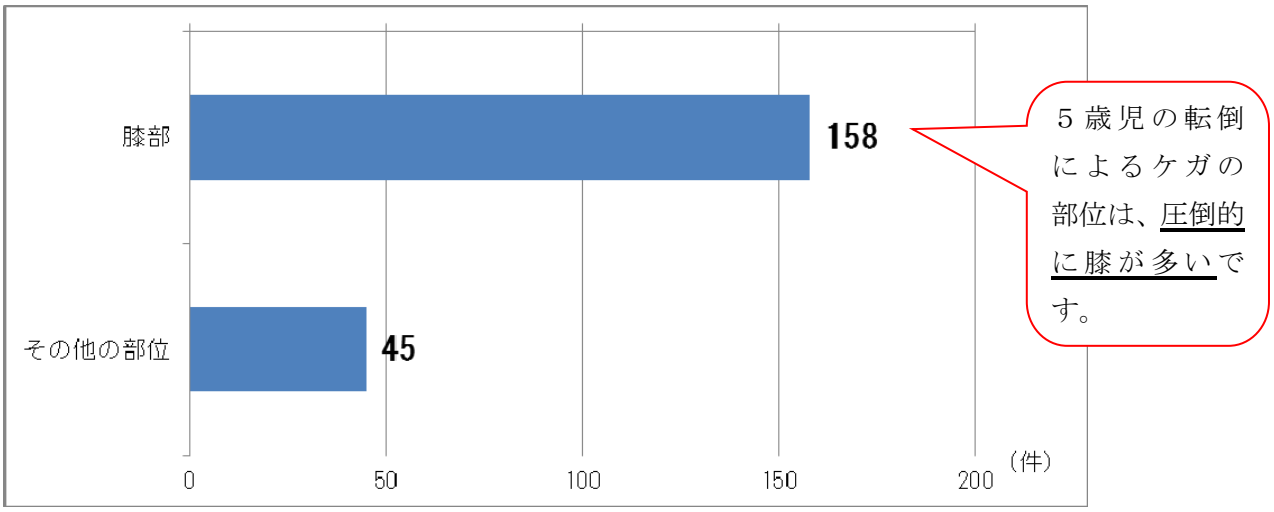


図-8　５歳児　運動場での転倒による膝の擦り傷の間接機転（2011～2013 年度）

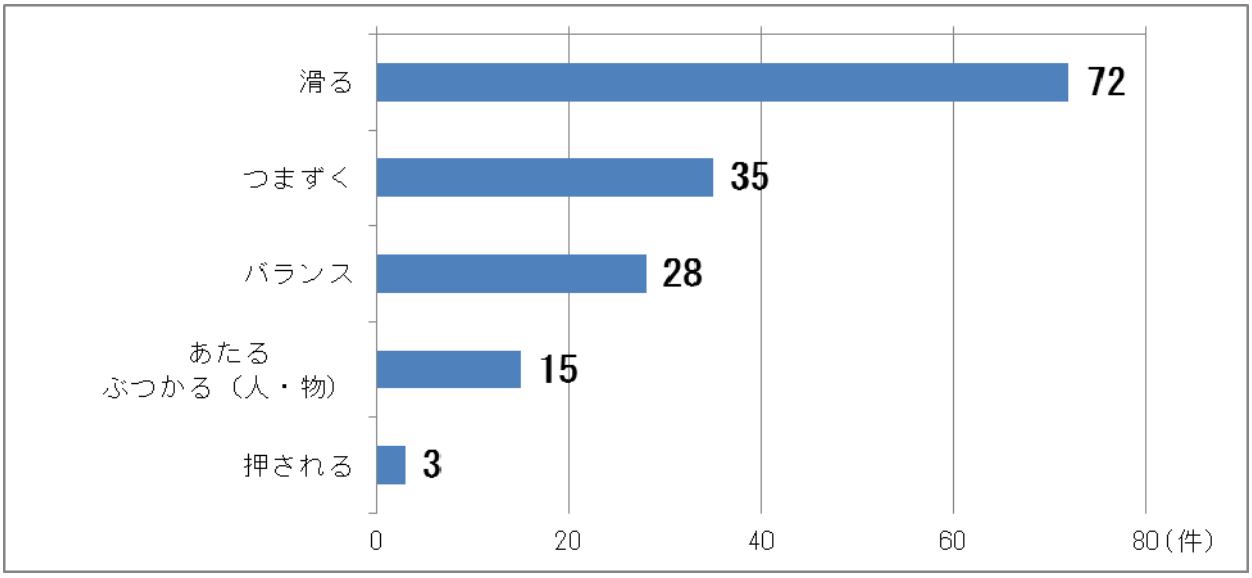
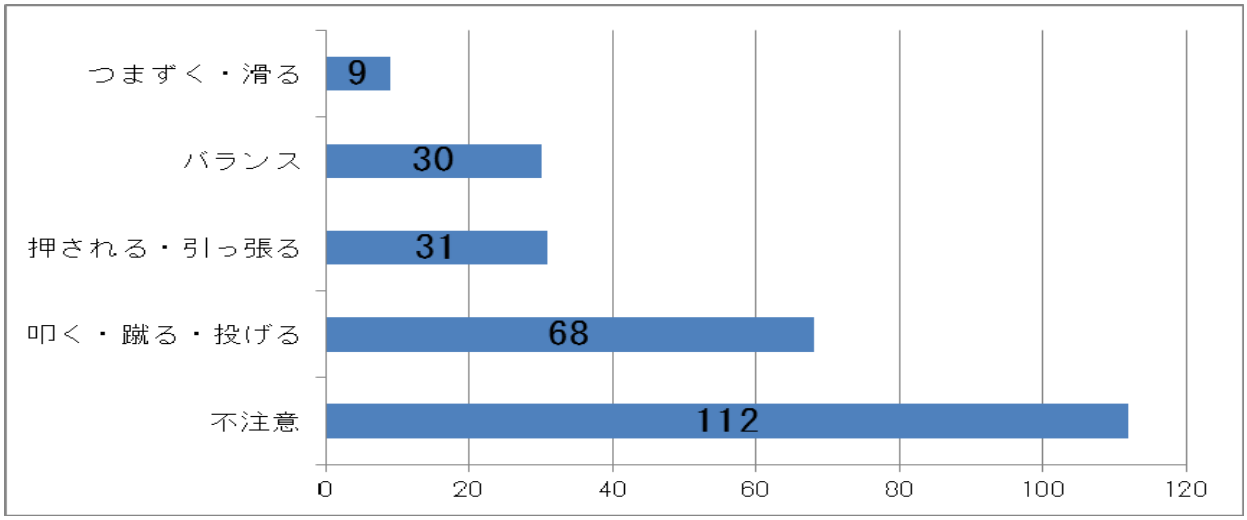


図-9　０～５歳児の保育室での接触によるケガの間接機転（2011～2013 年度）



重点課題

① 図-４　図-７ 図-８から運動場の転倒による膝のすり傷は５歳児に多く、原因は滑る・つまずく・バランスを崩すことであることがわかりました。運動場での転倒による膝のケガ(5 歳児)を減らすことが課題です。

② 図-５　図-９から保育室での接触によるケガが多く、原因は不注意によるものが多いことがわかりました。保育室での打撲によるケガ（０～5 歳児）を減らすことが課題です。

① ②の課題に対し環境改善プログラム・安全教育プログラム・体づくりプログラムの取組を進めていきます。

予防対象	課　題	対　策
① 運動場での転倒による膝のケガ	・危険箇所環境改善 ・園児の安全意識の向上 ・体力向上による危険回避能力の育成	・体づくりプログラム ・遊びのルールプログラム ・環境改善プログラム
② 保育室で接触によるケガ		

２　重点取組

体づくりプログラム

①リズム遊び・体操・・・
（指標３　1-1）
（バランス感覚）

背筋や腹筋、脚力を鍛え、たくましく柔軟な体を作ります。リズムに合わせて楽しみながら行い、子どもたち自身が自分の体の育ちを意識できるように指導しています。リズム遊びにより体幹を育てることで姿勢を保持する力や、バランス感覚を養っています。

②雑巾がけ・・・園児自身が生活空間をきれいにすることを目的に、５歳児が廊下の雑巾がけを行っています。活動する中で雑巾がけは、全身の運動機能を育て、体づくりに効果的であることがわかりました。また、手や足を充分に使い雑巾がけをすることによって筋力が育ち、前に倒れた時にケガをしない反射神経を育てることにも効果があると考え、取組を続けていきます。

（指標３　1-1）
（反射神経）

③手づくりおもちゃ遊び（指標 3　1-3）

竹馬（５歳児）

素材…竹製直径３㎝×１６０㎝
足台の高さ３０㎝（一節）

竹の太さは３㎝程度でとても細くなります。乗り台の高さは一節ごとに高さを調節できるのですが、一節３０㎝程度の高さになります。竹ぽっくり、天狗の下駄で養った経験やバランス感覚が竹馬の習得に生かされます。

難易度３

天狗の下駄（４歳児）

素材…木製足台１０㎝×１０㎝

乗り台は広く高さも竹ぽっくりと変わりませんが、一本歯になっており乗り板の真ん中でバランスを取ることが必要になります。地面との接地面積は竹ぽっくりに比べるとずい分狭く更にバランス感覚が必要になります。

難易度２

竹ぽっくり（３歳児）

素材…竹製の筒直径９㎝　高さ６㎝

直径９㎝程度の竹製の筒でできており、円柱型で乗り台は広く足の裏全体でバランスをとることができます。竹ぽっくりでは天狗の下駄や竹馬に乗るための基礎の力を養います。

難易度１

体幹とバランス感覚を育てる遊びの継続的なプログラム

ステップアップ

５歳児のケガを減らすために、３歳児から系統だてしたバランス感覚を養う遊びを取り入れています。

手づくりおもちゃの取組は３０年間積み重ねており、親子でおもちゃ作りをしていただくことで活動に対する保護者の関心を広げ、園児にとっても自分だけの特別感のあるおもちゃとなり、遊びに対する意欲が高まっています

遊びのルールプログラム (指標 3　2-1)

①「あるきましょう」「とまれ」表示

走ることによる転倒や人とのぶつかりを防ぐため、保育室や廊下ベランダに「かめのマーク」の表示や園児に歩くことを意識させます。

②運動場のエリアわけ表示

園児の衝突による転倒を予防するため、遊びの種類に合わせて運動場を区分して使用しています。

③長ズボン対策

運動場での膝の擦り傷を予防するため、戸外遊びの時には長ズボン履いて膝をカバーしています。

環境改善プログラム (指標 3 3-2)

①ベランダグリーンマット

ベランダでは靴の裏に付いた砂で滑ることが多いため、芝生状のマットで靴の裏の砂を除去しベランダや運動場での転倒を予防します。

ロッカーなどのコーナーカバー

保育室での接触によるケガを防ぐ為、室内のロッカーなどの角にクション材でカバーをしています。

②安全安心マップ

園児と養護師が園舎内・外でケガをした場所にシールを貼り危険箇所を確認や啓発をします。

指標７　予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

成果指標と効果の検証

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
環境改善プログラム	【指標】 危険箇所を知ることで、安全への意識を高める 【測定方法】 ケガマップのシールの場所数		【指標】 園内の危険箇所の減少 【測定方法】 環境改善数

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
遊びのルール プログラム	【指標】 集会に参加し安全面においてのルールを知り ルールを守って遊ぶ園児の増加 【測定方法】 ＩＳＳ集会の実施回数とルールの遵守度を見る		【指標】（図-12） 運動場・保育室でのケガの減少 【測定方法】 ケガの記録

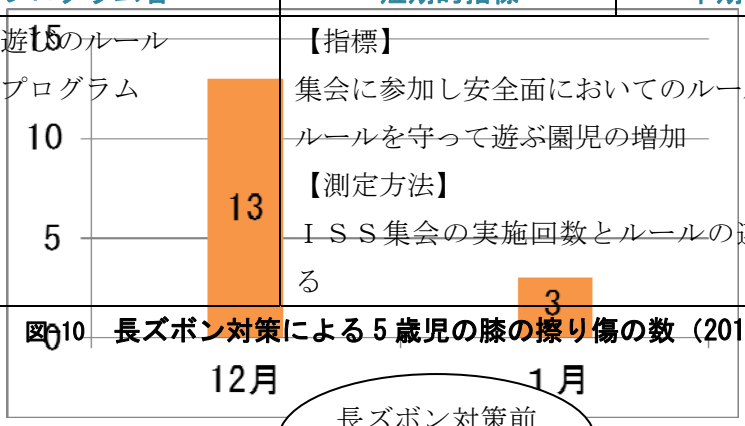


図-10　長ズボン対策による５歳児の膝の擦り傷の数（2014 年 12 月～2015 年 1 月）

東部保育所データ

長ズボン対策前
2014. 12

長ズボン対策後
2015. 1

※事前審査でアドバイスを受け実施しています。
長ズボン対策前後の５歳児の膝の擦り傷の件数を比較してみると４分の１以下に減少し、ケガ防止に大変効果的であることがわかります。

プログラム名	短期的指標	中期的指標	長期的指標
体づくりプログラム	【指標】 園児の筋力が向上し姿勢保持時間が伸びる 【測定方法】（図-11） バランス・背筋・腹筋の姿勢保持時間を測定		【指標】 運動場・保育室でのケガの減少 【測定方法】 ケガの記録

体力測定・・・
（指標３　1-2）

転倒による膝の擦り傷のケガが一番多い５歳児を対象に、作業療法士のアドバイスを受け体力測定を行っています。筋力やバランス感覚の育ちを見るための測定として、４項目（片足立ち・片足閉眼立ち・腹筋・背筋）を２カ月に１回行い効果を検証します。

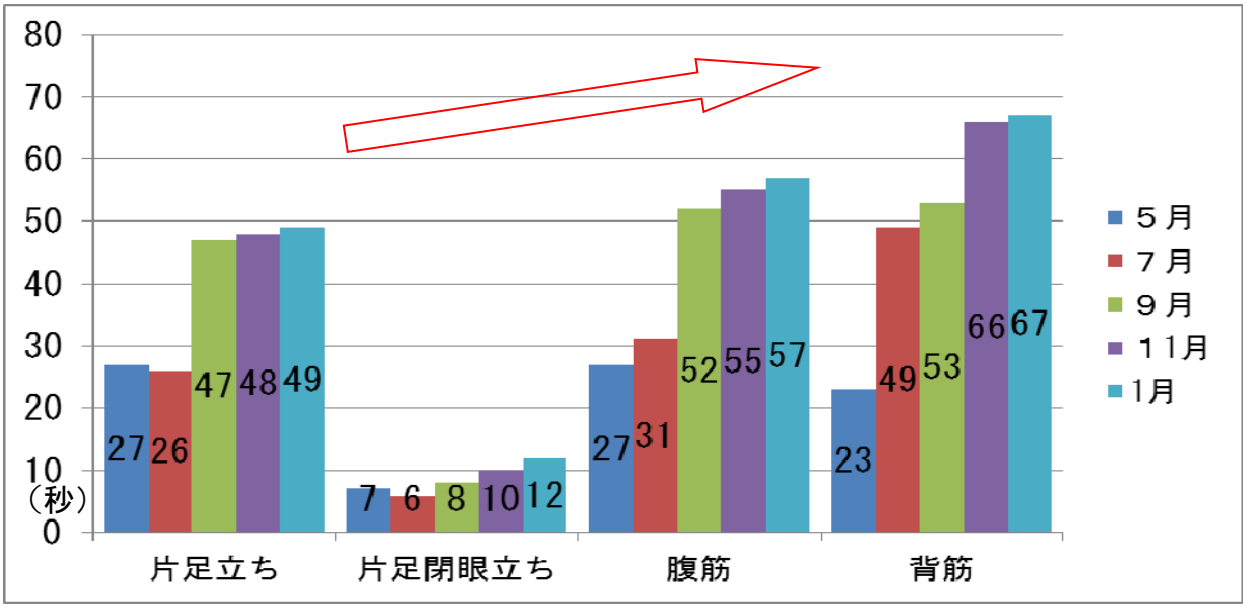
片足立ち

片足閉眼立ち

腹筋

背筋

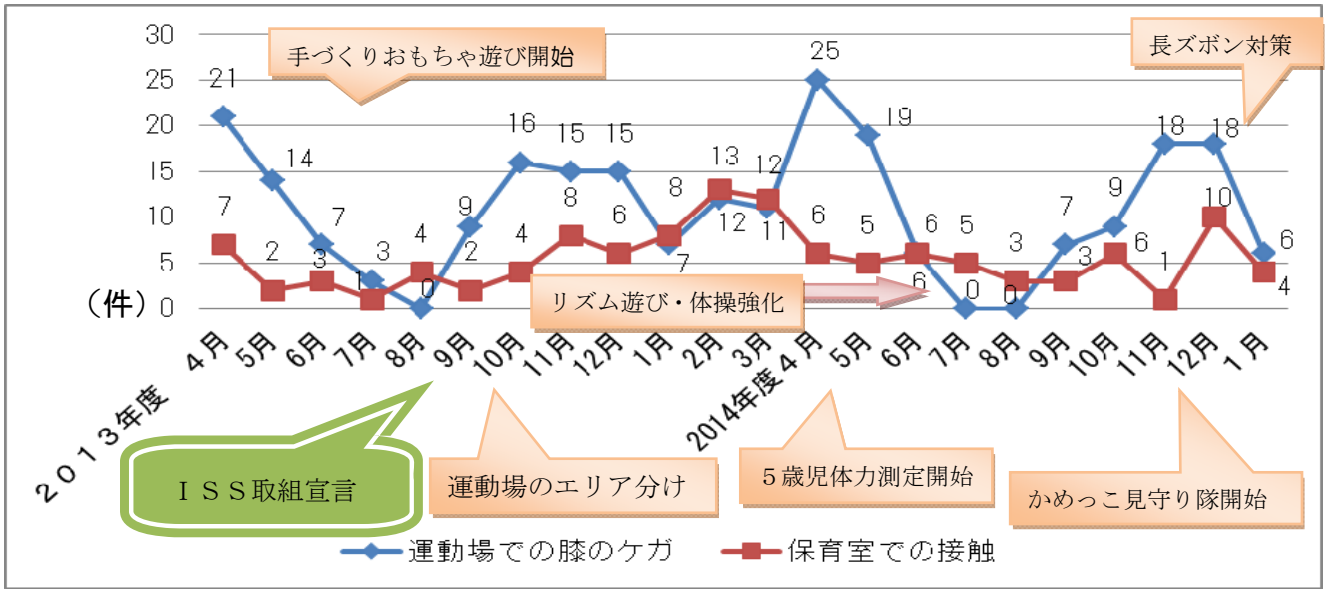
図-11　５歳児　測定による体力の変化（2014 年 5 月～2015 年 1 月）　東部保育所データより



※５月　７月　９月　１１月　１月　５回の測定結果です。回数を重ねるごとにそれぞれ姿勢保持時間が伸びています。

図-12　運動場の膝の擦り傷と保育室の接触の月別ケガ数とＩＳＳ活動の関連

（2013 年 4 月 ～ 2014 年 1 月）



ＩＳＳ活動開始前後の 2013 年 4 月～2015 年 1 月において、重点課題となる運動場の膝の擦り傷と保育室の接触によるケガとＩＳＳ活動との関連をグラフで表しています。年度初めの 4 月は新入園児が環境に慣れないこともあり、特に運動場でケガが増えています。環境や教育、体づくりなど様々な取組はケガ予防に直結して現れている取組と、継続的にみていく必要がある取組があります。今後それぞれの効果を検証し活動の方向性を考え進めていきます。

５　課題と今後にむけて

＊課題

園児のケガの大幅な減少が見られにくい

園児はリズムや体操を強化し行うことで、測定結果からみても体幹の育ちは見られますが、即効性はない為、大幅なケガの減少にはつながりにくいです。

職員のＩＳＳ活動に対する取組や知識の共有が不十分である

ＩＳＳ推進部のメンバーを中心に実行部である職員とともに進めてきましたが、担当する年齢や職種によっては積極的に実践しにくい現状もあり、取組に関わっている保育士や看護師の意識は高まっていますが、他の職種の職員などへの研修や啓発がまだ充分ではありません。今後職員全員が共通理解し、主体的にＩＳＳ活動を実施できるようになることが課題です。

ＩＳＳ活動について保護者の意識に差がある

ＩＳＳの啓発活動や実践を通して、保護者の理解は得られつつありますが、本来の趣旨や具体的な取組に対して、興味や知識をもたれている保護者とそうでない保護者があり、理解に差があります。

＊今後の計画・展望

体づくりプログラムの充実

園児の体づくりは即効性がなく、継続的な取組が必要であるので、引き続き体力向上の為のプログラムを充実・取組を進め、その取組結果がケガの減少につながるか検証していきます。

ＩＳＳ活動の継続・継承

体づくりや安全教育、環境改善などの取組について必要な手順や要点をマニュアル化するなどし、継承・継続の為のシステムを作っていきます。またＩＳＳ活動の実践を年間計画に入れ啓発や実践、学習が計画的に行うことができるようにしていきます。

保護者・地域への啓発と協同した活動の充実

保護者に対して参観日や保護者向け研修会で安全について学習する機会を作り、また安全意識についてのアンケートを実施し、安全意識の向上やＩＳＳの取組啓発を行います。また地域との取組では、近隣地域にある詳徳小学校の児童とともに、防災や防犯に関する取組などに参加することにより、

ＩＳＳ活動が小学校でも継続できるように意識啓発を行っていきます。